

平成 23 年 度

授 業 案 内

(シ ラ バ ス)

千 葉 大 学 大 学 院 看 護 学 研 究 科

この小冊子は、千葉大学大学院看護学研究科の平成22年度開講授業科目のシラバスです。専任教員が担当する下記の科目が含まれています。授業科目の選択や準備学習など学習を進める資料として、活用をしてください。本シラバスの記載事項について、分かり難い点や疑問点がある場合は、授業科目の担当教員に直接質問してください。

目次

博 士 前 期 課 程			博 士 後 期 課 程			修 士 課 程			専 門 看 護 師 強 化 コ ー ス		
授 業 科 目	期 別	頁	授 業 科 目	期 別	頁	授 業 科 目	期 別	頁	授 業 科 目	期 別	頁
基礎看護学Ⅰ	前期	1	基礎看護学特論Ⅰ	前期	52	病院看護システム管理学特論Ⅰ	前期	81	専門看護師のための最新病態学	前期	101
基礎看護学Ⅱ	後期	2	基礎看護学特論Ⅱ	前期	53	病院看護システム管理学特論Ⅱ	前期	82	専門看護師のための最新薬理学	前期集中	102
看護教育学Ⅰ	前期	3	基礎看護学特論Ⅲ	前期	54	病院看護システム管理学演習	通期	83	組織における高度実践看護論	通期集中	103
看護教育学Ⅱ	後期	4	基礎看護学特論Ⅳ	前期	55	ケア施設看護システム管理学特論Ⅰ	前期	84	コンサルテーション実践強化演習	後期集中	104
機能・代謝学Ⅰ	前期	5	機能・代謝学研究方法特論	前期	56	ケア施設看護システム管理学特論Ⅱ	前期	85	CNS研修	通期	105
機能・代謝学Ⅱ	後期	6	倫理学研究方法論	後期	57	ケア施設看護システム管理学演習	後期	86			
病態学Ⅰ	前期	7	基礎看護学特別演習(基礎看護学)	通期	58	地域看護システム管理学特論Ⅰ	前期	87			
病態学Ⅱ	後期	8	基礎看護学特別演習(看護教育学)	通期	59	地域看護システム管理学特論Ⅱ	前期	88			
母性看護学Ⅰ	前期	9	基礎看護学特別演習(看護病態学)	通期	60	地域看護システム管理学演習	2年次通期	89			
母性看護学Ⅱ	後期	10	基礎看護学特別演習(看護管理学)	前期	61	情報活用論	後期	90			
小児看護学Ⅰ	前期	11	母子看護学特論Ⅰ	前期	62	マネジメント実践論Ⅰ	前期	91			
小児看護学Ⅱ	後期	12	母子看護学特論Ⅱ		63	マネジメント実践論Ⅱ	後期	92			
成人看護学Ⅰ	前期	13	母子看護学特別演習(母性看護学)	通期	64	リスクマネジメント論	後期	93			
成人看護学Ⅱ	前期集中	14	母子看護学特別演習(小児看護学)	通期	65	看護継続教育論	後期	94			
老人看護学Ⅰ	前期	15	成人・老人看護学特論Ⅰ	前期	66	看護政策論	後期	95			
老人看護学Ⅱ	前期	16	成人・老人看護学特論Ⅱ	前期	67	看護生涯学習論	前期	96			
精神看護学Ⅰ	前期	17	成人・老人看護学特論Ⅲ	前期	68	家族支援方法論	前期	97			
精神看護学Ⅱ	後期	18	老年学研究方法論	後期	69	慢性病生活指導論	後期	98			
地域看護学Ⅰ	前期	19	呼吸循環生理研究方法論	前期	70	基礎情報活用論Ⅰ	前期	99			
地域看護学Ⅱ	前期	20	成人・老人看護学特別演習(成人看護学)	通期	71	基礎情報活用論Ⅱ	前期	100			
訪問看護学Ⅰ	前期	21	成人・老人看護学特別演習(老人看護学)	通期	72						
訪問看護学Ⅱ	後期	22	成人・老人看護学特別演習(精神看護学)	通期	73						
保健学Ⅰ	前期	23	地域看護学特論Ⅰ	前期	74						
保健学Ⅱ	後期	24	地域看護学特論Ⅱ	前期	75						
看護学演習Ⅰ・Ⅱ(基礎看護学)	通期	25	保健学研究方法特論	前期	76						
看護学演習Ⅰ・Ⅱ(看護教育学)	通期	26	継続教育研究方法論	後期	77						
看護学演習Ⅰ・Ⅱ(機能・代謝学)	通期	27	地域看護学特別演習(地域看護学)	通期	78						
看護学演習Ⅰ・Ⅱ(病態学)	通期	28	地域看護学特別演習(訪問看護学)	通期	79						
看護学演習Ⅰ(母性看護学)	通期	29	看護管理学Ⅱ	前期集中	80						
看護学演習Ⅱ(母性看護学)	通期	30									
看護学演習Ⅰ(小児看護学)	通期	31									
看護学演習Ⅱ(小児看護学)	通期	32									
看護学演習Ⅰ(成人看護学)	後期	33									
看護学演習Ⅱ(成人看護学)	後期	34									
看護学演習Ⅰ(老人看護学)	後期	35									
看護学演習Ⅱ(老人看護学)	後期	36									
看護学演習Ⅰ(精神看護学)	通期	37									
看護学演習Ⅱ(精神看護学)	通期	38									
看護学演習Ⅰ・Ⅱ(地域看護学)	通期	39									
看護学演習Ⅰ・Ⅱ(訪問看護学)	通期	40									
看護学演習Ⅰ・Ⅱ(保健学)	通期	41									
腫瘍医療ケアコーディネーション	後期	42									
看護管理学Ⅰ	前期	43									
ナーシングフィジカルアセスメント	後期集中	44									
看護実践方法論Ⅰ	前期集中	45									
看護実践方法論Ⅱ	前期集中	46									
看護学実習(母性看護学)	1年次後期～ 2年次前期	47									
看護学実習(小児看護学)	通期	48									
看護学実習(がん看護学)	通期	49									
看護学実習(老人看護学)	通期	50									
看護学実習(精神看護学)	通期	51									

授 業 科 目	基礎看護学Ⅰ Advanced Theoretical Nursing Ⅰ	責任教員 山本 利江	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	看護学における実践方法論の適用について理解することを通して、看護実践および研究能力を培う。							
到 達 目 標	1. 実践そのものを学制的な対象としてとらえるための基礎知識を学習する 2. 看護実践から研究素材を作成する方法を学習する 3. 研究素材の構造を、実践方法論の適用という観点から分析する方法を学習する 4. 実践方法論の適用という観点から分析された看護実践に対して、看護の質と社会的価値を考察する視点と方法を学習する							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 教 員
1～11回	自己の看護実践から、対象特性把握の方法、研究素材の条件および構造分析の方法を学ぶ		講義ならびに文献学習と個別指導、および基礎看護学教育研究分野所属の全教員および研究生との討議をとおして、対象特性把握に必要な理論と専門知識を統合する力を駆使して学習を進める。 自己の看護実践の中から、自己の問題意識にそって具体的な看護実践を記述した資料を作成する。作成過程で、必要時、助言を受ける。 資料について問題意識が明確であるか、看護学上意味のある問題意識であるか、その看護実践が一義的に再現できるかという観点から吟味し、その後、問題意識にそって構造分析を行う。資料の作成・報告および討議をとおして、看護の視点からの対象特性把握の方法や、看護実践そのものを学制的対象としてとらえるための研究素材の条件や、構造分析の方法について理解を深める。					山本
12～15回	他者の看護実践から、対象特性把握の方法、研究素材の条件および構造分析の方法を検討する		学生が提出した事例と対象特性の異なる看護実践事例を、教員および研究生が提出する。討議に際しては、その看護実践に直接関わった事例提供者の出席と、必要に応じての発言を求め、事例への直接的・間接的に関わる立場による対象把握の質的相違へと討議をすすめる、対象特性把握の方法の理解をさらに深める。					
	既存の研究から、研究素材の作成および構造分析の特徴を検討する		既存の研究論文を学生が随意に選択し、研究素材の作成過程と研究方法に焦点を当てて研究内容について分析した資料を作成する。 その論文における特徴と、看護実践そのものを学制的対象としてとらえるための研究素材の条件と構造分析の方法に関して理解した内容について発表し、討議を行う。					
	レポート		以上の学習をとおして、看護実践そのものを学制的対象としてとらえる研究方法論について、明確になったことと課題をレポートにまとめ、提出する。					
成績評価基準	課題発表および参加状況、ならびにレポートにより評価する							
教科書参考書等	木村秋則：リングが教えてくれたこと 日経プレミアシリーズ046, 日本経済新聞社, 2009 アン・マリナー・トメィ他：看護理論家とその業績 第3版, 医学書院, 2004 三浦つとむ：認識と言語の理論・第一部（新装版）, 勁草書房, 2002							
備 考								

授 業 科 目	基礎看護学Ⅱ Advanced Theoretical Nursing Ⅱ	責任教員 山本 利江	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	後期		
目 的		看護理論の学的分析方法について理解し、看護理論の発達過程と科学史との関連を学習する。						
到 達 目 標		1. 看護理論の学的分析方法を学習する 2. 看護理論の発達過程を科学史との関連において理解する						
回 数 (1回90分)		学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法				担 当 教 員
1～12回		看護理論の分析方法を理解する		講義ならびに文献学習と個別指導、および基礎看護学教育研究分野所属の全教員および研究生との討議をととして、看護理論を理解するために必要な学的方法論を意識化しながら学習を進める。 看護の理論開発に関する諸概念を学び、看護理論書の論理構成の特徴や理論家の経歴・時代背景から、理論開発の過程を分析する方法について理解する。看護理論家の中から1名以上を選択し、上記の方法を活用して理論開発の過程を実際に分析し、そのプロセスおよび成果を記述した資料を作成する。 作成した資料をもとに発表を行い、討議をととして看護理論の分析方法についての理解を深める。				山本
		看護諸理論について、それぞれの特徴を理解し、理論の実践への適用と評価について学習する		とりあげられなかった主要な看護理論のうち傾向の異なる複数の看護理論について、教員および研究生による発表に基づき、各々の看護理論の特徴について討議する。 分析対象となった看護理論の実践への適用例をもとに看護理論の実践への適用と評価の方法について学習し、各看護理論の実践への有用性と限界について討議する。				
		看護理論の発達過程を学習する		とりあげられた各看護理論について、理論開発過程の共通性・相異性を比較検討し、それらを年代順に整理した資料の作成および発表を行い、討議をととして看護理論の発達過程を理解する。				
13～15回		科学史における理論開発の変遷を学び、看護学における看護理論開発を科学史との関連において位置づけ、理解する レポート		看護技術論の基礎となった技術論に関する文献を精読し、理論開発の変遷という観点から科学史を概観する資料を作成する。資料に基づいて、理論開発の普遍性と、学習した看護理論の発達過程について看護学の特殊性をふまえた考察を発表し、それについて討議を行う。 学習した看護理論の位置づけと、今後の理論開発の方向性についてレポートをまとめ提出する。				
成績評価 基 準	課題発表および参加状況、ならびにレポートにより評価する							
教科書 参考書 等	Marriner・Tomey,A.ed:Nursing Theorists and Their Work,7th ed.,Mosby,2009 武谷三男：弁証法の諸問題，勁草書房，1968 および基礎看護学Ⅰで使用した文献							
備 考								

授 業 科 目	看護教育学Ⅰ Advanced Nursing Education Ⅰ	責任教員 舟島なをみ	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	看護学教員・専門看護師等の役割を担う看護職者が教育的機能を果たすために必要な要件を理解し、教育・実践領域において系統的な教育活動を展開できる能力を習得する。							
到 達 目 標	1. 教育学の基礎理論を学習し、看護学教員・専門看護師等の役割を担う看護職者が教育的機能を果たすための基盤となる知識を得る。 2. 看護教育学の全体構造及び看護教育学各論を学習し、看護学教員・専門看護師等の役割を担う看護職者が、教育活動を展開するために必要な基本的知識・技術を習得する。 3. 1. 2. を前提に、質の高い看護基礎・卒後・継続教育(スタッフ開発・現任教育を含む)、患者教育を展開するために、教育計画の立案、実施、評価、計画修正の実際を理解する。							
回 数 (1回90分)		学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法				担 当 員
1 回		看護教育学概論 1 授業の意義・学習方法の理解		・授業の目的・目標、授業展開の理解とグループ編成 各自の関心により次の3グループを編成する。 A. 看護基礎教育グループ B. 看護卒後教育グループ C. 看護継続教育（スタッフ開発・現任教育を含む）・患者教育グループ *専門看護師認定試験受験を希望する者は、Cグループに所属することが望ましい。				舟島 中山
2 回		看護教育学概論 2 看護教育学の基本的知識の理解		・看護職者が質の高い看護基礎・卒後・継続教育、患者教育を展開するための基本的な知識の理解と活用（講義及び討議） ①教育プログラムの編成 ②教育方法 ③教育評価 ④教育と倫理的配慮				
3～14回		教育学の基礎理論の理解と看護基礎・卒後・継続教育、患者教育への統合		・教育学の基礎理論に対する理解と看護基礎・卒後・継続教育、患者教育への統合 ①課題図書の特読と批評により、教育学の基礎理論に関する正しい知識を得る。 ②教育学の基礎理論に基づき、看護基礎・卒後・継続教育、患者教育各々の対象の特徴と照合する。(グループ討議) ③②の成果を各教育の目的と特徴・役割、各教育の有機的関連と問題の解決（事例分析を含む）へと統合する。 (グループ討議の成果発表と全体討議) 準備学習：毎回、全学生は、課題図書および関連文献の特読を通して、内容を正確に理解する。また、疑問点や理解を深めたい点を明確にし授業に参加する。担当者は、学習内容を要約し資料（A3判用紙1枚）にまとめ提出する。				
15回		まとめ		・看護基礎・卒後・継続教育、患者教育の展開に向けて、対象の特徴を反映し、かつニーズを充足しうる教育計画の立案、実施、評価、計画修正の実際について討議する。 ①グループ討議と成果の発表 ②問題の共有と解決への方向付け				
成績評価 基 準		プレゼンテーションとその資料（10%）、グループ討議および全体討議への参加状況（20%）、コース終了後のレポート、もしくは筆記試験（70%）						
教科書 参考書 等		〈課題図書〉 ・J.S.ブルーナー（鈴木祥蔵他訳）：教育の過程、岩波書店 ・B.S.ブルーム他（梶田叡一他訳）：教育評価法ハンドブック、第一法規 ・G.トレス他（近藤潤子他訳）：看護教育カリキュラムーその作成過程ー、医学書院 ・舟島なをみ編集：院内教育プログラムの立案・実施・評価ー「日本型キャリア・ディベロップメント支援システムの活用」、医学書院 〈参考図書〉 ・杉森みど里・舟島なをみ：看護教育学、第4版増補版、医学書院 ・I.M.キング（杉森みど里訳）：キング看護理論、医学書院 ・M.H.オーマン他（舟島なをみ監訳）：看護学教育における講義・演習・実習の評価、医学書院 ・舟島なをみ監修：看護実践・教育のための測定用具ファイル第2版ー開発過程から活用の実際まで、医学書院 ・N.I.ホイットマン他（安酸史子監訳）：ナースのための患者教育と健康教育、医学書院						
備 考		専門看護師認定試験受験を希望する者は履修する。 看護教育学Ⅱを継続して受講することにより、高いレベルの学習への統合を旨とすることが可能である。						

授 業 目 的	看護教育学Ⅱ Advanced Nursing Education Ⅱ	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
		舟島なをみ	時間数	30	受講セメスター	後期		
目 的	教育学及び看護教育学の理論を適用して看護基礎・卒後教育カリキュラムあるいは看護継続教育プログラムを編成し、その内容に関する模擬授業を展開することを通して、看護基礎・卒後教育カリキュラムあるいは看護継続教育プログラム編成・運用の実際と看護学教育活動の展開を理解する。							
到 達 目 標	1. 看護基礎・卒後教育カリキュラムあるいは看護継続教育プログラム編成の実際を体験し、その展開に必要な基本的知識を習得する。 2. 「看護学教育授業展開論」及び教育学の理論を活用して模擬授業を展開し、看護職者の能力向上を目指す教授活動について論述する。 3. 1. 2. に基づき、看護基礎・卒後・継続教育における教育活動の展開及び教育カリキュラム編成・運用の方法を説明する。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 教 員
1～4回	課題と目標の理解 教育カリキュラム編成の実際：方向付け段階の理解		・学習課題の説明および目標の提示、参考図書の紹介、グループ編成 ・看護基礎・卒後教育における統合カリキュラム、院内教育プログラム編成に関わる基本的知識を活用し、グループ学習を通して、仮設看護系大学、仮設病院などの設置計画を立案し、総合カリキュラム、あるいは院内教育プログラム、患者教育プログラムの構想を立案する。					舟島 中山
5回	プレゼンテーション1 〈方向付け段階〉		・構想した仮設看護系大学、あるいは仮設病院の設置計画を発表し、それらの大学、あるいは病院の設置意義及び必要性を議論する。					
6～8回	教育カリキュラム編成の実際：方向付け段階の再検討と形成段階に向けた資料作成		・グループ学習を通して、仮設看護系大学、仮設病院の設置計画に基づき、統合カリキュラム、あるいは院内教育プログラム、患者教育プログラムの教育目的・目標の設定、理論的枠組み、継続教育対象者の教育ニーズ、学習ニーズ診断等、統合カリキュラム、あるいは院内教育プログラムの編成に必要な資料を作成する。					
9～10回	教育カリキュラム編成の実際：形成段階の理解		・グループ学習を通して、仮設看護系大学、仮設病院の設置計画に基づき、統合カリキュラム、あるいは院内教育プログラム、患者教育プログラムを編成する。					
11回	プレゼンテーション2 〈形成段階〉		・編成した統合カリキュラム、あるいは院内教育プログラム、患者教育プログラムを発表し、その有用性と問題点、今後検討が必要な課題について議論する。					
12～13回	教育カリキュラム編成の実際：実施段階の理解		・「看護学教育授業展開論」及び教育学の理論を適用し、実際の授業展開に必要な基礎的知識を活用し、編成した統合カリキュラム、あるいは院内教育プログラム、患者教育プログラムを構成する教育内容の一つを取り上げ、それに関する授業の準備を体験する。					
14回	プレゼンテーション3 〈模擬授業の展開〉		・15分間の模擬授業を展開する。また、授業の改善に向けて、実施した授業を評価する方法についても検討する。					
15回	まとめ		・第1回から第14回の授業を通して、看護基礎・卒後・継続教育における教育活動の展開とカリキュラム、あるいは教育プログラム編成と運用の方法について理解した内容を発表し、その有用性と課題について議論する。 準備学習：毎回、関連文献を精読し、その理解に基づきグループ討議を行う。また、必要に応じて授業外時間を活用し、グループ討議を展開しながら計画的に学習を進める。					
成績評価基準	次のレポートを提出する。①グループ学習を通して作成した統合カリキュラム、あるいは院内教育プログラム、患者教育プログラムの編成資料（30%）、②展開された模擬授業の実施計画（25%）、③授業を通して学習した内容（45%）をまとめたレポート							
教科書参考書等	・G.トレス他（近藤潤子他訳）：看護教育カリキュラムーその作成過程ー，医学書院 ・杉森みどり・舟島なをみ：看護教育学，第4版増補版，医学書院 ・舟島なをみ編集：院内教育プログラムの立案・実施・評価ー「日本型キャリア・ディベロップメント支援システムの活用」，医学書院 ・J.S.ブルーナー（鈴木祥蔵他訳）：教育の過程，岩波書店 ・B.S.ブルーム他（梶田叡一他訳）：教育評価法ハンドブック，第一法規							
備 考	学生が主体となり、関連文献を用いたグループ討議を通して学習を進める。 看護教育学Ⅰに引き続いて受講することにより、高いレベルの学習への統合を目指すことが可能である。							

授 業 目 的	機能・代謝学 I Advanced Physiology and Biochemistry (感情と行動の脳システム形態機能学)	責任教員 山田 重行	単位数	2	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	「感じる、心の内で思う、頭の中で考える、これらに触発されて行動する」、こういったことが脳のどこでどのようになされているのかについて、神経解剖学、分子生物学、神経生物学、精神薬理学、精神神経免疫内分泌学、認知神経科学などからの最新知識を収集し、整理・統合して作った講義ノートを用いてわかりやすく解説する。							
到 達 目 標	ヒトを人間たらしめている感情や行動の発現に関係する脳のしくみとはたらきに関する諸知識を看護学的視点から理解でき、それらを看護実践に活かせるように統合する。							
回 数 (1回90分)		学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法				担 教 当 員
1		・ 神経細胞の構造と機能		・ 様々な神経細胞、グリア細胞、シナプス、シナプス伝達に関係する諸段階				全 山 田 が 担 当
1		・ 脳の構造		・ 大脳皮質、大脳基底核、大脳辺縁系、扁桃体、海馬、視床、視床下部 脳幹				
2		・ 情動反応と感情		・ 情動の認知・覚醒モデル、扁桃体と情動、情動と感情と心（魂）、脳システムと3つの「こころ」の関係				
2		・ 視覚		・ 右脳による視覚処理、顔の認識、表情、ミラーニューロン・表情が伝染する説				
3		・ 心と体の相互作用		・ 条件づけによる免疫抑制、パブロフの刺激置換理論				
3		・ 痛み		・ 幻肢、錯覚体験、痛みの緩和、ゲートコントロール理論、思い込みによる痛みの軽減、痛覚失象徴				
4		・ 食欲・性欲		・ グルコースに反応するニューロン、性行動の男女差、女の脳と男の脳				
5～6		・ 記憶		・ 記憶の仕組み、ヘブの法則、長期増強、長期増強とグルタミン酸受容体、長期抑圧、短期記憶と作業記憶、記憶の保存・想起・喪失、学習によって神経細胞は新生するか？、人間に1.3 kgもの脳はいらない？				
7		・ 恐怖		・ 恐怖が強い記憶を形成する理由、過去の記憶に苦しめられるPTSD				
8～9		・ 自閉症・注意欠陥多動障害(ADHD)、うつ病		・ 前頭前野の活動不良と自閉症、自閉症児の行動、ADHDの薬物療法、うつ病患者の脳活動、西洋オトギリ草によるうつ病の治療				
10		・ 意識は心身をコントロールする		・ 自由意志の脳内発現、社会ステータスによる脳の形態変化、格差症候群、意識は進化した脳の産物				
11		・ ドパミン神経系		・ 分布・投射、ドパミン受容体、ドパミンと報酬系、情動行動と中脳辺縁系ドパミン路、不安と中脳皮質ドパミン路、ドパミンと統合失調症との関係				
12		・ セロトニン神経系		・ 分布・投射・活動、セロトニン受容体、シナプス形成維持機能を調節するセロトニン受容体、セロトニンの運動ニューロンに対する促通作用、不安とセロトニン受容体、偏頭痛とセロトニン受容体作動薬、疲労へのセロトニン神経系の関与、ストレス反応系とセロトニン、脳・腸相関とセロトニン、ストレス応答の分子メカニズム				
13		・ ノルアドレナリン神経系		・ 分布・投射・活動、アドレナリン受容体、扁桃体への投射の機能的意義、青斑核ノルアドレナリン神経とパニック発作との関係、青斑核ノルアドレナリン神経と室傍核CRF細胞との関係、抗精神病薬SDAとドパミン・セロトニン・ノルアドレナリンとの関係				
14		・ コリン作動性神経系		・ 分布・投射、アセチルコリン受容体、コリン作動性神経とPGO波、コリン作動性・アミン作動性神経のシーソーモデルと異常な睡眠、ムスカリン様アセチルコリン受容体の学習・記憶による変動				
15		・ ヒスタミン神経系		・ 分布・投射・活動、ヒスタミン神経と乗り物酔いとの関係、ヒスタミン神経のエネルギー代謝調節への影響				
成績評価基準	授業の出席、発言状況、レポートを総合して評価する。							
教科書参考書等	担当教員が作成した電子テキスト（感情と行動の脳システム形態機能学）を使用する。							
備 考	電子テキストをCDで無償配布するので、教室にパソコンを携帯することが望ましい。							

授 業 目 的	機能・代謝学Ⅱ Advanced Physiology and Biochemistry Ⅱ	責任教員 田中 裕二	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可	
			時間数	30	受講セメスター	後期			
目 的	授業のテーマは「からだの生化学」で、ヒトのからだで起こる生理現象について、生理学、生化学および栄養学的な視点も含めて分子生物学的な理解を深める。								
到達 目 標	体のしくみを機能・代謝学的視点から理解し、看護実践に応用できるようになる。								
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員	
1 回	オリエンテーション	講義内容の説明						田中	
2 回	エネルギー代謝	ヒトのからだにおけるエネルギー代謝の意味 ATPの合成系および消費系の概要							
3 回	ATP消費系	生体構成成分の合成、能動輸送、細胞運動 細胞内シグナル伝達系におけるATPの役割、熱の産生							
4 回、 5 回	糖代謝 1－ATP産生	解糖作用、クエン酸回路（トリカルボン酸サイクル） ミトコンドリアの電子伝達系と酸化的リン酸化 ミトコンドリアの構造とその他の機能							
6 回、 7 回	糖代謝 2－糖の相互転換と新生	ペントースリン酸回路、糖の誘導体 グリコーゲンの合成と分解、糖新生、摂食空腹サイクル 糖尿病							
8 回、 9 回	脂質代謝	脂肪酸酸化、脂肪酸合成、リン脂質と糖脂質の代謝 脂肪酸の不飽和化と必須脂肪酸、コレステロール 脂質の移送と貯蔵、脂質代謝異常							
10回～12回	蛋白質の分解およびアミノ酸代謝	アミノ酸の窒素代謝、アミノ酸の炭素骨格の代謝 アミノ酸から誘導される蛋白質以外の生体構成成分 ポルフィリンの生合成と分解、ヌクレオチドの代謝 アミノ酸代謝異常							
13回、 14回	蛋白質および核酸の合成	RNAの合成－転写－、蛋白質の合成－翻訳－ 蛋白質のプロセッシング、DNAの複製、遺伝疾患							
15回	まとめ								
成績評価 基 準	授業の出席・発言状況、課題レポートを総合して評価する。								
教科書 参考書 等	田川邦夫：からだの生化学（第2版改訂版）、タカラバイオ株式会社、2008。 田川邦夫：からだの働きからみる代謝の栄養学、タカラバイオ株式会社、2003。								
備 考									

授 業 科 目	病態学Ⅰ Advanced Pathobiology Ⅰ	責任教員 岡田 忍	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	微生物が侵入してから，感染が成立するまでの過程について理解を深めることにより，感染症患者のケアや，微生物で汚染した物品の処理や管理についての基礎を学ぶ.							
到 達 目 標	各侵入門戸における生体防御のしくみと，それを突破する微生物の性質，すなわち病原性について論述できる.							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1 回	ガイダンス	前期（病態学Ⅰ），後期（病態学Ⅱ）の内容説明 感染症成立の概論						岡田
2～4 回	微生物と生体表面の関係	微生物のヒトへの侵入に関わる因子や各侵入門戸に備わったヒトの生体の部位による侵入防御機構，その破綻などによる微生物と生体の関連について						
5～6 回	上皮内の微生物	上皮内への侵入直後の微生物の働きと感染症成立について						
7～9 回	食細胞と微生物の関連	生体内に侵入した微生物に対する防御機構の一つとしての食細胞の働きについて						
10～15回	微生物の生体内での拡散	生体の構造を利用した微生物の拡散の機構と標的細胞への到達と感染成立について						
成績評価 基 準	毎回の討論より.							
教科書 参考書 等	Mims' Pathogenesis of Infestious Disease.5th edition							
備 考	欧文のテキストやプリントを用いるが，Ciscussion中心にします. 生理学，生化学，微生物学，免疫学，病理学の基礎知識.							

授 業 科 目	病態学Ⅱ Advanced Pathobiology Ⅱ	責任教員 岡田 忍	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	後期		
目 的	感染症成立のメカニズムの理解を深めることにより，感染症患者のケアや，微生物汚染物の処理や管理についての基礎を学ぶ．特に，感染が成立してから，宿主がどのような免疫応答を示し，微生物が，これにどう対抗するかを学ぶ．							
到 達 目 標	微生物に対する防御機構（獲得免疫）について，細胞レベルで論述できる． 感染症の病態について，細胞レベルで論述でき，人間に起こっている現象と関連づけることができる．							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1～5回	感染症に対する免疫機構	細菌，ウイルスに対する免疫機構の働きの違い．						岡田
6～10回	微生物の免疫機構に対する挑戦	微生物の生き残りをかけた不思議な逃亡策，あるいは激しい挑戦について．						
11～13回	感染による細胞傷害	細胞傷害のメカニズムと持続感染キャリアーについて．						
14～15回	感染症からの脱出	免疫機構の働きや機械的排除などの因子と回復との関連，免疫の獲得や再感染の在り方について．						
成績評価基準	毎回の討論より．							
教科書 参考書 等	Mims' Pathogenesis of Infestious Disease.5th edition							
備 考	欧文のテキストやプリントを用いるが，Ciscussion中心にします． 生理学，生化学，微生物学，免疫学，病理学の基礎知識．							

授 業 科 目	母性看護学Ⅰ Advanced Maternity Nursing Ⅰ	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
		森 恵美	時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	すべてのライフステージにある女性のReproductive Healthの状態を適切に診断し、対象者の生活や健康問題への反応を的確に把握するために必要な理論と知識を学習し、本看護領域における理論や研究成果の活用方法を理解する。							
到達 目 標	1. 母性看護の対象者及び家族を適切に把握するための理論を学ぶ。 2. 思春期、成熟期、更年期にある女性のReproductiv Healthに影響する諸因子について理解し、対象者の健康問題や生活の特徴をアセスメントする知識を修得する。 3. 母性看護の必要な対象者について理論的根拠に基づいた高度な看護実践を行うための知識を学び、個別性に応じた看護方法、今後の研究課題について考察することができる。 4. 女性、妊産褥婦・新生児並びにその家族を中心とした母子ヘルスケアシステムの実態と課題について理解することができる。							
回 数 (1回90分)		学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法				担 当 員
1 回		母性看護に関連する理論や研究成果の適用		母性看護において適用されている代表的な理論や研究成果を適用する意義を理解し、本授業における各自の学習目的・学習目標を明確にする。				森坂上
2 回		出生前診断・ケアと倫理的問題		文献、ケア提供者・受益者の意見、法制度等をとおして、妊婦に対して行われている超音波診断の方法とその限界を知り、それに付随する倫理的問題を考察し、出生前診断を受ける対象者のアセスメントやケアの方向性を検討する。				
3～4 回		母親役割理論の母性看護への適用		主要な母親役割理論や原著論文を検討することを通して、母親役割獲得過程や母親としてのアイデンティティをアセスメントする視点や対象把握について理解を深める。				
5～6 回		疼痛コントロール理論、ストレス・コーピング理論等の母性看護への適用		産婦（胎児も含む）の健康状態を診断する際に重要な理論（疼痛コントロール理論、胎児モニタリング診断に関する知識等）について、文献、あるいはその分野の専門家からの情報提供や事例検討をとおして学び、母性看護や助産診断の視点から検討する。				
7 回		胎児・新生児のアセスメント		胎児・新生児の発達・成長と系統的アセスメント方法を学習する。				
8 回		家族システム理論、家族ストレス対処理論と母性看護		家族システム理論、家族ストレス対処理論などを学び、育児期にある家族のアセスメント方法を学習する。				
9 回		各期の女性のライフスタイルと健康問題		生物学的性差だけでなくジェンダーの視点から、各期の女性のライフスタイルと健康問題の関係を理解し、ヘルスアセスメント方法を学ぶ。				
10～14回		リプロダクティブ・ヘルス／ライツの概念と母性看護 ①Reproductive Health/Rights ②避妊法と避妊指導 ③性感染症と予防 ④不妊症とART ⑤人工妊娠中絶と看護		ヘルスケア提供者・受益者の意見、法制度、文献等をとおして、リプロダクティブ・ヘルス／ライツの概念等を理解する。受胎調整法・不妊治療等に付随する倫理的問題や看護上の問題を考察し、この領域における女性と家族のアセスメントやケアの方向性、ヘルスケアシステムの構築について検討する。				
15回		母子保健医療福祉制度、生涯にわたる女性の健康づくりに関する政策、関連法規		日本の母子や女性の健康生活を支えるヘルスケアシステムの成り立ちについて文献より理解し、保健統計資料の分析や諸外国との比較により、今後のヘルスケアシステムのあり方を討議する。				
成績評価 基 準	授業時に提出された資料、授業への出席態度、課題レポートを総合して評価する。							
教科書 参考書 等	参考文献 Fawcett, J., Downs, F. S. :The Relationship of Theory and Research(2nd ed.), F. A. Davis Co., 1992 Mercer, R. T.:Becoming a Mother, Springer Publishing Co., 1995 Thompson, J. E. et, al: Educating Advanced Practice Nurses and Midwives from Practice to Teaching, Springer Publishing Co., 2001 その他、授業の都度、紹介する。							
備 考	森がサバティカル研究研修制度の期間中である為、本年度は後期セメスターの予定。							

授 業 目 的	母性看護学Ⅱ Advanced Maternity Nursing Ⅱ	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
		森 恵美	時間数	30	受講セメスター	後期		
目 的	思春期，成熟期，更年期にある女性を対象に，母性としての健康生活に影響する諸因子について理解し，次代の健全育成のために必要な看護の主要な問題について看護方法を検討し，この領域における研究課題を考察する.							
到達目標	1. 思春期，成熟期，更年期にある女性及び家族を適切に把握するための理論を学び，母性看護のあり方を考察することができる. 2. 理論的根拠に基づいた看護実践を行うための知識を学び，看護方法，今後の研究課題について考察することができる. 3. 女性並びにその家族を中心としたヘルスケアシステムを構築し，運営・実践するために必要な知識として，女性の健康生活を支える医療保健福祉制度・政策・他の専門職種等との連携システム等を理解することができる.							
回数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担当 教 員
1 回	女性のライフサイクルと母性看護に関連する理論	女性のライフサイクルの特殊性を理解した上で，健康生活に関わる理論を看護実践や研究に適用する意義を理解し，本授業における各自の学習目的，学習目標を明確にする.						森 坂 上
2～5 回	ヘルスプロモーション理論と母性看護への適用	ヘルスプロモーションについて文献を通して理解を深める. ヘルスプロモーションの概念を用いた研究論文より，理論の適用方法や，女性の健康生活に関する看護の方向性及びその効果の検証方法や研究成果の適用について討議する. さらに，ヘルスプロモーションに関連する学生自身の看護経験を資料として提示し，対象者をアセスメントする視点や看護援助のあり方，ヘルスケアシステムの構築について討議を重ね理解を深める.						
6～14回	リプロダクティブ・ヘルスの概念と母性看護	文献，ヘルスケア提供者・受益者の意見，法制度等をとおして，リプロダクティブ・ヘルスの概念等を理解し，受胎調整法・不妊治療に付随する倫理的問題や看護問題を考察し，この領域における女性と家族のアセスメントやケアの方向性，ヘルスケアシステムの構築について検討する. 不妊女性に関する研究論文より，理論の適用や看護方法と今後の研究課題を検討する.						
成績評価基準	授業時に提出された資料，授業への出席態度，課題レポートを総合して評価する.							
教科書 参考書 等	参考文献 Fawcett, J., Downs, F. S. :The Relationship of Theory and Research(2nd ed.), F. A. Davis Co., 1992 Pender, N. J.:Health Promotion in Nursing Practice(3rd.ed.), Applenton&Lange, 1996 その他，授業の都度，紹介する.							
備 考								

授 業 科 目	小児看護学Ⅰ Advanced Child Nursing Ⅰ	責任教員 中村 伸枝	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
			時間数	30－45	受講セメスター	前期		
目 的	・成長発達理論や家族理論，セルフケア理論， コーピング理論等， 小児看護の基盤を成す理論について理解を深める.							
到 達 目 標	・小児の成長・発達，健康状態を専門的方法を用い， 独自に判断できる. ・小児やその家族の生活状況，セルフケア能力を判断できる.							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 員
1 回	授業内容のオリエンテーション		・小児看護における理論の位置づけについて理解する.					中村 佐藤
2 回	小児看護の専門性について学ぶ		・看護の専門性について書かれた文献を基に，小児看護の専門性を，自身の看護実践体験と照合させながら提示し，討議を通して理解を深める.					
3～6 回	家族理論について学び小児看護における家族中心の看護のあり方を考える		・代表的な家族理論について，文献を通して理解を深める. ・家族の状態や，家族に対する看護援助の効果を包括的に査定するための方略について理解を深める. ・家族援助に関連する自身の看護実戦経験を提示し，家族を中心とした看護援助のあり方について，討議を通して理解を深める.					
7～11回	成長発達理論について学び小児看護における成長発達の評価方法を学ぶ		・新生児期から思春期にわたる成長発達に関する代表的な理論について文献を通して理解を深める. ・小児の成長発達評価やフィジカルアセスメントについて学び小児の成長発達や健康状態を包括的に査定するための方略について理解を深める.					
12～15回	小児と家族のセルフケア理論やコーピング理論の看護実践への適用方法について学ぶ CNSを希望する学生については以下の学習課題を行う(15時間)		・小児とその家族のセルフケアやコーピング等に関する理論について文献を通して理解を深める. ・自身の看護実践経験と文献学習を照合させながら提示し，討議を通して理解を深める. ・健康上の問題をもつ小児について，成長発達・健康状態の評価を行い，専門看護師としての援助のありかたを考察する. 具体的なケースについて評価を行い，援助指針を作成する.					
成績評価基準	授業の際に提示された資料，参加状況，及びレポートにより評価を行う.							
教科書参考書等	■Wong,D.L.:Nursing Care of Infants and Children(9th ed.),Mosby,2010 ■Potts,N.L.,Mandleco,B.L.:Pediatric Nursing Caring for Children and Their Families,Delmar,2011 その他，授業の都度，紹介する.							
備 考								

授 業 科 目	小児看護学Ⅱ Advanced Child Nursing Ⅱ	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
		中村 伸枝	時間数	30－45	受講セメスター	後期		
目 的	・小児看護の実践を支える主要な理論について論述する。 ・小児看護における主要な問題について、子どもと家族に対する援助方法及び研究方法について理解を深める。							
到 達 目 標	・専門的方法を用い、小児やその家族の必要としている看護について、独自に判断できる。 ・小児看護領域における倫理的判断や他領域との調整方法について学び、複雑な問題をもつ小児やその家族に対する看護について、独自に判断できる。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1～2回	小児看護領域における倫理問題について学ぶ	・小児看護領域における倫理的問題について、文献を基に理解を深める。 ・倫理的判断が必要であった自らの看護実践体験を分析し倫理的判断の際に必要なことや、判断の評価について討議を通して理解を深める。						中村 佐藤
3～4回	小児看護領域におけるソーシャルサポートについて学ぶ	・小児看護領域におけるソーシャルサポートについて、文献を基に理解を深める。 ・ソーシャルサポートに関する関連文献を読み、看護援助方法や研究方法について、分析的に評価を行う。						
5～6回	小児の保健、医療環境、制度について学ぶ	・小児を取り巻く社会福祉制度の状況について学び、小児看護を実践する際に関係する制度・施策などについて理解を深める。						
7～8回	急性期や周手術期にある小児と家族への看護援助について学ぶ	・関連論文および自らの看護実践に基づき、急性期や周手術期の小児と家族についての看護問題、看護援助方法、研究方法について考察する。						
9～12回	慢性状態にある小児と家族への看護援助について学ぶ	・関連論文および自らの看護実践に基づき、慢性疾患特有の健康問題や、小児の成長発達、慢性疾患を持つ家族に視点をあて、看護援助方法や研究方法について考察する。						
13～14回	小児看護領域におけるヘルスプロモーションについて学ぶ	・小児看護領域におけるヘルスプロモーションについて、文献を基に理解を深める。 ・ヘルスプロモーションに関する関連文献を読み、看護援助方法や研究方法について、分析的に評価を行う。						
15回	小児看護領域における看護研究について学ぶ CNSを希望する学生については以下の学習課題を行う (15時間)	・小児看護に関する看護および関連領域の研究の動向について検索し、理解を深める。 ・健康上の問題をもつ小児と家族をとりまく環境について、医療および社会福祉・教育の観点から、専門看護師としての援助のありかたを考察する。 文献レビューおよびフィールド演習を通しレポートを作成する。						
成績評価 基 準	授業の際に提示された資料、参加状況、及びレポートにより評価を行う。							
教科書 参考書 等	■Wong,D.L.:Nursing Care of Infants and Children(9th ed.),Mosby,2010 ■Potts,N.L.,Mandleco,B.L.:Pediatric Nursing Caring for Children and Their Families,Delmar,2011 その他、授業の都度、紹介する。							
備 考								

授 業 科 目	成人看護学Ⅰ Advanced Adult Nursing Ⅰ	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
		眞嶋 朋子	時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	癌疾患並びに他疾患のacute,critical,chronic,terminal stageにある成人・老人患者及び家族に対する看護および研究の方法について探求し明確にする。							
到 達 目 標	1. 癌疾患並びに他疾患のacute,critical,chronic,terminal stageにある成人・老人患者及び家族に対する看護の方法について説明できる。 2. 癌疾患並びに他疾患のacute,critical,chronic,terminal stageにある成人・老人患者及び家族に対する研究方法について説明できる。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1～15回	①癌疾患のacute,critical,chronic,terminal stageにおける成人・老人患者とその家族に対する最新の看護及び研究について追求し、明確にする。 ②癌以外の疾患のacute,critical,chronic,terminal stageにおける成人・老人患者とその家族に対する最新の看護及び研究について追求し、明確にする。	授業は、学習課題の①および②について最新の海外看護学研究論文を用い、ゼミ形式で行う。自分の課題を定め、個別に指導を受け準備を進める。 1. 発表及び発表担当者の役割 1) 文献は英米看護研究論文で、原則として最新の雑誌掲載から選択する。 2) 文献の日本語全訳を行い、発表日前々週の水曜日までに教員に提出する。 3) 論文内容の解説資料を作成し、当日資料とする。 4) 解説資料は、研究内容を構造的に把握し、より理解を深めるための資料とするもので、できるだけ簡潔な文章と図式を工夫して作成する。学術用語、専門用語等は、必要に応じ日本語版資料を加える。 5) 発表は、論文内容を資料に基づき解説し、主題について論ずる。 6) 文献は人数分（第2研究室分の1部を含む）コピーし、1週間前までに全員に配布する。 2. ゼミ参加者の役割 1) 発表担当者以外の者は、必ず事前に文献を読み、討議の準備をする。 2) 発表に対する質問及び意見交換を積極的に行い、効果的なゼミ展開に参画する。 3. 担当者のゼミの進め方 1) ゼミ担当者は、発表した文献を基に参加者として次週ゼミの討議課題を決め、全員が課題を分担して資料を作成し、発表者となるよう計画する。 2) 担当者は文献資料に基づく発表を統括し、全員参加の討議の司会をし、まとめる。 3) 資料は、英文日本文にかかわらず、出典をあきらかにする。						眞嶋 増島
成績評価 基 準	ゼミ担当作成資料、レポート、討議への参加度							
教科書 参考書 等								
備 考	・がん看護専門看護師認定試験受験を希望するものは、学習課題の①について修めること。							

授 業 目 的	成人看護学Ⅱ Advanced Adult Nursing Ⅱ	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
		眞嶋 朋子	時間数	30	受講セメスター	前期・集中		
目 的	癌疾患あるいは予後不良や死にゆくことの宣告に伴って危機的状況に陥る成人・老人患者及び家族に対して有効な看護実践を行うための諸理論と看護介入モデルについて考究する。							
到 達 標	1. 癌疾患等に伴い危機的状況に陥る患者及び家族に適用される危機理論ならびにコーピング理論の背景と概念について説明できる。 2. 癌疾患等に伴い危機的状況に陥る患者及び家族に適用される危機介入モデルについて説明できる。 3. 危機介入モデルをがん看護事例に適用する方法を説明できる。 4. 危機介入モデルを用いてがん看護事例を分析し、理論に基づく介入のしかたを説明できる。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 員
1～4回	1. 癌罹患や癌治療に伴う喪失や危機的状況に直面する患者及び家族に適用される喪失と危機理論の背景及び概念について考究する。		授業は、指定文献喪失と危機理論、コーピング理論に関連するがん看護・クリティカルケア文献）に基づく課題についてゼミ形式で行う。 ・事前学習は、個々に文献学習を行うと同時に、複数人によって課題に対する論議を行い、ゼミにおいて検討する問題を明確にする。 ・ゼミ授業は、課題の解説と問題に対する討議を行う。 ・事例分析は、個々に看護介入モデルのがん看護実践事例への適用を実際に行い、成果を発表し、理論に基づく介入の仕方を討議する。 ・諸理論と介入モデルの今後の活用についての自己の課題を明確にする。					眞嶋 増島
5回	2. 適用されるコーピング理論について理解を深める。							
6～10回	3. 種々の危機介入モデルを検討し理解を深める。							
11～15回	4. 危機介入モデルをがん看護事例に適用する方法を修得する。 5. 事例分析の結果を評価する。							
成績評価 基 準	作成資料並びにゼミ参加状況							
教科書 参考書 等	集中ゼミガイダンスとして別に行い、指定文献を提示する。							
備 考	がん看護専門看護師認定試験受験を希望する者は、がん看護を課題とすること。							

授 業 科 目	老人看護学Ⅰ Advanced Gerontological Nursing Ⅰ	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
		正木 治恵	時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	老人に関わる高度な看護実践ならびに研究のために必要な基礎知識を学習し、理解を深める。							
到 達 目 標	1. 老人の健康生活と、ケア活動のための理論ならびにアセスメント方法について学習し、理解を深める。 2. 老人ケアに関する政策の発展過程ならびに現状を調べ、今後の課題を明らかにする。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1～9回	1. 老人の健康生活とケア活動のための理論ならびにアセスメント方法	1. 心身の老化過程と健康生活にもたらす影響に関する理論、ならびに健康生活アセスメント方法について学習し、老人へのケア活動に適用する際の課題について考察する。具体的には以下の事項を含む。 ①生涯発達理論に基づく老人の自我発達 ②老いの自覚と「エイジレスセルフ」 ③老人の尊厳に満ちた生存の権利 ④家族介護者と老人の関係性 ⑤老人の健康生活とアセスメント方法						正木 谷本
10～15回	2. 老人ケアに関する政策	2. 老人ケアに関する政策の発展過程ならびに現状を調べ、今後の課題を検討する。 ①老人ケアに関する政策の発展過程（現在までどのように政策が変化し発展してきたか） ②老人ケアに関する政策の現状と問題点 方法： 学習課題1，2とも、講義ならびに文献学習、グループディスカッションにより、既存の知識を統合し、考察する。						
成績評価 基 準	参加状況とレポートにより評価する。							
教科書 参考書 等								
備 考	老人看護学ⅠとⅡを併せて履修することが望ましい。							

授 業 科 目	老人看護学Ⅱ Advanced Gerontological Nursing Ⅱ	責任教員 正木 治恵	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	老人看護または慢性疾患看護に関する理論及び研究方法について学習する。							
到 達 目 標	老人看護または慢性疾患看護に関する理論ならびに研究方法について学習し、実践の場への適用方法と課題を明らかにする。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1～8回	A. 様々な状態にある老人に必要な看護に関する理論と研究方法	方法： 関心領域により学生自身が学習課題AまたはBを選択する。 学習課題にそって、講義、文献学習、グループディスカッションを通して理解を深める。 学習内容： ①老人と家族のケアに関する理論と研究方法の検討 ・シンボリック相互作用論における人間の主体性 ・老人の死と看取り（ターミナルケア） ②老人への専門的な看護援助の理論開発、ならびに老人の健康生活を支援するシステムの現状と課題についての検討						正木 谷本
9～15回	B. 慢性疾患をもつ成人・老人に必要なセルフケアへの援助方法に関する理論と研究	学習内容： ①療養行動に関する理論と実際 ・社会的学習理論における自己効力の開発 ・セルフケア理論における行動変容 ・セルフモニタリングの獲得 ・老人のセルフケアと学習 ・「病いの語り」に見られる病いの意味 ・慢性病者の病みの軌跡 ②慢性疾患患者とその家族への専門的な看護援助の理論開発ならびに研究方法の検討						
成績評価基準	参加状況とレポートにより評価する。							
教科書 参考書 等								
備 考	老人看護学ⅠとⅡを併せて履修することが望ましい。							

授 業 目 的	精神看護学Ⅰ Advanced Psychiatric and Mental Health Nursing I	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
		岩崎 弥生	時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	精神看護学と関連の深い諸理論と研究成果を精神看護実践に活用する基盤を作る。							
到 達 目 標	1) 精神保健福祉の歴史的変遷を踏まえて，精神保健福祉制度・体制を理解する。 2) 精神看護領域で用いられている諸理論について，精神看護実践への適用の観点から検討する。 3) 精神看護領域で行われている研究について，精神看護実践への適用の観点から論述する。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 員
1 回	オリエンテーション 学習課題・目標の設定		講義，文献学習，ビデオ学習，ロールプレイ，グループ討議，事例報告，課題の遂行とプレゼンテーション等を通して，精神看護の専門性と精神看護学における理論・研究・実践について理解を深める。 授業の目的・目標，学習内容を理解し，自己の学習課題・目標を明瞭化する。					岩崎
2～8 回	制度や体制の理解 患者・家族を取巻く精神保健福祉制度の状況について学び，精神看護を実践する際に 関係する施策・制度などについて理解を深める。		精神保健医療福祉に関係する法律（精神保健福祉法，医療観察法，障害者自立支援法等）の理解に基づき，精神保健医療福祉制度および施策の現状と課題，保健・医療・福祉・教育・就労の連携のあり方，患者・家族の権利擁護等について検討する。 また，患者・家族への看護のあり方について，人権の保障，治療的環境・治療共同体，ノーマライゼーション，パティシペーション，インクルージョン，専門家のディスパワメント，病棟文化・医療組織文化といった概念を手がかりに，考察を深める。					
9～13回	セラピーの理解 精神看護領域における対人援助，家族援助，グループ援助の諸理論と技術について概観し，理論の実践への適用の方法を学ぶ。		対人援助の理論を用いて，自分自身の心の動きや看護を振り返り，援助者に生じやすい問題とその解決方法について検討する。 また，家族理論およびグループ理論の看護実践への援用について検討する。 ・家族システム円環複合モデル，家族ストレスモデル，ケアギバーストレスモデル，エコロジカルモデルなど ・グループ療法，SST，セルフヘルプグループなど					
14～15回	セラピーの理解 精神看護領域におけるセラピーに関する研究論文のクリティークと研究成果の実践への適用の方法を学ぶ。		精神看護領域におけるセラピーに関する研究論文を批判的に読み，研究成果の実践への適用についてレポートにまとめる。					
成績評価 基 準	プレゼンテーション及びその資料，研究成果の実践への適用に関するレポートによる。							
教科書 参考書 等	精神保健福祉協会監修（2007）我が国の精神保健福祉 平成19年度版。 神田橋條治（1990）精神療法面接のコツ，岩崎学術出版。 グーゲンヴィル・クレイグ，A（1981）心理療法の光と影：援助専門家の＜力＞，創元社。 鈴木浩二他訳（1994）家族療法と家族療法家：マスターセラピストによる治療全過程の事例研究，金剛出版。 近藤喬一，鈴木純一編（1990）集団精神療法ハンドブック，金剛出版。 ミンデル，A（2001）紛争の心理学，講談社現代新書。 バーンズ，N&グローブ，SK（2007）看護研究入門：実施・評価・活用，エルゼビア・ジャパン。 ビデオ：グロリアと三人のセラピスト ビデオ：家族療法実技トレーニング（第1巻～第3巻） ビデオ：ビジュアル臨床心理学入門 ⑩集団へのアプローチ							
備 考								

授 業 目 的	精神看護学Ⅱ Advanced Psychiatric and Mental Health Nursing II	責任教員 岩崎 弥生	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	後期		
目 的								
看護理論や方法論を精神看護の実践の場で適用する能力を高める。								
到達目標								
1)看護理論・方法論を精神看護の実践に適用する方法を理解する。 2)ホリスティック看護のアプローチをメンタルヘルス支援に適用する方法を検討する。 3)自身の精神看護の実践について看護理論を用いて分析的に評価し、精神看護の知識・技術の向上における自身の課題を明確にして、その課題を探究する方法を論述する。								
回数 (1回90分)	学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 教 員
1 回	オリエンテーション 学習課題と目標の設定		講義，文献学習，ビデオ学習，ロールプレイ，グループ討議，事例報告，課題の遂行とプレゼンテーション等を通して，精神看護における高度な看護実践の基本的能力を養う。					岩崎
2～8 回	精神健康・生活状態の評価 患者・家族に効果的なケアを提供する上で必要となる査定方法について理解し，その活用の仕方を学ぶ。		授業の目的・目標，学習内容を理解し，自己の学習課題・目標を明瞭化する。 患者・家族のメンタルヘルスやQOLに関する諸理論を理解したうえで，精神健康・生活状態を全人的に評価・査定する方法を学ぶ。また，評価結果を看護実践に生かす方法を検討する。 ・認知・心理・社会的な発達の評価 ・認知・心理・社会的機能の評価 ・精神症状，ADL，ライフスキルのアセスメント ・ストレス，メンタルヘルス，QOLの評価 ・家族機能，家族力量の評価					
9～14回	セラピーの理解 ホリスティックなメンタルヘルス支援の技術を学ぶ。		ホリスティックな看護アプローチについて，エビデンスと適用時の留意点を含めて理解し，メンタルヘルス向上のために適用する方法を検討する。 ・代替療法 ・グラウンディング、センタリング ・リラクセーション ・タッチング ・回想法 ・ライフ・スキルズ・トレーニング ・アサーション ・問題解決ファシリテーション					
15回	セラピーの理解 自身の精神看護の実践を振り返り，看護理論を用いて評価し，自身の課題を明確にする。		自分自身の精神看護の実践を振り返り，看護理論を用いて分析的に評価し，自身が追求したい看護課題およびその課題の探究方法について検討し，レポートにまとめる。					
成績評価基準	プレゼンテーション及びその資料による。							
教科書参考書等	スナイダー，M&リンドキスト，R（1999）心とからだの調和を生むケア：看護に使う28の補助的・代替的療法．へるす出版。 津村俊充，石田裕久（2000）ファシリテータートレーニング．ナカニシヤ出版。 Davis, M. et al. (2000) The relaxation & stress reduction workbook. New Harbinger Pub. ビデオ：シミュレーションによる精神患者インタビュー（第1・3・6・7・11・12巻） ビデオ：精神分裂病を生きる①～⑩ ビデオ：自律訓練法 ビデオ：回想法①～④ ビデオ：アサーションのすすめ①② DVD：認知行動療法 べてる式							
備 考								

授 業 科 目	地域看護学Ⅰ Advanced Community Health Nursing Ⅰ	責任教員 宮崎美砂子	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	安心して生活できる豊かな地域づくりにかかわる看護の方法および研究方法について論述する							
到 達 目 標	地域づくりに関わる看護活動の特質について論述すると共に、看護活動をより有効に機能させるために検討が必要な課題並びにその課題を追求する方法について論述することができる							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1～4回	・ 疾病や障害に対する偏見・差別、健康格差、アドボカシー（advocacy）と看護①	・ 疾病や傷害に対する偏見・差別の実態、健康格差の実態を文献等から調べ、誰もが自分らしく暮らせる地域づくりにかかわる看護について討論する。 ・ アドボカシーの概念について文献を用いて整理し看護との関連を考察する。特に地域における看護活動の視点から考える。						宮崎
5～8回	・ 疾病や障害に対する偏見・差別、健康格差、アドボカシー（advocacy）と看護② 文献講読	「ヘンリー・ストリートの家」（リリアン・ウォルド著）を講読し、偏見・差別やアドボカシーと看護との関連を読み解き、現代における看護の役割・機能を再考する						
9～15回	地域社会との協働による地域づくり	Community-Based Participatory Researchや住民との協働による地域づくりについての看護活動に関する文献を用いて、地域社会との協働による地域づくりについて検討する。また、地域づくりを追求するうえでの研究課題・研究方法について討論を行う。						
成績評価基準	授業への主体的参加を重視し、出席状況、討論素材の準備、討論への参加、レポートの成果を総合して評価する。							
教科書参考書等	リリアン・ウォルド著 阿部里美訳：リリアン・ウォルド～地域看護の母～自伝 ヘンリー・ストリートの家、日本看護協会出版会、2004. Barbara A.Israel al.ed.:Methods in Community-Based Participatory Research for Health, John Willy & Sons, 2005 他							
備 考	本科目は、地域看護学Ⅱと連動している。したがって地域看護学ⅠとⅡを併せて履修することが望ましい。討論素材として重要な文献等は提示する。しかし、自分で関連文献を調べたり、関連事象を調べたりして、各自が討論素材を充実させる創意工夫を可能な限り行い、授業に臨むことを期待する。							

授 業 科 目	地域看護学Ⅱ Advanced Community Health Nursing Ⅱ	責任教員 宮崎美砂子	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	予防的な健康支援活動、看護サービスを公的サービスとして機能させる方法および研究方法について論述する							
到 達 目 標	1. 予防的な健康支援に関わる看護活動の特質について論述するとともに、看護活動をより有効に機能させるために検討が必要な課題並びにその課題を追求する方法について論述することができる 2. 行政サービスとして機能する看護活動の特質について論述するとともに、看護活動をより有効に機能させるために検討が必要な課題並びにその課題を追求する方法について論述することができる							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 教 員
1～5回	ヘルスプロモーション、予防活動と看護①		・ヘルスプロモーション及び予防の概念について文献を用いて整理し看護との関連を考察する。またヘルスプロモーションに基づく健康づくりに取り組んでいる看護活動や予防的な健康支援に関わる看護活動、特に行政分野の保健師等の看護活動を取り上げて、地域への広がりをもった看護活動の方法について検討する。 ・ヘルスプロモーション（健康づくり）や予防活動を追究するうえでの研究課題・研究方法について討論する。					宮崎
6～11回	ヘルスプロモーション、予防活動と看護②文献講読		「沢内村奮戦記 住民の生命を守る村」（太田祖電他 著）を講読し、予防的な健康支援に関わる看護活動の特質を読み解き、現代における予防的看護活動方法について再考する					
12～15回	地域における健康危機管理と看護		健康危機管理における行政分野の保健師の活動を取り上げ、看護固有の方法について検討する。また健康危機管理を追究するうえでの研究課題・研究方法について討論する。					
成績評価基準	授業への主体的参加を重視し、出席状況、討論素材の準備、討論への参加、レポートの成果を総合して評価する。							
教科書参考書等	太田祖電,増田進,田中トシ,上坪陽：沢内村奮戦記 住民の生命を守る村、あけび書房、1985.							
備 考	本科目は、地域看護学Ⅰと連動している。したがって地域看護学ⅠとⅡを併せて履修することが望ましい。討論素材として重要な文献等は提示する。しかし、自分で関連文献を調べたり、関連事象を調べたりして、各自が討論素材を充実させる創意工夫を可能な限り行い、授業に臨むことを期待する。							

授 業 科 目	訪問看護学Ⅰ Advanced Visiting Nursing Ⅰ	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
		諏訪さゆり	時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	訪問看護師による援助のうち、在宅療養者の意思決定と自己実現を促進するための看護実践のあり方と現状における課題を、訪問看護制度・在宅ケアシステムとの関わりにおいて学習する。							
到 達 目 標	1) わが国における訪問看護制度の現状と課題を理解する 2) 在宅療養者及び家族の生活に即した訪問看護を計画・実施できる 3) 海外における在宅ケアの状況を理解する 4) 在宅療養者の意思決定と自己実現を促進するための看護援助についての研究を概観できる							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1 回	オリエンテーション	1) この授業科目の目的・進め方 2) 各自の課題設定						諏訪 石橋
2～3 回	わが国における訪問看護制度の現状と課題	1) 現行制度における訪問看護の実態を把握する 2) 訪問看護に関連する在宅ケアシステム・職種間の連携を理解する 3) 現行制度における課題を理解する 4) 今後のための改善の方向性を検討する						
4～11回	生活に即した看護の実践	1) 生活自立度のアセスメント（身体的アセスメント・心理社会的アセスメント・機能アセスメント） 2) 訪問看護をはじめとする在宅ケアの実際 3) 典型事例別の計画立案・評価方法の検討						
12～13回	海外における在宅ケアの現状	1) 諸外国の訪問看護の状況を把握する 2) 日本に活用できることを検討する						
14～15回	在宅療養者の意思決定と自己実現を促進するための看護援助に関する研究のレビュー	1) 訪問看護に関する実証研究をいくつかレビューし、研究に見られる課題を考察する 2) これまでの実証研究をいくつかレビューし、研究に見られる課題を考察する						
成績評価 基 準	授業への主体的参加を重視し、出席状況、討論素材の準備、討論への参加、レポートの成果を総合して評価する。							
教科書 参考書 等	随時提示する							
備 考	特になし							

授 業 科 目	訪問看護学Ⅱ Advanced Visiting Nursing Ⅱ	責任教員 諏訪さゆり	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	後期		
目 的	老人訪問看護において高齢者に頻発する看護問題を明らかにし、その解決のために必要な知識及び技術を、研究論文等をもとに学習する。							
到達 目 標	1) わが国における訪問看護制度下の老人訪問看護の現状と課題を理解する 2) 老人訪問看護において高齢者に頻発する看護上の問題を列挙することができる 3) 2) の問題に関する看護を計画し、実施することができる 4) 老人訪問看護の質評価に関する研究を概観できる							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1 回	オリエンテーション	1) この授業科目の目的・進め方 2) 各自の課題設定						諏訪 石橋
2～3 回	わが国における訪問看護制度下の老人訪問看護	1) 現行制度における老人訪問看護をはじめとする在宅ケアの実態を把握する 2) 現行制度における課題を理解する 3) 今後のための改善の方向性を検討する						
4～13回	老人訪問看護の実践：高齢者に頻発する問題ごとに看護の方法を学び、技術を習得する	1) 誤嚥・失禁・褥創・認知症・多剤併用など、多問題を抱える高齢者のケア、家族関係上の問題を含む 2) 問題別の適切な介入方法を研究論文のレビューも含めて学習し、技術を習得する 3) 典型事例別の計画立案・評価方法の検討						
14～15回	老人訪問看護の質評価に関する学習	1) 文献を概観し、研究上の課題を考察する						
成績評価 基 準	授業への主体的参加を重視し、出席状況、討論素材の準備、討論への参加、レポートの成果を総合して評価する。							
教科書 参考書 等	随時提示する							
備 考	特になし							

授 業 目 的	保健学Ⅰ Advanced Health Science Ⅰ	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
		北池 正	時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	集団を対象とした健康問題を理解するために、生活環境との関連から検討する方法を学ぶ。							
到 達 目 標	1. 環境の健康に対するリスクについて理解する. 2. 環境関連疾患について理解する. 3. 環境情報の収集法について理解する.							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1 回	オリエンテーション	参考図書の紹介と授業の進め方						北池 山本
2～5 回	環境リスクの理解	参考図書を読み、特に環境の化学的要因と物理的要因に関する理解を深める.						
6～9 回	環境関連疾患の理解	参考図書を読み、環境関連疾患を整理し、理解を深める.						
10～13回	環境情報の収集法の理解	環境情報の収集について、現状のシステムを理解し、さらに個人に対する曝露情報の収集について検討する.						
14～15回	討論・まとめ							
成績評価 基 準	レポート内容、討議への参加状況など							
教科書 参考書 等	Barbara Sattler,et al:Environmental Health and Nursing Practice(2003)							
備 考								

授 業 目 的	保健学Ⅱ Advanced Health Science Ⅱ	責任教員 北池 正	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	後期		
目 的	看護情報学に対する理解を深め、基本的な統計処理の手法を実践できる。							
到 達 目 標	1. 看護情報学の現状について理解する。 2. 文献抄読を行い、その統計処理の内容を理解する。 3. 基本的な統計処理を実践する。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1 回	オリエンテーション	参考図書の紹介と授業の進め方						北池 山本
2～5 回	看護情報学の現状の理解	参考図書を読み、国内外の現状に対する理解を深める。						
6～10回	文献抄読	受講者が各自関心のある文献を紹介し、その中で用いられている統計処理について解説を行う。						
11～14回	統計処理の演習	パソコンを利用して、多変量解析の演習を行う。						
15回	まとめ							
成績評価 基 準	レポート内容、討議への参加状況など							
教科書 参考書 等	D.F.Polit,et al:Nursing Research(2008)							
備 考								

授 業 科 目	看護学演習Ⅰ・Ⅱ（基礎看護学） Seminar in Theoretical Nursing	責任教員	単位数	8	必修・選択		科目等 履修生	否
		山本 利江	時間数	240	受講セメスター	通期		
目 的	1. 研究論文の精読および論文クリティークをとおして、看護学固有の研究方法論について論述する 2. 看護基礎教育課程における看護学生の看護観とその表現技術の発展過程を把握することをとおして看護の原基形態を使いこなす							
到 達 標	1－1 文献で使われている専門用語に着目し、著者の概念枠組みを論理的に理解する 1－2 研究動機から結論に至る論述の、論理的整合性を検討する 1－3 看護学の概念枠組みに基づき研究論文を批判的に吟味する 1－4 看護学研究を成立させる研究方法の普遍的な構成要件を考察し、論述する。 2－1 看護方法の授業に指導者として参加し、実習の観察および看護学生自身の記録から、各学生の看護観とその表現技術の修得段階を示す情報を整理し、基礎資料を作成する 2－2 看護の原基形態に則して、看護学生の看護観とその表現技術の発展過程を説明する							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
目的1に対して 1回目	オリエンテーション	理論看護学の立場から、授業目的・内容・方法について概説する						山本
2～27回	文献検討	1. 看護学の基幹概念および研究テーマから研究課題の焦点を絞りこむ方法を学習し、文献を検索する。次いで、自己の目的意識に基づき、検討する必要がある文献を選択して収集し、分析する(外国語文献を最低3件)。従ってキーワードは、「健康」「看護」「看護課程」および、学生自身の研究課題を表す用語とする 2. 文献検討フォーマットを作成し、それに基づきプレゼンテーション資料を作成する 3. 資料に基づきプレゼンテーションし、参加者との討議をもつ 4. 文献クリティークをとおして、研究方法の構成要件を考察する 5. 各文献のプレゼンテーションごとに概要を作成する						
28～30回	まとめ	全文献のプレゼンテーションの概要をもとに文献検討を概括する資料を作成して発表し、研究方法について参加者と討議する						
目的2に対して 1～36回	看護学生の学習に主体的に関わり、看護観と表現技術の発展過程を理解する	看護学部3年次生対象の看護方法Ⅲにおいて行なわれる、基礎看護実習の体験をふりかえる授業の準備・実施・評価の一連の教育活動に参加し、看護課程展開の技術の適用状況を把握する方法について学習し、その方法を実際に用いて学生の状況を把握する 看護学部2年次生対象の看護基本技術Ⅰ・Ⅱにおいて行なわれる、看護基本技術を学習する授業の準備・実施・評価の一連の教育活動に参加し、学生の看護観と表現技術の修得段階を把握する方法について学習し、その方法を実際に用いて学生の状況を把握する 基礎看護実習に参加し、学生の看護実践能力の発展過程を把握する						
成績評価 基 準	毎回の参加状況とレポートにより、総合的に評価する							
教科書 参考書 等	随時紹介する							
備 考								

授 業 目 的	看護学演習Ⅰ・Ⅱ（看護教育学） Advanced Seminar in Nursing (Nursing Education)	責任教員 舟島なをみ	単位数	8	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	240	受講セメスター	通期		
目 的	〔目的1〕:海外文献の講読及びクリティークを通して、概念枠組み及び研究方法論等、看護教育学研究に関わる知識を習得し、看護教育学発展のための課題について論述する。また、国際学会への参加の基盤となる英語力を習得する。 〔目的2〕:授業の参加観察（参加型）を通して、講義及び演習という授業形態における教授＝学習過程の特徴と授業展開に必要な普遍的要素を理解する。							
	〔目的1〕:1. 看護学研究に関わる学術用語の正確な理解に基づき、海外の看護学教育研究を選択し、批判的に精読する。 2. 選択した看護学教育研究のデザイン、概念枠組み及び研究方法論等の検討を通して、看護教育学研究を遂行するために必要な知識を習得する。 3. 看護学教育研究をクリティークすることを通して、看護教育学発展のための課題を論述する。 4. 国際学会への参加の基盤となる英語力を習得する。 5. 英文アブストラクトを正確かつ流暢に音読する。 〔目的2〕:1. 講義及び演習という形態の授業に参加観察し、授業展開に関する学習内容を述べる。 2. 授業設計、準備、実施、評価の過程に参加観察し、授業展開に必要な普遍的要素を理解する。 3. 講義及び演習という授業形態における教授＝学習過程の特徴を説明する。 4. 参加観察に必要な知識・技術・態度を理解する。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法					担 教 員
〔目的1〕 1回 2～30回	授業の意義・学習方法の理解 文献検索方法の理解		・看護教育学教育研究分野における看護学演習の授業目的、内容、方法について概説する。 ・授業目的に基づき、講読文献を検索する方法を習得する。 ・看護学研究、文献検索・選定・講読に関する学術用語および基礎的知識を理解する。（講義） ・授業の目的に基づき、講読した看護学教育研究に用いられている学術用語、研究方法、研究内容等について学習した内容をプレゼンテーションし、看護学教育研究の概念枠組みと研究方法論、看護教育学体系発展の視点から討論を展開する。 準備学習：毎回、全学生は、講読する海外文献を和訳する。担当者は、研究の概要、批評、修士論文への示唆についてまとめた資料を作成する。また、ネイティブによる指導に基づき英文アブストラクトを正確に音読する。 * 1年間を通して講読した文献を再検討し、クリティークした内容に関するレポートを作成する。					舟島 中山
	文献講読および講読文献の プレゼンテーションと討論							
〔目的2〕	講義「看護教育学」の参加観察		・学部3年生を対象に開講される「看護教育学」（必修）の授業を教授者側から参加観察（参加型）する。 ・授業準備、教材の作成等に関わり、授業準備の実験を体験する。 準備学習：毎回、授業内容に関する理解を深めるとともに、参加観察の目的および自己の課題を明確にして授業に臨む。 * 毎回の授業終了後、授業展開に必要な普遍的要素および教授＝学習過程の特徴について検討する。					舟島 中山
	演習「看護教育学演習（問題 解決過程）」の参加観察							
			・学部3年生を対象に開講される「看護教育学演習（問題解決過程）」（自由）の授業を教授者側から参加観察（参加型）する。 ・学生の主体的学習活動を促進するために必要なファシリテータの役割を理解する。 準備学習：参加観察法およびファシリテータの役割について専門図書を精読し理解を深める。 * 毎回の授業終了後、授業改善に向けての問題提起および解決のための方略について検討する。					
成績評価 基 準	目的1：海外文献に関するプレゼンテーションおよび討論（25%）、コース終了後のレポート（25%） 目的2：コース終了後のレポート（各25%）							
教科書 参考書等	・杉森みどり・舟島なをみ：看護教育学、第4版増補版、医学書院 ・I. M. キング（杉森みどり訳）：キング看護理論、医学書院 ・Polit, D.F.&Beck, C.T.:Nursing Research-Principles and Methods, 8th ed., Lippincott. ・Diers, D.（小島通代訳）：看護研究－ケアの場で行うための方法論、日本看護協会出版会 ・舟島なをみ：看護教育学研究－発見・創造・証明の過程、第2版、医学書院 ・舟島なをみ：質的研究への挑戦、第2版、医学書院 ・山崎茂明他：看護研究のための文献検索ガイド 第4版、日本看護協会出版会 ・南山大学人文学部心理人間学科監修：ファシリテーター・トレーニング、ナカニシヤ出版							
備 考								

授 業 目 的	看護学演習Ⅰ・Ⅱ（機能代謝学） Advanced Seminar in Nursing (Physiology and Biochemistry)	責任教員 山田 重行	単位数	8	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	240	受講セメスター	通期		
目 的	機能代謝学領域の文献学習をとおりて自己の看護実践を評価し、発展させる能力を養う。							
到 達 目 標	看護実践に係る諸問題を機能代謝学的視点から考察し、対応することができるようにする。また、問題解決のための研究活動が自立してできるようにする。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1 回	オリエンテーション	各自の関心課題を設定する。						山田
2～14回	課題の文献学習と報告および討論	各自の課題に関係する文献を収集し、学習を進める。一つの文献ごとに学習内容を報告し、それについて評価・検討して学習を深める。						
15回	まとめ	全学習内容を整理し発表する。						
成績評価 基 準	レポートにより評価する。							
教科書 参考書 等	随時紹介する。							
備 考								

授 業 目 的	看護学演習Ⅰ・Ⅱ（病態学） Advanced Seminar in Nursing (Pathobiology)	責任教員 岡田 忍	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	通期		
目 的	微生物が侵入してから，感染が成立するまでの過程について理解を深めることにより，感染症患者のケアや，微生物によって汚染した物品等の処理についての基礎を学ぶ.							
到 達 目 標	各侵入門戸における生態防御の仕組みやと，それを突破する微生物の性質，すなわち病原性について論述できる							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1 回	ガイダンス	前期（病態学Ⅰ），後期病態学Ⅱの授業内容について						岡田
2～4 回	ヒトの侵入門戸における防御のしくみと，微生物とのかかわり	ヒトの各侵入門戸に備わった生態防御のしくみとその破綻それを突破する微生物について.						
5～7 回	演習 鼻腔菌の採取・同定薬剤感受性試験	実際に自分の鼻腔内の菌を採取し，グラム染色標本の観察，同定用キットによる同定，ディスク法による薬剤感受性試験を行う.						
8～15回	いろいろな領域における感染症	受講生の専攻する領域において特に問題となっている感染症について発表する.						
成績評価基準	毎回の討論と出席，発表の内容							
教科書 参考書 等	Mins' Pathogenesis of Infections Disease 5th edition.							
備 考								

授 業 科 目	看護学演習Ⅰ（母性看護学） Advanced Seminar in NursingⅠ （Maternity Nursing）	責任教員	単位数	4	必修・選択		科目等 履修生	否
		森 恵美	時間数	120	受講セメスター	通期		
目 的	母性看護学領域における文献学習や看護実践活動をとおりて、自己の看護実践を評価し、発展させる能力を養い、臨床において看護専門職者や他の専門職者とのかわり等から看護の機能を発揮するための方法を学ぶ。							
到達 目 標	1. 母性看護領域について文献検討を行い、自己の研究領域を明確化することができる。 2. 実施した看護をプロセスシートあるいはフィールドノートに記述・評価することができる。 【CNS教育課程以外の学生のための追加目標】 3. 効果をもたらした看護について、その法則性や構造について分析する能力を育むことができる。 【CNS教育課程の学生のための追加目標】 3. 看護技術の応用法や卓越した看護実践を自ら創造することを学ぶことができる。 4. 実践の場における複雑な問題を明らかにし、その問題の原因や解決のための資源を分析し、看護の立場からの解決方法について考察することができる。							
回 数 （1回90分）	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1～2回目	①実践領域の明確化	①学習の進め方、文献検討による課題の探究方法、フィールドノートの作成、アクションリサーチ、文化的能力、倫理的配慮等について理解し、関心領域を明確にする。						森 坂上
3～30回目	②理論や文献学習成果の現場実践への適用と報告	②各自が選択した母性看護領域で文献学習を行い、その結果と看護活動を通しての現場適用について報告し、スーパーバイズを受けて、実践、研究における課題の明確化を行う。						
31～60回目	【CNS教育課程以外の学生のみ】 ③看護実践の抽象化や研究疑問 60時間（2単位）	【CNS教育課程以外の学生のみ追加】 ③自分の看護実践について、看護理論や先行研究からの考察を行い、事例にみられる看護としての共通性や看護の法則性、研究的疑問、ケアリングの視点について検討する。						
31～60回目	【CNS教育課程の学生のみ】 ③質の高い援助技術 60時間（2単位）	【CNS教育課程の学生のみ追加】 ③妊婦・産婦・新生児・褥婦に対する質の高い援助技術について、以下のようなテーマで演習する。 ＊系統的な健康診査とプライマリーケア ＊分娩準備教育における効果的な指導方略 ＊分娩中のリラクゼーションへの援助 ＊フリースタイル出産と分娩介助 ＊異常への逸脱とその対処方法 ＊新生児仮死への対応（蘇生も含む） ＊新生児の哺乳行動に応じた母乳哺育確立のための援助、母子相互作用への援助						
成績評価 基 準	演習実施状況、及び最終レポートにより評価を行う。							
教科書 参考書 等	第1回目授業時とその都度、紹介する。							
備 考	母性看護専門看護師資格試験受験希望者は、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、看護学演習Ⅰ（母性看護学）及び、CNS看護学実習（母性看護学）を受講し、以下の方法により特別研究を行う。 1. 特別研究（母性看護研究演習A）：4単位 1年次後期後半 周産期母子看護場面、助産診断場面、参加緊急時の処置場面等をビデオ等によって再現し、モデリング学習をしたり、看護援助の卓越性について討議したり、参加観察法等データ収集方法の訓練をしたりする。看護理論や事例研究から効果的な看護援助について学習する。周産期の業務管理や母子保健政策に関する資料を分析・討議し、それらから専門看護師としての役割や機能を活かす具体的方略を学ぶ。これらの方略を理論と対照させ、実習で発揮できるように系統的に理解し、自己の研究課題に基づきレポートにまとめる。 2. 特別研究（母性看護研究演習B）：8単位 2年次 明確にした研究課題についてリアクションリサーチを実施し、論文作成、発表をする。							

授 業 目 的	看護学演習Ⅱ（母性看護学） Advanced Seminar in NursingⅡ （Maternity Nursing）	責任教員 森 恵美	単位数	4	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	120	受講セメスター	通期		
目 的	母性看護学領域における文献学習や看護実践活動をととして、自己の看護実践を評価し、発展させる能力を養い、研究課題を明確化する。							
到 達 標	1. 看護理論や研究成果を現場に適用し、個別性の高い看護実践を考えることができる。 2. 卓越した看護実践場面の参加観察により、個別性の高い看護とは何かを考え、自分の看護実践を振り返り、自分の課題や研究課題を明確化することができる。 3. 母性看護学領域における質的研究方法と量的研究方法について理解する。 4. 文献レビューにより、研究課題の学術的な意義を述べることができる。							
回 数 （1回90分）	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
	①個別性の高い看護 ②理論や文献学習成果の現場実践への適用 ③質的研究方法 ④量的研究方法 ⑤研究課題の意義	①看護場面について看護理論や先行研究からの考察を行ったり、事例検討に参加したりして、事例にみられる看護としての共通性や看護の法則性、研究的疑問について検討する。 ②看護理論や研究成果の現場へ適用する際の限界や留意点について考察し、個別性の高い看護実践や効果的な看護援助のあり方を検討する。 ③研究における倫理的配慮、半構造的面接法、参加観察法等データ収集方法、分析方法について学ぶ。 ④量的研究方法、統計学的な分析について学ぶ。 ⑤看護学演習Ⅰ（母性看護学）で各自が選択した研究領域において、文献学習をさらに進め、それを評価・報告し、スーパーバイズを受けて自己の研究課題の学術的な意義を明確にする。						森 坂 上
成績評価 基 準	演習実施状況、及び最終レポートにより評価を行う。							
教科書 参考書 等	Harmic, AB., Spross, JA, and Hanson, CM. : Advanced Nursing Practice An Integrative Approach, W.B. Saunders, 2000 その都度、紹介する。							
備 考	母性看護専門看護師資格試験受験希望者でない者は必修科目となる。 母性看護専門看護師資格試験受験希望者は、選択科目となる。							

授 業 目 的	看護学演習Ⅰ（小児看護学） Advanced Seminar in NursingⅠ （Child Nursing）	責任教員	単位数	4	必修・選択		科目等 履修生	否
		中村 伸枝	時間数	120	受講セメスター	通期		
目 的	・小児看護領域の特徴を踏まえ、患者や家族との継続的なかかわりや文献レビューを行い、対象理解および入院環境の理解を深める。							
到 達 目 標	・病児の集団遊びの企画・運営を通して、病児の入院環境について考察できる ・看護上の問題の大きい小児や家族に継続的なかかわりをもつと共に文献レビューを行い、包括的なアセスメントを行うことで、対象理解を深めることができる							
回 数 （1回90分）	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
	①小児病棟における遊びのプログラムの運営を行う（2単位） ②病棟や外来において、患児及び家族に対する看護援助を実践すると共に、文献レビューを行う（2単位）	・入院環境や遊びが小児に及ぼす影響、疾患や状態について考慮し、小児病棟に入院中の小児と家族に対して集団遊びを企画、運営する。 ・小児病棟における遊びのプログラムの評価を行いレポートを提出する。 関心領域において、患者や家族と継続的なかかわりを持ち、患者や家族が抱える短期・長期的な問題を把握すると共に、セルフケアやコーピング、ソーシャルサポートなどの理論を活用してアセスメントを行う。また、看護援助を実践する際に考慮すべき倫理や子供の権利に関する問題、必要な社会資源や法・制度の適用などを含む背景について文献レビューを行い、レポートを作成する。						中村 佐藤
成績評価基準	演習実施状況、及び最終レポートにより評価を行う。							
教科書参考書等	Harmic,AB., Spross,JA., and Hanson,CM.:Advanced Nursing Practice An Integrative Approach, W.B.Saunders, 2008							
備 考	CNS（小児看護）を希望する学生は、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、看護学演習Ⅰ（小児看護学）を受講し、以下の方法により特別研究を行う。 特別研究（小児看護学）パート1（4単位）1年次 ①－1、①－2、②から4単位以上を実施する ①－1 慢性疾患をもつ子どものキャンプ、①－2 慢性疾患をもつ子どもと家族のキャンプ（各2単位） 慢性的な健康問題をもつ小児とその家族のキャンプの企画・運営・実施・評価にかかわることで、看護実践能力の習得、小児や家族・スタッフへの教育、他職種との連携や調整などの能力を修得する。また、慢性的な健康問題をもつ小児や家族とキャンプを通してかかわることで、対象者理解を深めるとともに、研究の前提となるコミュニケーション能力や実践能力を育成する。 ②Nurse Exchange Program in UCLA（2単位） University of California at Los Angeles Medical Centerで行われているNurse Exchange Program（10日間）に参加し、米国における最新の小児医療・看護の中で活動する小児専門看護師ほか小児の看護専門職の活動の実際を通して専門看護師の役割・機能を学ぶ。 特別研究（小児看護学）パート2（8単位）2年次 研究課題に沿って看護学演習（小児看護学）を行い、明確化した事例に共通する問題や臨床上の問題について、適切な研究方法を選択し、研究を行い論文を作成する。							

授 業 目 的	看護学演習Ⅱ（小児看護学） Advanced Seminar in Nursing Ⅱ （Child Nursing）	責任教員 中村 伸枝	単位数	4	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	120	受講セメスター	通期		
目 的	・ 関心領域において、看護実践に基づき看護上の問題をもつ患児と家族の看護援助について論述する。							
到 達 目 標	・ 関心領域において小児とその家族が抱える問題を包括的にとらえ、理論や文献からの学びを活用して看護援助を行い、考察することができる。							
回 数 （1回90分）	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 教 員	
	病棟や外来において、患児及び家族に対する看護援助を 実践し、評価を行う	・ 個々の関心領域において、看護上の問題の大きい患児および家族と継続的なかわりをもつ。 ・ 事例については、患児の病状に関する病態生理学的把握と分析、および患児に適用される治療方法の把握とそれに伴う問題の分析を行う。 ・ 必要に応じ、入院、退院後の外来あるいは在宅におけるケアといった一連の過程について、継続的なかわりがもてるように計画する。 ・ 看護実践にあたっては、指導教員の指導計画のもとに、指導教員ならびに実習施設の指導者により指導を受けながら行う。 ・ 実施した看護をフィールドノートに記述し、症例の分析、評価を行う。 ・ 理論や研究結果を看護実践や評価に活用する。 ・ 看護援助の経過について、最終レポートを提出する。					中村 佐藤	
成績評価 基 準	演習実施状況、及び最終レポートにより評価を行う。							
教科書 参考書 等								
備 考	CNS（小児看護）を希望しない学生が履修する科目である。							

授 業 科 目	看護学演習Ⅰ（成人看護学） Advanced Seminar in NursingⅠ （Adult Nursing）	責任教員 眞嶋 朋子	単位数	4	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	120	受講セメスター	後期		
目 的	成人・老年期にある患者および家族を対象としたがん看護学及びクリティカルケアに関する研究課題の中から自らの実践・研究課題を設定し、文献検討を通して、実践・研究課題および方法を理論的視点から追及する。							
到 達 目 標	1. 成人・老人患者及び家族を対象としたがん看護学及びクリティカルケアに関する実践・研究課題の中から自らの実践・研究課題を設定できる。 2. 自らの研究課題に関して文献検討を行い、実践・研究の理論的枠組みと研究方法を明確にすることができる。							
回 数 （1回90分）	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1～15回	1. 成人・老年期の患者を対象としたがん看護およびクリティカルケアの領域における実践・研究課題を概観し、実践・研究課題について明確にする。 2. 追究する課題を定め、文献検討を行って、実践・研究の理論的枠組みおよび研究方法を明確にする。	1. 成人・老年期の患者を対象としたがん看護領域、またはクリティカルケア領域のいずれかを選択し、自己の追究すべき実践・研究課題を明確にするために、広く文献検索を行い、課題の文献的および経験的検討を十分に行う。 2. がん看護領域またはクリティカルケア領域から設定した実践・研究課題について、課題解決のための理論的枠組みと研究方法を検討するために、国内・外の研究論文の分析的解説を行う。 上記の課題は計9回のゼミナールの中で発表し、討議および、指導教員による助言を受けて修正し、完成させる。						眞嶋 増島
成績評価 基 準	参加状況およびレポート							
教科書 参考書 等								
備 考	*CNS（がん看護）を希望するものは、化学療法、放射線療法、幹細胞移植看護、がんリハビリテーション看護、疼痛介護、緩和ケア、ターミナルケア、予防・早期発見に関連する実践課題を明らかにし、文献検討等により、実践のための理論枠組みを作成する。 *看護学演習Ⅱを履修するものは、看護学演習Ⅰにおいてより研究に焦点を当てた文献検討、研究の概念枠組み、研究方法の詳細な検討を行う。							

授 業 科 目	看護学演習Ⅱ（成人看護学） Advanced Seminar in Nursing Ⅱ （Adult Nursing）	責任教員 眞嶋 朋子	単位数	4	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	120	受講セメスター	後期		
目 的	看護学演習Ⅱ（成人看護学）で検討した研究課題の中からフィールドワークを通して、研究課題、方法を理論的・実践的視点から迫及する。							
到 達 目 標	自らの研究課題に関し、フィールドワークを行い、実践的視点から研究課題ならびに研究方法を明確にすることができる。							
回 数 （1回90分）	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
	研究課題についてフィールドワークを行い、実践的視点からの研究課題の追究のプロセスとその成果を検討する。	1. 研究課題の現実性を明確にするために適切なフィールドを設定し、フィールドワークを実施する。 2. 研究課題に対する自己の見解および課題追究の過程や成果を発表し、研究討議を行う。さらに討議では、含まれる倫理的な問題について検討する。方法は、ゼミナールとフィールドワークによる。						眞嶋 増島
成績評価 基 準	参加状況およびレポート							
教科書 参考書 等								
備 考								

授 業 目 的	看護学演習Ⅰ（老人看護学） Advanced Seminar in Nursing (Gerontological NursingⅠ)	責任教員 正木 治恵	単位数	4	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	120	受講セメスター	後期		
目 的	看護実践活動に関連した課題を設定し、文献検討による考察を深めるとともに、看護実践およびその評価を通して高度専門的看護実践の基盤を強化する。 また、特別研究を行うための実践能力の研鑽と、研究課題の焦点化、ならびに研究方法の実践の場への適用に関する検討を行う。							
到 達 目 標	1. 老人看護ならびに慢性疾患看護における高度専門的看護実践の基盤を強化する。 2. 特別研究を行うための実践能力の研鑽を行い、研究課題の焦点化を図る。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
(4単位)	1. 老人看護ならびに慢性疾患看護における看護活動の実践・評価 2. 老人看護ならびに慢性疾患看護に関する研究の動向と研究課題	学習課題にそって、文献学習、小規模実地調査、看護実践事例の振り返りを行い、グループディスカッションを通して理解を深め、実践的課題を明確にしていく。看護活動は関心領域により下記の学習内容AまたはBを選択する。 A. 老人と家族への看護活動 老人ケア病棟・施設あるいは在宅の老人や家族（介護者）を対象に、健康生活を包括的にアセスメントし、援助計画をたてて援助を展開し、記録する。または、老人の健康問題とセルフケアの実際、老人の家族への支援、老人の生活と地域文化など、関心領域のテーマを選び、小規模実地調査を行う。 B. 慢性疾患看護に関する看護活動 糖尿病、慢性呼吸不全、慢性腎不全、慢性心不全、神経難病、膠原病等、学生の関心領域の慢性疾患をもつ患者に、看護者として継続的にかかわり、援助を展開し、記録する。または、慢性疾患患者の看護に関するテーマを選び、小規模実地調査を行う。 自己の研究テーマに関連する海外文献を抄読し、研究論文のクリティークを行い、研究課題の焦点化、ならびに研究方法の実践の場への適用に関する検討を行う。						正木 谷本 田所 高橋 河井
成績評価 基 準	参加状況ならびにレポートにより評価する。（特別研究において関心領域の高度の実践とそれに関わる研究の推進が可能かどうかの観点から評価する。）							
教科書 参考書 等	Ann B. Hamric, Judith A. Spross, Charlene M. Hanson: Advanced practice nursing-Integrative approach Third edition, Elsevier Saunders, 2005.							
備 考	老人看護専門看護師認定試験受験を希望する者は、老人看護学Ⅰ、老人看護学Ⅱ－A、看護学演習Ⅰ－A（老人看護学）にひきつづき、以下の方法により特別研究を行う。 特別研究（老人看護学）パート1（4単位）1年次後期後半 ①老人ケアの場である病棟・施設・家庭に赴き、老人看護の現状と問題点を明確にし、理論に照らしてその改善方法を検討する。 ②老人病院、老人ケア施設、訪問看護ステーションにおいて看護活動の運営、ケア環境、職員教育（集団教育と個別指導）について現状を把握し、理論に照らしてその改善を検討する。 特別研究（老人看護学）パート2（8単位）2年次 パート1に引き続き、立案した研究計画にそって実施し、論文を作成する。							

授 業 目 的	看護学演習Ⅱ（老人看護学） Advanced Seminar in Nursing （Gerontological Nursing Ⅱ）	責任教員 正木 治恵	単位数	4	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	120	受講セメスター	後期		
目 的	関心領域における看護実践活動またはフィールドワークを通して、自らの研究課題ならびに研究方法を理論的・実践的視点から追究する。							
到 達 目 標	関心領域における看護実践活動またはフィールドワークを行い、自らの研究課題と研究方法について実践的視点から明確にすることができる。							
回 数 （1回90分）	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
（4単位）	関心領域における、看護実践、またはフィールドワークを通じた、実践的視点からの自己の研究課題の追究	1. 自らの研究課題ならびに研究方法について、その現実性や適切性を明確にするために、関心領域における看護実践またはフィールドワークを実施する。そのプロセスにおいて、適切なフィールドの選定、倫理的配慮、看護実践記録やフィールドノートの十分な記録、適切な分析方法等を検討する。看護実践においては、指導教員の指導のもとに、その援助過程を振り返り、高度専門的看護実践の基盤の強化を図る。 2. 演習による自己の研究課題や研究方法の追究過程を発表し、研究討議を行う。						正木 谷本 田所 高橋 河井
成績評価 基 準	参加状況ならびにレポートにより評価する。							
備 考								

授 業 目 的	看護学演習Ⅰ（精神看護学） Advanced Seminar in NursingⅠ (Psychiatric and Mental Health Nursing)	責任教員	単位数	4	必修・選択		科目等 履修生	否
		岩崎 弥生	時間数	140	受講セメスター	通期		
目 的	精神看護領域における方法論や理論を基盤として、精神看護を必要とする個人・家族・グループに対する理解を深め、精神看護の実践・評価能力を強化する。							
目 標	1) 精神看護を必要としている個人とその家族に継続的に関わり、個人・家族を取り巻く社会文化的背景や保健福祉制度を含めた包括的な健康生活状態の査定に基づき、看護を計画・実施・評価する。 2) グループを対象とした精神看護学領域の理論と方法論をもとに、小グループを対象としたプログラムを開発、運営、評価する。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法				担 当 教 員	
	制度や体制の活用 個人・家族を取巻く社会文化的背景や保健福祉制度・資源などを査定・活用する方法を学ぶ。 (演習：1単位，30時間) 精神の健康生活状態の評価 個人・家族・地域の状況や力量を査定する視点と技術を習得し、個人・家族・地域の状況や資源を踏まえた看護を実施・評価する。 (演習：1単位，30時間以上) セラピーの実施 小グループを対象としたプログラムを開発、運営、評価する。 (演習：2単位，60時間以上)		関心領域において個人・家族と継続的に関わり、個人・家族を取巻く社会文化的背景や保健福祉制度の状況を把握し、諸制度を活用しながら看護を展開する。 地域資源のマッピング・査定 地域資源活用の計画・実施・評価 関連機関(行政、医療、福祉、教育)との連携・調整 関心領域において個人・家族と継続的に関わり、個人・家族の生活状況や力量を踏まえて、看護を計画・実施・評価する。また、行った看護に対して、理論的・方法論的検討を加え、看護の改善への示唆を得る。 精神的健康状態、生活状況、当事者・家族力量の査定 個人・家族の力量を生かした看護の計画・実施・評価 地域の精神保健福祉施設において小グループを対象としたプログラムを開発、運営し、プログラムに理論的・方法論的検討を加え、最終レポートにまとめる。 当事者力量・ピアサポート・ソーシャルインクルージョン・専門家のディスパワメントなどの視点を含めたホリスティックなプログラムの検討 グループの査定に基づくプログラムの開発 グループを対象としたプログラムの実施・運営・評価				岩崎	
成績評価 基 準	フィールドノートおよび事例報告							
教科書 参考書 等	福田俊一、増井昌美（1994）家族療法の面接室から。ミネルヴァ書房。 ヤーロム、ID（1997）グループサイコセラピーヤーロムの集団精神療法の手引き。金剛出版。 ビデオ：シミュレーションによる精神科患者インタビュー ビデオ：回想法							
備 考	CNS（精神看護）を希望する者は、精神看護学Ⅰ、精神看護学Ⅱ、看護学演習Ⅰ（精神看護学）を受講し、以下の方法により特別研究を行う。 ≪特別研究（精神看護学）その1：フィールド演習≫（4単位） 下記の①、②のフィールドからひとつを選んで演習し当事者や地域住民との協働、パティシペーション等の視点から精神看護について理解を深め、より質の高い精神看護の知識・技術を習得する。また理論や先行研究の知見を実践に活用していく方法、ならびに実践から研究・理論に発展させる方法を学ぶ。 ①「障害のある人もない人も共に生きる」地域づくりを実践している地域において地域精神看護を実践し、知識・スキルの向上を図る。特に、地域生活支援における多職種との効果的な協働、「共に生きる」地域づくりにおける当事者および住民との協働、地域生活移行支援や地域生活支援における実践能力を習得する。また、相談・調整・教育の視点から、実践の現場で生じる課題に適切に対応する方法を検討する。 ②学生の関心領域に応じたフィールド（精神科救急病棟、司法精神病棟、身体合併症病棟、児童精神科病棟、思春期精神科病棟、老年精神科病棟など）で看護を実践し、高度な精神科看護技術を習得する。特に、病棟の特殊性に合わせた看護ケアや各種治療プログラム、ならびに多職種との連携・協働について学ぶ。また、相談・調整・教育の視点から、臨床現場で生じる問題に適切に対応する方法を検討する。 ≪特別研究（精神看護学）その2：フィールド研究≫（8単位） 精神看護の実践を振り返り、自身の精神看護における研究課題を明確にして、課題を探究するための研究方法について検討する。研究課題をもとに、患者・家族への看護やケアの質向上に関わる研究計画を立案し、計画にそって研究を遂行し、成果を論文にまとめる。							

授 業 目 的	看護学演習Ⅱ（精神看護学） Advanced Seminar in Nursing II (Psychiatric and Mental Health Nursing)	責任教員 岩崎 弥生	単位数	4	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	120	受講セメスター	通期		
目 的	関心領域における看護実践を通して、精神看護領域における課題および自らの研究課題ならびに研究方法を理論的・実践的視点から追及する。							
目 標	1) 精神看護領域における課題を発見し、精神看護の向上と発展にどのように貢献できるかを検討し、課題へのアプローチ方法を計画する。 2) 関心領域において看護実践活動を行い、自らの研究課題と研究方法について実践的視点から明確にする。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
	関心領域における看護実践活動を通じた、実践的視点からの自己の研究課題の追求を行う。 (60時間)	自らの研究課題ならびに研究方法について、その現実性や適切性を明確にするために、関心領域における看護実践を実施する。そのプロセスにおいて、適切なフィールドの選定、倫理的配慮、看護実践記録やフィールドノートの十分な記録、適切な分析方法等を検討する。看護実践においては、指導教員の指導のもとに、その援助過程を振り返り、高度専門的看護実践の基盤の強化を図る。 演習による自己の研究課題や研究方法の追求過程を発表し、研究討議を行う。						岩崎
	精神看護領域における課題へのアプローチの方法を学ぶ。 (60時間)	個人、家族を対象とした看護経験をもとに精神科看護領域の課題を発見し、文献検索、関係者への聞き取り、資料収集等を通して課題へのアプローチ方法を計画する。						
成績評価 基 準	実習状況およびレポート							
教科書 参考書 等	バーンズ, N&グローブ, SK (2007) 看護研究入門：実施・評価・活用, エルゼビア・ジャパン.							
備 考	精神看護専門看護師資格試験受験者でない学生の必修科目である。							

授 業 目 的	看護学演習Ⅰ・Ⅱ（地域看護学） Advanced Seminar in Nursing (Community Health Nursing)	責任教員 宮崎美砂子	単位数	8	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	240	受講セメスター	通期		
目 的	地域看護学にかかわる看護事象の特質について理解を深め、研究事象とすべき課題、研究方法の特質を次の2つの素材から明確にする。 1. わが国及び諸外国における地域看護学の研究課題 2. 学士課程における地域看護学教育の内容と方法							
到 達 目 標	1. 地域看護学の研究事象の特質及び研究方法の特質について実地に調べ、討論の素材を作成すると共に、討論の実施、討論の成果の集約を行うことができる。 2. 学士課程における地域看護学教育の内容と方法の理解をとおり、地域看護学における看護事象の特質についての考察を深めることができる。							
(単位数)		学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法				担 当 教 員
		オリエンテーション		学習の進め方、学習課題の提示。				宮崎
(3単位)		1. 地域看護学の立場から追究すべき研究課題、あるいは追究されている研究課題の実際から、研究事象の特質及び研究方法の特質を理解する。		わが国及び諸外国における地域看護学の研究課題を以下の2つの視点から取り上げる。				
(3単位)		1) わが国において追究すべき研究課題		1) わが国において、現在、地域看護学の立ち場から追究すべき課題を複数設定し、事象の実態把握と、看護専門職固有の機能や役割を明確にするための討議の場を設定する。受講者は担当課題をあらかじめ選定し①文献検討②関係者からの聴取等の方法により、課題の実態及び看護専門職の役割について報告を行い、意見交換を行う。				
(3単位)		2) 諸外国で取り上げている研究課題		2) 地域における看護事象を研究課題に取り上げている主に米国を中心とした諸外国の博士論文を読んで内容を報告する。研究事象や研究方法の特徴、研究成果について意見交換を行う。				
(2単位)		2. 学士課程の学生に対し、地域看護学にかかわる看護事象の特質を教授するための教育の一部を実地に行い、教育内容・方法を理解する。		本学部看護学科学生に対して行う、授業計画立案、授業実施、授業評価の一部に関わり、教育内容及び教育指導方法を明確にするための意見交換を行う。教育活動を通して、地域看護学にかかわる看護事象の特質について理解を深めることができた内容を考察する。				
成績評価基準	授業への主体的参加を重視する。準備活動への参画状況、出席状況、各段階にて求めるレポートの成果を総合して評価する。							
教科書参考書等	随時提示する。							
備 考								

授 業 科 目	看護学演習Ⅰ・Ⅱ（訪問看護学） Advanced Seminar in Nurcing (Visiting Nursing)	責任教員 諏訪さゆり	単位数	8	必修・選択		科目等 履修生	否	
			時間数	240	受講セメスター	通期			
目 的	文献学習や訪問看護実践活動を通じて高度訪問看護実践の基盤を強化する。 特別研究を行うための研究課題の焦点化，ならびに実践の場への研究方法適用に関する検討を行う。								
到 達 目 標	1．論文読解能力を高め，多様な研究方法を理解する。 2．訪問看護における高度専門的看護実践の基盤を強化する。 3．特別研究の課題の焦点化を行う。								
単 位 数		学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 員
4単位		1．高度訪問看護実践への理解を深め，学習領域を定める。		各自の経験事例を含めた訪問看護師事例検討会での学習によって，高度訪問看護実践に必要な能力についての知識を獲得する。					諏訪 石橋
4単位		2．高度訪問看護実践の基盤を強化する。		訪問看護ステーション，居宅介護支援事業所，医療機関在宅部門などでの実践的な演習を通じて，利用者・家族のアセスメント，訪問看護計画，他職種とのチームワーク等の能力を高める。					
4単位		3．論文読解能力を高め，多様な研究方法を理解する。		欧文論文の文献学習にて研究計画作成の方法，質的・量的・実験的な研究方法の基礎的理解と応用力を身に着ける．訪問看護に関する研究の現状を知る。					
4単位		4．特別研究の課題の焦点化。		文献検討や事例検討を通じて特別研究の課題を定め，研究計画を立てる。					
成績評価 基 準	参加状況とレポート								
教科書 参考書 等	随時提示する								
備 考	CNS（在宅看護）を希望するものは，本演習の学習課題1．及び2．を必修とする。 さらに，特別研究の一部として訪問看護ステーションにて利用者を受け持ち，利用者・家族への看護実践を行う．利用者として，高齢者，終末期患者，リハビリテーションの必要なもの，認知性高齢者のうちから2種類の利用者を，さらに難病患者，精神障害者，心身障害児・者のいずれかの利用者を受け持つ。								

授 業 目 的	看護学演習Ⅰ・Ⅱ（保健学） Advanced Seminar in Nursing （Health Science）	責任教員	単位数	8	必修・選択		科目等 履修生	否
		北池 正	時間数	240	受講セメスター	通期		
目 的	集団を対象とした健康問題を解明するために、疫学的アプローチ法を修得する。							
到 達 目 標	1. 疫学研究の原理と方法を修得する。 2. 情報収集方法と統計分析方法を修得する。 3. 疫学的方法による研究の実践を行う。							
回 数 （1回90分）	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
	疫学的方法の修得	疫学研究の原理と方法について理解する。疫学の成書を精読する。						北池
	情報収集方法の修得	情報収集方法について理解する。 環境情報，生態情報，生活情報の把握方法を演習する。						
	統計分析方法の修得	統計分析方法について理解する。 統計学の成書を精読する。						
	文献のクリティカルリーディング法の修得	特別研究に向けて，関心のある領域の外国文献，国内文献のクリティカルリーディングを行い，疫学研究の理解を深める。						
	疫学研究の演習	卒業研究に指導的に参加し疫学研究を修得する。さらに特別研究に向けて，関心のある領域の疫学研究を実践する。						
成績評価 基 準	参加状況およびレポート内容							
教科書 参考書 等	随時紹介する。							
備 考								

授 業 科 目	腫瘍医療ケアコーディネーション Care coordination in clinical oncology	責任教員	単位数	2	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	否
		眞嶋 朋子	時間数	30	受講セメスター	後期		
目 的	癌または終末期の患者を中心とした包括的なケア提供のためのケアコーディネーションの理論と実践方法を習得する							
到 達 標 準	・癌または終末期患者に関わるケアコーディネーションの理論と実際を理解する・ ・癌または終末期患者に関わるケアコーディネーションに関する実践上の問題を明らかにし、その解決策を見いだすことが出来る、							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1	癌または終末期医療におけるケアコーディネーションの現状と課題	・学習の目的・学習課題及び学習方法を提示する ・ケアコーディネーションの理論と方法を概説する ・癌または終末期医療の場におけるケアコーディネーションの課題を概説する						眞嶋
2	診断時、治療選択の場におけるケアコーディネーションの必要性と課題	・外来と、入院の場における診断、治療選択の場における患者の問題、ケアコーディネーションの課題についてを概説する						眞嶋
3	集学的治療におけるケアコーディネーションの必要性と課題	・化学療法における患者の問題、ケアコーディネーションの必要性を概説する						()
4	終末期医療におけるケアコーディネーションの必要性と課題	・入院から在宅移行期における患者、家族の問題とケアコーディネーションの必要性を概説する						石橋
5	医療依存度の高いがん終末期、またはがん高齢患者のケアコーディネーションの必要性と課題	・高齢で合併症を抱える癌・終末期患者および家族に関わるケアコーディネーションの必要性を概説する						石橋
6～13	ケアコーディネーションの実際	・ケアコーディネーションの必要性、具体的方法を臨地において学習し、その課題を見いだす。＊						田口 藤澤 眞嶋
14～15	ケアコーディネーションの課題と解決策の討議	・グループ討議による自己の課題の明確化と解決策を検討する						
成績評価 基 準	ケースレポート 出席							
教科書 参考書 等	別途提示							
備 考	＊第6～13回（8コマ分）約半日×4日間は、病院における医師、薬剤師、看護師らの実践の場やケースカンファレンス等に参加し、ケースの状況把握と、必要とされる社会資源、他職種コーディネーションの課題を見いだす							

授 業 科 目	看護管理学Ⅰ Advanced Nursing AdministrationⅠ	責任教員	単位数	2	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	可
		手島 恵	時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	看護サービスをより効率的・効果的に行うための看護管理にかかわる理論を学ぶとともに、その理論を、患者・家族、看護職員および医療関係職、さらに福祉など関連する他領域の人々と協働していく上で活用できるよう、改善に資する方策を考究する。							
到 達 標	1. 歴史的背景をふまえ管理方略の変遷について述べることができる。 2. 患者満足の視点から、医療サービスとその管理について概説できる。 3. 組織におけるリーダーシップの役割と責任について説明できる。 4. 看護サービスにおける人材開発の方略について説明できる。 5. 看護管理上の課題を理解する。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1 回	オリエンテーション	授業科目の目的ならびに目標について説明する。						手島
2－4 回	看護管理のパラダイムシフト	医療をとりまく変化の中で、看護管理の考え方がどのように変化したかを論じる。						
5－6 回	組織管理 リーダーシップ	組織管理ならびにリーダーシップにかかわる理論を概説し、看護管理への適用を論じる。						
7－8 回	患者満足と看護の質	サービス論について概説し、看護の質を維持・向上させていくための方略を検討する。						
9－10回	リスクマネジメント	リスクマネジメントにかかわる概念を概説し、医療における危機管理の方略を論じる。						
11－12回	ストレス管理	看護職者のストレスについて概説し、ストレス管理について論じる。						
13回	看護管理と倫理	看護管理に関連する倫理的諸問題について論じるとともに、対応策について討議する。						
14回	看護職のキャリア・デベロップメント	看護専門職としての展望を検討し、キャリアの発展について論じる。						
15回	マーケティング	医療システムにおける、看護サービスの市場を明らかにするとともに、サービスを適切に提供していくためのシステムについて討議する。						
成績評価基準	授業への積極的参加（30％）、課題（70％）							
教科書 参考書 等	各回毎に提示する							
備 考								

授 業 科 目	ナーシング・フィジカル・アセスメント Nursing Physical Assessment	責任教員 中村 伸枝	単位数	2	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	可
			時間数	60	受講セメスター	後期 集中		
目 的	対象の身体を包括的に査定するための、方略、技術や技法を学ぶ							
到 達 目 標	対象特性に応じたアセスメントのポイントを選択し、アセスメントを実施できる 現在の症状、身体所見の正常・異常について履歴を含めて識別・解釈できる 効果的な救急ケアの開始を含めて、健康問題と介入に優先度がつけられる							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1 回	オリエンテーション	生活や身体機能のアセスメントにおける思考過程について 講義・演習を通して学ぶ 5～18回 それぞれのフィジカルアセスメントについて ・医師の講義・演習 1 コマ ・シミュレーター等を活用した自己学習 1 コマ を通して学ぶ						中村
2 回～4 回	臨床判断(clinical judgment)とフィジカルアセスメント							非常勤講師 (クロース)
5 回～18回	脳神経のフィジカルアセスメント							兼任 (川口)
	呼吸器系のフィジカルアセスメント							兼任 (笠原)
	循環器のフィジカルアセスメント							兼任 (未定)
	乳幼児のフィジカルアセスメント							兼任 (未定)
	感覚器（耳鼻科）のフィジカルアセスメント							兼任 (鈴木)
	感覚器（眼科）のフィジカルアセスメント							兼任 (菅原)
	泌尿器のフィジカルアセスメント	兼任 (市川)						
19回～21回	トリアージと救急蘇生	トリアージ・救急蘇生の方法について講義・演習を通して学ぶ						兼任 (上野)
22回～24回	事例を用いたフィジカルアセスメント①	事例を用いて対象者のアセスメントを行い、討議により理解を深める。 ① 病態から身体機能、生活に至るアセスメント ② 対象特性別のアセスメント						兼任 (江幡、高山) 兼任 (青山)
25回・26回	事例を用いたフィジカルアセスメント②							
27回～30回	自己学習							
成績評価 基 準	演習への参加状況、およびレポート							
教科書 参考書 等	ヘルスフィジカルアセスメント(上・下巻), Violet H. Barkauskas, Linda Ciofu Baumann, Kathryn Stoltenberg - Allen, Cynthia Darling - Fisher (著), 花田 妙子 (翻訳), 中木 高夫 (翻訳), 山内 豊明 (翻訳), 日総研出版, 1998.							
備 考	初回のオリエンテーションの講義日程は、 <u>大学院用掲示板</u> に掲示します。 なお、本シラバスに記載した講義日程・講師は、都合等で変更となる場合があります。 随時、大学院用掲示板で最新の講義日程を確認して下さい。 【使用可能なシミュレータ】 1. フィジコ, 2. 眼底診察シミュレータ, 3. 耳の診察シミュレータ, 4. 呼吸音診察シミュレータ ラング, 5. 心臓診察シミュレータ イチロー, 6. 救急蘇生シミュレータ (セーブマン, レサシ・ジュニア), 7. Sim Baby							

授 業 目 的	看護実践方法論Ⅰ Competency for Advanced Nursing PracticeⅠ	責任教員	単位数	2	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	可
		正木 治恵	時間数	30	受講セメスター	前期集中		
目 的	1. 看護実践における看護理論の活用とその効果について理解し、活用の方法を演習する。 2. 看護実践の場における看護職へのコンサルテーションの効果について理解し、その方法を演習する。							
到 達 目 標	1. 各種看護理論の特徴を理解し、自己の実践事例に適用して、考察できる。 2. 看護実践の場におけるコンサルテーションについて学習し、必要な基本技術を習得する。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1～2回	1－1) 看護理論ならびにその活用の効果を理解する	看護理論の意義、発展の歴史、実践における活用ならびに検証について理解する。 (講義)						正木 山本 酒井 黒田 和住 荻野 (非常勤講師)
3～5回	1－2) 看護理論の活用の方法を理解する	看護理論を使って自己の看護実践を振り返り、説明、評価する。 (グループワーク)						
6～8回	1－3) 各種看護理論の特徴、実践との関係を理解する	看護理論を実践に活用する上での意義と課題について討議する。 (グループワーク、発表、まとめ)						
9～10回	2－1) ケア提供者に対するコンサルテーションの必要性とその効果について理解する	コンサルテーションの定義、構造、過程、コンサルタントに必要な能力を理解する。 (講義)						
11～13回	2－2) 間接支援であるコンサルテーションの基本技術を理解する	対人関係の間で生じるダイナミクスを理解する。 精神状態のアセスメントを実践する。 様々な面接方法を一通り体験し自分に適した面接方法を考える。 (グループワーク・ロールプレイングなど)						
14～15回	2－3) コンサルテーションにおける自己評価方法を理解する	事前課題事例についてのコンサルテーションを行い、コンサルテーションプロセスを体験する。 コンサルテーションを行うための今後の自己の課題を見つける。						
成績評価 基 準	参加状況ならびに事前・事後レポートにより評価する。							
教科書 参考書 等	事前に提示する。							
備 考	専門看護師認定試験受験を希望する者は履修すること。 講義、演習は夏期休業中に集中で行う。また事前に下記の課題をまとめておくこと。 ①事前に提示する基礎的文献を読みまとめておく。(別紙) ②事前に自己の看護事例をまとめておく。(別紙)							

授 業 目 的	看護実践方法論Ⅱ Competency for dvanced Nursing Practice Ⅱ	責任教員	単位数	2	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	可
		眞嶋 朋子	時間数	30	受講セメスター	前期 集中		
目 的	1. 看護政策の歴史と現状を概観し検討する。 2. 看護実践における人権擁護と倫理的ジレンマについて論じ、その問題解決の方法について検討する。							
到 達 目 標	1. 看護政策と政策決定のプロセスを理解できる。 2. 看護人材確保育成計画の概要と課題及びその対策について理解できる。 3. 現状における看護政策上の課題を明確にし、課題解決のための提言を述べるができる。 4. 看護実践における看護倫理の視点と倫理的ジレンマについて説明できる。 5. 看護実践における人権尊重と擁護のあり方について説明できる。 6. 看護実践における倫理的ジレンマを解決する方法について説明できる。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1 回	1－1) 看護政策：看護人材 育成計画の課題	看護人材育成計画と課題について論述する。 (看護行政・政策の動向と看護教育、看護職者の看護技術習 得状況と課題、新人看護職員の研修の推進など)						和住
2、3 回	1－2) 看護政策の歴史	看護政策の歴史的変遷について論述する。 (看護系大学と大学院の課題と展望など)						和住 非常勤
4、5 回	1－3) 医療行政と看護政策	医療行政と看護政策について論述する。 (日本における医療行政と看護政策について概説する。医 療制度改革に向けた看護の動向、看護職員の需給に関する最 近の動向など)						
6、7 回	1－4) 現状の課題分析	上記講義を踏まえ、関心をもった領域の現状の課題を検討し、 問題点とその対策をまとめる。						眞嶋、 黒田
9～10回	2－1) 医療倫理、倫理原則、 看護倫理	看護倫理、倫理原則などの基本的知識と倫理的ジレンマの解 決方法モデル等について論じ、看護実践における看護倫理の 視点と倫理的ジレンマについて理解を深める。						眞嶋、 手島、 谷本
11～15回	2－2) 看護実践における人 権擁護と倫理的ジレンマ	看護実践における人権擁護と倫理的ジレンマについての講 義を受け、各自が自分の事例を検討する。次に4～5名のグ ループで検討し、一事例を選択し、倫理的ジレンマを解決す る方法について検討し、それを発表し、全員で意見交換し、 倫理的ジレンマの分析とその解決方法について理解を深め る。						
成績評価 基 準	演習実践状況、及び最終レポートにより評価を行う。							
教科書 参考書 等	事前学習課題と一緒に文献リストを紹介する。							
備 考	看護師資格試験受験を希望する者は受験すること。 講義、演習は夏期休業中に集中で行うが、事前に以下の課題をまとめて授業に臨むこと。 ①各自が関心をもった看護政策上のテーマについて、課題の明確化を行い、制度や法律等の資料を調べて、 それを授業にもってくる。 ②事前に提示した基礎的文献を読み、課題学習項目（看護倫理に関する語句の定義）を整理しておく。 ③看護実践で倫理的な困難に直面した事例について、事前に提供した「看護実践における葛藤分析シート」 Ⅲの欄まで記入し、受講前にメールで提出し指導を受け、授業前の期日までに再提出する。 ④事前提出した事例はファイルで保存しておく。							

授 業 目 的	看護学実習（母性看護学） Advanced Practice for Certified Nurse Specialist.(Maternal Nursing)	責任教員 森 恵美	単位数	6	必修・選択		科目等 履修生	可
			時間数	270以上	開講セメスター	1年次後期 ～2年次前期		
目 的	妊娠成立から産後1年以内にある様々な健康状態にある母子及び家族が、生命力や自然のメカニズムを湧出させ、胎外生活に適応し新しい役割を獲得できるように、母子とその家族を支援する、周産期看護領域の専門看護師としての実践能力を修得する。							
到達目標	1. 様々な健康状態にある母子とその家族に対して、理論に基づき卓越した看護を実践（身体的心理社会的アセスメント・実施・評価、異常の早期発見、緊急時対応を含む）することができる。 2. 看護職者に対し、コンサルテーションを行うことができる。 3. 必要なケアが円滑に行われるために、保健医療福祉に携わる他職種と連携し、専門看護師として活動を行う。また、他職種との調整を行うことができる。 4. 様々な健康状態にある母子とその家族を擁護するために、倫理的な問題や葛藤の有無をアセスメントし、解決をはかることができる。 5. 看護職者に対しケアを向上させるために教育的役割を果たすことができる。 6. 研究結果を看護実践や評価に活用することができる。							
回数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担当 教員
	①受持制母子看護の実践 ②看護職者への教育 ③他職種との連携、調整 ④倫理的問題の解決 ⑤看護職者へのコンサルテーション・調整の実践を学ぶ ⑥研究結果を、看護実践や評価に活用して、マネジメント調整、問題提示と建設的提言	①これまでの学習結果を統合し、自己の実践に関する研究的課題をもって、周産期における対象（ローリスクからハイリスク妊娠まで）を受持制で5事例以上継続的にかかわる。実施した看護をフィールドノートに記述し、事例の分析、自己の看護実践の評価を行う。 ②看護倫理的な視点を持ちながら、周産期に生じた特別かつ複雑なニーズをもつ母子及び家族に対する看護実践を担当し、随時スーパーバイズを受けながら、他専門職者との調整・連携・協働を含む看護実践活動を展開する。 ③実習指導者が看護職者への教育・コンサルテーション、他職種との連携・調整などを行っている姿や役割モデルを見学し、その方法について学び、自己の実践に活かす。 ④看護援助の経過についてプレゼンテーションを行い、討論を通して理解を深める。 ⑤上記の活動を展開する中で、看護の創造・改革・改善のための研究課題を明確化し、それを実践するための方略を体験的に学ぶ。 ⑥看護援助経過を実践機能・コンサルテーション・教育機能・調整機能に焦点をあてて分析・考察し、各項目2例以上についてまとめ、最終レポートを提出する。						森坂上
成績評価基準	実習実施状況、及び最終レポートにより評価を行う。							
教科書 参考書 等	その都度、紹介する。							
備 考	母性看護専門看護師資格試験受験希望者は必修科目となる。 科目等履修者は本教育課程修了者であることが必須条件である。							

授 業 目 的	看護学実習（小児看護学） Advanced Practice for Certified Nurse Specialist (Child Nursing)	責任教員	単位数	6	必修・選択		科目等 履修生	可
		中村 伸枝	時間数	270	開講セメスター	通期		
目 的	様々な健康状態にある小児が、最もよい健康状態を保ち、最もよい成長発達を遂げられるように小児とその家族を支援するための、小児看護専門看護師としての実践能力を習得する。							
到達 目 標	1. 様々な健康状態にある小児と家族に対して、理論に基づき卓越した看護を実践（アセスメント・実施・評価）することができる 2. 看護職者に対し、コンサルテーションを行うことができる 3. 必要なケアが円滑に行われるために、保健医療福祉に携わる他職種と連携し、専門看護師として活動を行う。また、他職種との調整を行うことができる 4. 様々な健康状態にある小児や家族を擁護するために、倫理的な問題や葛藤の有無をアセスメントし、解決をはかることができる 5. 看護職者に対しケアを向上させるために教育的役割を果たすことができる 6. 研究結果を看護実践や評価に活用することができる							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
	・病棟や外来において、常に倫理的視点を持ちながら、患者及び家族に対する看護援助を実践する ・看護職者への教育や、コンサルテーション・調整の実際を学ぶ ・研究結果を看護実践や評価に活用する	1. 個々の関心領域において、看護上の問題の大きい患児および家族3事例以上と継続的な関わりをもち、看護援助を実践する。 2. 事例については、患児の病状に関する病態生理学的把握と分析、および患児に適用される治療方法の把握とそれに伴う看護問題の分析を行い、適切なケアを実施し、評価する。 3. 研究結果を看護実践や評価に活用する。 4. 入院、退院後の外来あるいは在宅におけるケアといった一連の過程について、事例と継続的なかわりをもつ。 5. 実施した看護をフィールドノートに記述し、症例の分析、評価を行う。 6. 実習病院内で卓越した看護実践をもち、看護職者への教育、コンサルテーション、他職種との調整などを行っている実習指導者の実践を見学し、教育やコンサルテーション・調整の実際を学ぶ。 7. 看護援助を実践する中で、看護技術を洗練し、看護職者への教育、コンサルテーション、他職種との調整を実施・評価し、その方法について学ぶ。 8. 看護援助を実践する中で、倫理的な問題や葛藤が生じた場面では、患児や家族を擁護するとともに、ケアに関わる一人一人の倫理観を尊重し、意見交換を行うなど、調整の方法を学ぶ。 9. 看護援助の経過についてプレゼンテーションを行い、討論を通して理解を深める。 10. 看護援助経過を実践機能・コンサルテーション・教育機能・調整機能に焦点をあてて分析・考察し、各項目2例以上についてまとめ、最終レポートを提出する。						中村 佐藤
成績評価 基 準	実習実施状況、プレゼンテーションおよび最終レポートについて評価基準に従い評価を行う。							
教科書 参考書 等	・Harmic, AB., Spross, JA., and Hanson, CM. : Advanced Nursing Practice An Integrative Approach, W.B.Saunders, 2008 ・Patti Rager Zuzelo : The Clinical Nurse Specialist Handbook, Jones and Bartlett, 2009 ・Sonya R. Hardin and Roberta Kaplow : Synergy for Clinical Excellence, AACN, 2004							
備 考	専門看護師教育課程に関わる科目であり、CNS（小児看護）を希望する学生が受講する。 科目履修の要件は専門看護師教育課程に含まれる他の科目を全て履修済みであること。							

授 業 科 目	看護学実習（がん看護学） Clinical nursing practice (Oncology nursing)	責任教員	単位数	6	必修・選択		科目等 履修生	否
		眞嶋 朋子	時間数	270	開講セメスター	通期		
目 的	複雑な問題を抱えるがん患者および家族の入院前から退院後の外来・在宅における看護実践を通して、がん専門看護師としての実践能力を習得する							
到 達 標	・患者および家族の複雑な問題を、包括的にアセスメントし、看護援助の計画立案、実施、評価することができる ・多職種と連携して、外来または在宅における看護を実践できる ・他の専門職者からのがん看護に関する相談に対して、コンサルテーションの枠組みを用いて適切に助言することができる ・専門看護師の活動の場に参加し、がん専門看護師としての役割を理解し、チーム医療に貢献するための方法を見いだすことができる							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
	・入院または外来通院への移行期において、複雑な状況下にある患者および家族に対する看護を実践する（2週間以上） ・外来における患者および家族に対する看護を実践する（2週間以上） ・がん看護専門看護師の役割機能を理解し、実践する（2週間以上）	・個々の関心領域において、複雑な看護上の問題を抱える患者、および家族3事例以上と継続的な関わりをもち、看護援助を実践する。 ・事例については、病状に関する病態生理学把握と分析、および適用される治療方法の把握とそれに伴う看護上の問題の分析を行い、適切なケアを実施し評価する。 ・入院前、退院後の外来あるいは在宅におけるケアといった一連の過程について、事例と継続的な関わりをもつ。 ・実施した看護をフィールドノートに記述し、事例の分析、評価を行う。 ・外来診察室や外来化学療法室で、患者や家族2事例以上のアセスメントと看護援助を実践し、評価を行う。 ・看護職者への教育やコンサルテーション、多職種との調整などを行っている実習指導者と行動を共にし、教育やコンサルテーション・調整の実際を学ぶ。 ・看護援助を実践する中で、倫理的な問題や葛藤が生じた場面では、患者や家族を擁護するとともに、ケアに関わる一人一人の倫理観を尊重し意見交換を行うなど、調整の方法を学ぶ。 ・看護援助経過を実践機能・コンサルテーション・教育 機能・調整機能に焦点をあてて分析・考察し、各項目1列以上についてまとめ、最終レポートを提出する。						眞嶋 増島 渡邊 浅井 奥 藤澤
成績評価 基 準	実習実施状況、プレゼンテーションおよび最終レポートについて評価基準に従い評価を行う。							
教科書 参考書 等	・Harmic, AB., Spross, JA., and Hanson, CM. : Advanced Nursing Practice An Integrative Approach, W.B.Saunders, 2000 ・Patti Rager Zuzelo : The Clinical Nurse Specialist Handbook, Jones and Bartlett, 2007							
備 考	専門看護師教育課程に関わる科目である。 科目履修の要件は専門看護師教育課程に含まれる他の科目を全て履修済みであること。							

授 業 目 的	看護学実習（老人看護学） Advanced Practice for Certified Nurse Specialist(Gerontological Nursing)	責任教員	単位数	6	必修・選択		科目等 履修生	可
		正木 治恵	時間数	270	開講セメスター	通期		
目 的	様々な健康状態にある老人（家族を含む）にかかわり、看護を実践し、その実践活動の自己評価ならびに他者評価を通して、老人看護専門看護師としての実践能力を修得する。 また、老人ケアの場におけるケア内容やケア提供システムについて現状を把握し、改善点を検討する。							
到達 目 標	1. 様々な健康状態にある老人（家族を含む）に対して、理論に基づき卓越した看護を実践（アセスメント・実施・評価）することができる。 2. 必要なケアが円滑に行われるために、保健医療福祉に携わる他職種と連携し、専門看護師として活動を行う。また、他職種との調整を行うことができる。 3. 様々な健康状態にある老人や家族を擁護するために、倫理的な問題や葛藤の有無をアセスメントし、解決をはかることができる。 4. 看護職者に対しケアを向上させるために教育的役割を果たすことができる。 5. 研究成果を看護実践や評価に活用することができる。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
	1. 老人ケアの場における看護実践 <							

授 業 目 的	看護学実習（精神看護学） Advanced Practice for Certified Nurse Specialist (Psychiatric and Mental Health Nursing)	専任教員	単位数	6	必修・選択		科目等履修生	否
		岩崎 弥生	時間数	270	受講セメスター	通期		
目 的	精神的な健康問題をもつ人とその家族に対して、生きることの質と自己実現を支えるための精神看護専門看護師としての実践能力を修得する。							
到達目標	1) 理論および研究成果の実践への適用に基づき、精神的健康問題をもつ人と家族に対して、卓越した看護を計画・実施・評価できる。 2) ケアの質向上を図るため看護職者に対して教育的役割を果たすことができる。 3) 看護現場で生じる問題解決に向けて看護職者に対してコンサルテーションを行うことができる。 4) ケアの効果的かつ円滑に提供するため、保健医療福祉に携わる多職種間で調整・連携を進め、専門看護師としての役割を果たすことができる。 5) 患者・家族を擁護するために、倫理的な問題や葛藤の有無をアセスメントし、解決をはかることができる。							
回数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 教 員	
	1) 理論および研究成果を実践場面で適用しつつ、幅広い知識および高度の看護技術に裏打ちされた看護の方法を学ぶ。 2) 臨床現場の課題を解決するための看護職者への教育、コンサルテーション、コーディネーションにおけるCNSの役割を学ぶ。 3) 常に倫理的視点を持ちながら、看護を提供する。 4) 自己の学習を統合する。	・個々の関心領域において、看護上の問題の大きい患者・家族3事例以上と、入院（病棟）から地域生活（外来、訪問）という一連の過程をとおして継続的に関わり、スーパービジョンのもとにエビデンスとケアリングに基づく看護精神療法や看護援助を提供する。 ・看護上の問題を、患者・家族の生活、病状、治療等を生物学的・心理的・社会文化的側面との関連から分析、把握し、理論および先行研究の成果を活用しながら有効なケアを計画、実施、評価する。 ・看護の過程について、患者・家族の経過および自分自身の気持ちの動きや内省も含めてフィールドノートに実習記録を記述し、スーパービジョンのもとに看護を分析、評価する。 ・卓越した看護実践能力を有する実習指導者の指導下に、看護職者への教育、コンサルテーション、他職種とのコーディネーションの過程を学び、自身の看護技術を洗練していく。 ・臨床現場で生じている課題について、多角的に状況を分析したうえで、課題に関連する先行研究や理論を検討し、課題解決に向けた新たな看護アプローチの方法を見出す。それをもとに看護職者に対して教育、コンサルテーションを実施、評価する。 ・看護援助を実践する中で、倫理的な問題や葛藤が生じた場面では、援助に関わる一人一人の倫理観を尊重し意見交換を行うなど、患者や家族を擁護する方法を学ぶ。 ・倫理的ジレンマについて、倫理的意思決定の技法を用いて分析し、レポートにまとめる。 ・看護の全過程をまとめたものについてプレゼンテーションを行い、討論を通して学びを深化させる。 ・看護の過程について、実践機能・教育機能・コンサルテーション機能・コーディネーション機能に焦点をあてて分析・考察し、レポートにまとめる。					岩崎	
成績評価基準	実習実施状況、実習記録、プレゼンテーション、最終レポートについて評価基準に従い評価を行う。							
教科書参考書等								
備 考	専門看護師教育課程に関わる科目であり、CNS（精神看護）を希望する学生が受講する。 科目履修の要件は専門看護師教育課程に含まれる他の科目を履修済みであること。							

授 業 目 的	基礎看護学特論 I Comprehensive Theoretical Nursing I	専任教員 山本 利江	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	看護学および看護基礎学の発達過程を歴史的・方法的・構造的に理解し、看護理論の発展の方向性を探る							
到 達 目 標	1. 看護実践の事例分析の適切性を判断し、判断に至る分析のプロセスを論述できる 2. 看護理論の史的・地勢学的変遷を把握し、人間科学のなかの看護学の特質を説明できる							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1～15	・看護学独自の研究方法論を使い、事例分析を行い、分析のプロセスを論述する ・学術雑誌に掲載された看護実践事例を分析し、分析のプロセスを論述する ・主要看護理論について、著者の思想・哲学・認識論を調べ、理論形成を論述する ・看護理論の適用の現状を、文献調査する	他者の思想の現れである看護理論や実践の分析をとおして、自らがよって立つ価値を相対化し、自覚する作業を繰り返す。授業の方法は、学生が学習課題に即して資料を作成し、プレゼンテーションを行う。その後、質疑応答とともに、看護理論の概念や方法論に関する講義を随時挿入する。						山本
成績評価 基 準	課題発表および参加状況、ならびにレポートを総合して評価する							
教科書 参考書 等	選択された看護理論に応じて随時紹介する							
備 考								

授 業 目 的	基礎看護学特論Ⅱ Advanced Theory in Nursing Education Ⅱ	専任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
		舟島なをみ	時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	看護の専門職性確立に向けて必要な看護学教育について検討し、看護専門職者を育成するための看護教育学の位置づけ、意義、特徴を理解する。また、看護教育学研究の方法論とその開発プロセスについても理解する。							
到 達 目 標	1. 看護教育学教育研究分野が実施する教育活動に参加し、看護専門職者を育成するために必要な看護学教育の展開方法とその課題を論述する。 2. 看護教育学の専門家が実施する研究活動を参加観察し、看護教育学研究を遂行するために必要な研究方法論の知識・技術を向上する。 3. 看護教育学の研究者として、自律した研究活動を展開するために必要な自己管理能力について論述する。 4. 看護学教育に従事する看護職者としての役割を遂行するために必要な倫理的感受性を高める。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 員
1 回	授業の意義・学習方法の理解		・ 授業の目的・目標、内容、展開方法に関する説明を受け、その概要を理解する。					舟島 中山
2～15回	学習計画の立案 学習目標達成に向けた活動の展開		・ 授業の目的・目標に基づき、自己の課題を設定し、学習計画を立案する。 ・ 立案した個々の学習計画に基づき、学部学生、大学院学生、センター研修生、看護職者に対し、看護教育学教育研究分野が展開する教育活動、アフターセッションなどに参加する。具体的には、教材の準備を含む授業準備を行うとともに、授業設計、実施、評価の一連の過程を経験する。これらの学習活動を通して、看護専門職者の職業的発達を支援するために必要な看護学教育の展開とその課題を考察する。 準備学習：「看護学教育授業展開論」および教育学の理論を学習し、授業展開に必要な基礎的知識を活用し授業計画案を作成する。 ・ 看護教育学教育研究分野が実施する研究活動への参加観察を通して、看護教育学研究に用いられる研究方法論の特徴への理解を深めるとともに、関連する知識・技術の向上に取り組む。また、自律的に研究を遂行するために必要な自己管理能力について考察する。 ・ 上記の教育・研究活動への参加を通して、看護学教育に従事する看護職者に必要な倫理的感受性について考察する。 *これらの学習活動を通して得られた成果をレポートに論述する。					
成績評価 基 準	・ アフターセッションへの参加態度や発言内容（20％） ・ 学習計画の立案内容と遂行状況（30％） ・ コース終了後の学習成果レポート（50％）							
教科書 参考書 等	・ 杉森みど里・舟島なをみ：看護教育学，第4版増補版，医学書院 ・ I. M. キング（杉森みど里訳）：キング看護理論，医学書院 ・ Polit,D.F. & Beck,C.T.：Nursing Research-Principles and Methods, 8th ed. , Lippincott ・ Diers,D.（小島通代他訳）：看護研究－ケアの場で行なうための方法論，日本看護協会出版会 ・ 舟島なをみ：看護教育学研究－発見・創造・証明の過程，第2版，医学書院 ・ 舟島なをみ：質的研究への挑戦，第2版，医学書院 ・ 舟島なをみ編集：院内教育プログラムの立案・実施・評価－「日本型キャリア・ディベロップメント支援システムの活用」，医学書院 ・ 舟島なをみ監修：看護実践・教育のための測定用具ファイル第2版－開発過程から活用の実際まで，医学書院							
備 考								

授 業 目 科	基礎看護学特論Ⅲ	専任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
		岡田 忍	時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	人間の健康問題について、遺伝子、細胞、組織レベルから学び、看護実践との関係を考える。							
到 達 目 標	健康問題の病態について、遺伝子、細胞、組織レベルで論述することができ、人間におこっている現象と関連づけることができる。看護実践の妥当性、可能性について病態との関連から論述することができる。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 教 員
1 回	ガイダンス		授業内容の説明					岡田
2～8 回	健康問題の病態		各自の興味のある病態を選び、それに関する英文の総説について抄読する。					
9～15回	健康問題に対する看護実践		2～8回でとりあげた各病態について、現在行われている看護実践を考察し、新たな看護実践の可能性について討論する。					
成績評価 基 準	毎回の討論							
教科書 参考書 等								
備 考								

授 業 科 目	基礎看護学特論Ⅳ (看護管理学)	専任教員 吉本 照子 酒井 郁子	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	看護管理学の理論的，歴史的発展を理解し，知識体系を構築するための方法論を習得する.							
到 達 目 標	1. 看護管理学及び関連分野の主要な理論及び概念を理解する. 2. 看護管理学の理論的及び歴史的発展を理解する. 3. 看護管理学の研究課題に即した研究方法を理解する.							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1 回	授業の目的・目標と学習方法 の理解	本授業科目の目的・目標，構成と進め方，課題及び評価方法を説明し，自己の学習計画を立案する. 看護管理学及び関連分野の主要な理論及び概念，理論的及び歴史的発展，研究方法を概観し，プレゼンテーション，討議及び講義を行う．学習成果のレポートを作成する.						吉本 酒井
2～6 回	看護管理学及び関連分野の 主要な理論及び概念の理解							
7～10回	看護管理学の理論的及び歴 史的発展の理解							
11～15回	看護管理学の研究課題に即 した研究方法の理解							
成績評価 基 準	授業における情報発信 70％ レポート 30％							
教科書 参考書 等	その都度，紹介する.							
備 考								

授 業 目 的	機能・代謝学研究方法特論 Research Methodology for Physiology and Biochemistry	専任教員 山田 重行	単位数	2	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	看護援助に関係する諸事象を人体の構造、機能、代謝の諸観点から考察でき、それらを科学の言葉で表現し、研究できるようになるための基本的考え方を習得する。							
到 達 目 標	実験・研究のセンスを磨く思考パターンや、瑣事と思われることでも見逃さずに黄金に仕上げる作業仮説の立て方等を学習し、自分の研究能力をレベルアップする。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 員	
1	・研究とは	知性を導くための諸規則、自然科学と人間科学、科学性を確保するための条件、錯覚と科学					全 て 山 田 が 担 当	
2	・不確定性原理と相補性原理	自然科学と人間科学を量子力学の原理からみる						
3	・科学における二大宗派	帰納主義と反証主義、演繹と帰納						
4	・妥当性	構成概念妥当性、内容的妥当性、外的妥当性、内的妥当性						
5	・標本抽出	母集団、標本、設定標本、回収標本、サンプルサイズ、質的研究におけるサンプリングの弱点						
6	・構造 ・行動観察法	射影変換、同型写像、三すくみ、事柄の表層と本質 行動観察法の有効性						
7	・研究者の使命	「否認」・「間に合わせの仮説」・「パラダイム・シフト」、瑣事と黄金ーメンデレーエフの元素周期律とアルフレッド・ヴェゲナーの大陸移動説を題材として						
8	・研究の展開	「アルコール性肝障害の性差研究」を題材として						
9～11	・実験・研究のセンス	「種の起源」を著したチャールズ・ダーウィンが死の前年に出版した「The formation of vegetable mould through the action of worms, with observations on their habits」を題材として						
12	・研究の着想から実施まで(1)	担当教員が行った研究、「Prevention of ethanol-induced erythrocyte transformations by fructose and natural honey in low alcohol tolerance mice」を題材として						
13	・研究の着想から実施まで(2)	担当教員が行った研究、「一酸化窒素(NO)による褥瘡予防の実験的研究ーニトログリセリン軟膏の効果ー」を題材として						
14	・研究の着想から実施まで(3)	担当教員が行った研究、「大気圧の変化と自律神経活動」を題材として						
15	・まとめ	よりよい研究のために（討論）、科研費申請の実際						
成績評価基準	授業の出席、発言状況、レポートを総合して評価する。							
教科書参考書等	担当教員が作成した電子テキストを使用する。							
備 考	電子テキストをCDで無償配布するので、教室にパソコンを携帯することが望ましい。 集中講義形式を希望する場合は、場所と日程が調整できれば対応可能なので事前に相談のこと。							

授 業 目	倫理学研究方法論	専任教員	単位数	2	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	否
		高橋久一郎	時間数	30	受講セメスター	後期		
目 的	看護行為における倫理のあり方について考える							
到 達 標	看護行為における主要な倫理問題の配置を確認し，自発的・自律的に考察する基本的な術を身につける。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
	今年度は， 1 先端医療技術の倫理 2 ケアの倫理 3 専門職の倫理 4 医療経済の倫理 の四つの問題の考え方を，扱います。	講義は，一日3コマで5回（＋初回）という形で行いたいと思っています。 具体的な授業日程・教科書・参考書・分担などは，第1回の授業時（10月5日（水））に受講者と相談しながら決めます。 ＊12月後半にまとめて連続の集中でしたことも，集に2回ぐらいずつして3週間ぐらいでしたこともあります。						高橋
成績評価 基 準								
教科書 参考書 等								
備 考								

授 業 目 的	基礎看護学特別演習（基礎看護学） Comprehensive Seminar in Theoretical Nursing	専任教員 山本 利江	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	60	受講セメスター	通期		
目 的	看護学独自の研究方法論について論じ，人間科学一般における看護科学の特質と位置づけを理解する							
到 達 標 目	看護学および基礎看護学における研究に関連する演習を行う。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 員
1～30	・基礎看護学特論Ⅰの学習に連動して行われる文献調査の結果を資料として，研究デザインを論述する ・研究デザインに基づき，プレテストを実施し，その成果を学術集会で発表するとともに，学術雑誌に投稿する		・授業の方法は，学生が学習課題に即して作成した資料に基づくプレゼンテーションを繰り返す。 ・学術集会での発表および，投稿における質疑応答を概括して自己評価し，その総括を資料に基づき報告する。					山本
成績評価基準	課題発表および参加状況，ならびに報告書を総合して評価する							
教科書 参考書 等	研究課題に応じて随時紹介する							
備 考								

授 業 目 的	基礎看護学特別演習（看護教育学） Advanced Theoretical Nursing Seminar <Nursing Education>	専任教員 舟島なをみ	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	60	受講セメスター	通期		
目 的	看護の専門職性確立に向け、看護学の理論・知識の創出を目指して展開される看護教育学研究への理解に基づき、獲得した看護教育学研究に関する知識・技術を活用して実際の研究活動に参加することを通して、研究遂行に必要な態度を習得する。							
到 達 標 準	1. 自らの研究課題に関連する海外の看護学研究を批判的に精読し、博士論文として取り組む看護教育学研究の特徴、意義、位置づけを論述する。 2. 看護教育学教育研究分野が実施する研究活動に参加し、看護教育学研究を遂行するために必要な研究方法論に関わる知識・技術を習得する。 3. 海外の看護職者との共同研究の実際に関与し、国際的に活躍できる研究者としての基盤を習得する。 4. 看護教育学の研究者として、自律した研究活動を展開するために必要な自己管理能力を高める。 5. 看護学研究者としての役割を遂行するために必要な倫理的感受性を高める。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 員
1 回	授業の意義・学習方法の理解		・ 授業の目的・目標、内容、展開方法に関する説明を受け、その概要を理解する。					舟島 中山
	学習計画の立案		・ 授業の目的・目標に基づき、個々の課題を設定し、学習計画を立案する。					
2～30回	文献講読とプレゼンテーション・討議		・ 自己の研究課題に関連する海外の看護学研究を批判的に精読し、その研究の内容・方法論の特徴を明らかにするとともに、博士論文として取り組む研究への示唆について討議する。また、看護学研究全体における自己の研究の位置づけや特徴、意義を明確にし、博士論文として取り組む研究の新規性および社会的意義について検討する。 準備学習：講読する海外文献を理解し、研究の概要および方法論の特徴、研究批評、博士論文への示唆についてまとめた資料を作成する。また、研究課題と関連する看護学研究全体における自己の研究の位置づけや特徴、意義を明確にし、プレゼンテーションの準備をする。					
	看護教育学教育研究分野の研究活動への参加		・ 看護教育学教育研究分野が実施する研究活動に関連した研究計画の立案、データ分析、論文作成・発表などを実際に経験する。 ・ 海外の看護職者と共同して実施する研究活動に参加し、文化や言語の異なる研究者とどのように共同し研究を遂行するのか、その過程を通して国際的に活躍できる研究者に必要な能力について検討する。 ・ これらの経験を通して獲得した知識・技術を基盤に研究を推進し、得られた成果を公表する過程に必要な研究者としての能力の向上に取り組む。 ・ 上記の研究活動への参加を通して、自律的に研究を遂行するために必要な自己の課題を明確にするとともに、看護学研究者としての自己の倫理的感受性について考察する。 * これらの学習活動を通して得られた成果をレポートに論述する。					
成績評価 基 準	・ 学習計画の立案内容と設定した目標の達成状況（50%） ・ コース終了後の学習成果レポート（50%）							
教科書 参考書 等	・ 杉森みど里・舟島なをみ：看護教育学，第4版増補版，医学書院 ・ I. M. キング（杉森みど里訳）：キング看護理論，医学書院 ・ Polit,D.F. & Beck, C.T.: Nursing Research-Principles and Methods, 8th ed., Lippincott ・ Diers, D.（小島通代他訳）：看護研究－ケアの場で行なうための方法論，日本看護協会出版会 ・ 舟島なをみ：看護教育学研究－発見・創造・証明の過程，第2版，医学書院 ・ 舟島なをみ：質的研究への挑戦，第2版，医学書院 ・ 舟島なをみ編集：院内教育プログラムの立案・実施・評価－「日本型キャリア・ディベロップメント支援システムの活用」，医学書院 ・ 舟島なをみ監修：看護実践・教育のための測定用具ファイル第2版－開発過程から活用の実践まで，医学書院							
備 考								

授 業 目 的	基礎看護学特別演習（看護病態学） Comprehensive Seminar in Theoretical Nursing(Nursing pathophysiology)	専任教員 岡田 忍	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	60	受講セメスター	通期		
目 的	自己の研究課題の看護学における位置づけを明らかにしたうえで、研究課題の達成のために適切な基礎的研究方法を選択し、研究計画を立案できる能力を習得する							
到 達 目 標	自己の研究課題の達成がもたらす看護実践上の成果を論述できる 自己の研究課題の達成に必要な基礎的アプローチの方法を理解できる							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1 2～30	オリエンテーション 文献検討	演習の目的、方法について説明 自己の研究課題の現状に関する文献を読み、研究の看護実践上の意義について討議し、レポートを提出する。 自己の研究課題に関連する基礎研究の文献を読み、その研究方法の原理と自己の研究への応用の可能性について討議し、レポートを提出する						岡田
成績評価 基 準	参加状況、レポート							
教科書 参考書 等	研究課題に応じて選択する							
備 考								

授 業 科 目	基礎看護学特別演習 (看護管理学)	専任教員 吉本 照子 酒井 郁子	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	看護管理の知識体系の構築に向けて、自己の研究の学術的意義を明示しながら推進する能力を開発する。							
到 達 目 標	1. 先行研究を検討し、看護管理学における自己の研究課題を学術的に位置づける。 2. 研究課題に即した研究方法を適用し、実現可能性を検討して研究計画書を作成する。 3. 研究協力者との合意形成を行う。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1 回	授業の目的・目標と学習方法 の理解	本授業科目の目的・目標、構成と進め方、課題及び評価方法 を説明する。						吉本 酒井
2～11回	自己の研究課題の明確化 看護管理学における学術的 位置づけ 研究課題に即した研究方法 の適用と実現可能性の検討	研究動機、国内外の先行研究と限界・課題を検討し、自己の 研究課題を明確化する。看護管理の知識体系の構築におけ る学術的意義、研究方法の適用と実現可能性について、資料 を作成し、プレゼンテーション、討議を行う。						
12～15回	研究計画書の作成 研究協力者との合意形成	研究計画書を作成し、倫理的配慮を含めて研究協力者に説明 し、合意形成を行う。						
成績評価 基 準	授業における情報発信 50％ 計画書 50％							
教科書 参考書 等	随時、紹介する							
備 考								

授 業 目 的	母子看護学特論Ⅰ (Special Seminar in parent And Child NursingⅠ)	専任教員 森 恵美	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	母性ならびにリプロダクティブヘルスにかかわる看護の主要な研究課題とその背景，研究方法について理解を深め，母性看護にかかわる文化的能力や研究能力を育成する。							
到 達 目 標	母性看護の対象のニーズを文化的視点から把握し，研究課題を見出す。 母性看護領域の研究に活用される理論・研究方法論について理解する。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1～4回	母性看護の理論的背景と看護研究	ガイダンスを行い，母性看護に関する理論，看護研究について概説する。						森 坂上
5～15回	博士論文についての報告と討議	担当学生は，自己の研究テーマに関係する海外で発表された博士論文を精読し，その博士論文の独創性と理論的背景，研究方法等について理解し，それについて資料を作成し発表する。 その研究の背景，研究方法論，研究結果等について討議し，文化的能力や研究能力ならびにプレゼンテーション能力を育成する。						
成績評価 基 準	出席状況，発表資料，発表態度，授業への取り組みを統合して評価する							
教科書 参考書 等	その都度，紹介する							
備 考	森がサバティカル研究研修制度の期間中のため本年度は後期セメスターで開講する							

授 業 目 的	母子看護学特論Ⅱ (Special Seminar in parent And Child Nursing Ⅱ)	専任教員 中村 伸枝	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	小児看護学の理論的背景を究明し、小児と家庭に対する看護の主要な問題と研究方法について理解する。							
到 達 目 標	・小児看護学の主要な理論および概念について理解し、研究への適用を考察できる ・主要な研究デザインと研究手法について理解し、小児看護学研究への適用を考察できる							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1 回	オリエンテーション	・本授業科目の進め方と各自の課題設定の共有						中村 佐藤
2～8 回	小児看護学の主要な理論・概念 自らの研究課題に関連する 概念の概観	・ストレス対処理論、発達理論など小児看護学の主要な理 論・概念について学習し、研究への適用を討議する ・自らの研究課題の中心となる概念に関連する概念について、 広く文献検討を行う						
9～12回	研究デザイン	・質的・量的研究方法 ・Triangulation ・Intervention Research など テキストを用いた学習に加え、各研究デザインを用いた小児 看護研究を読み、自らの研究課題への適用を討議する						
13～15回	研究手法	・子どもと親への面接手法 ・観察法 ・測定用具など テキストを用いた学習に加え、各研究方法を用いた小児看護 研究を読み、自らの研究課題への適用を討議する						
成績評価 基 準	出席、プレゼンテーション資料内容 プレゼンテーション、および討議への参加度							
教科書 参考書 等	・Walker and Avant : Strategies for Theory Construction in Nursing, 5th, Prentice Hall, 2010 ・Rogers and Knafl : Concept Development in Nursing, Foundations, Techniques, and Applications, 2nd, W. B. Saunders, 2000 ・Burns, N. and Grove, S. K. : The Practices of Nursing Research, Conduct, Critique, and Utilization, 5th, W. B. Saunders, 2004 ・Sidani, S. and Braden, C.J. : Evaluating Nursing Interventions : A Theory-Driven Approach, SAGE Publications, 1997							
備 考								

授 業 目 的	母子看護学特別演習（母性看護学） （Advanced Clinical Seminar in Maternity Nursing）	専任教員 森 恵美	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	通期		
目 的	母性ならびにリプロダクティブヘルスにかかわる看護の主要な研究課題を文献検討により明確にし，独立した看護学研究者として研究計画を立案する能力を履修する．							
到 達 目 標	母性ならびにリプロダクティブヘルスにかかわる看護の主要な研究課題とその学術的な意義を国内外の文献を検討することにより明確にし，論理的に記述する．							
回 数 （1回90分）	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1～4回	研究の意義に関する文献検討	博士研究で取り組む領域について関連する研究を検索・収集し，研究によって明らかにすることの学術的意義をそれらの文献によって明確にすることを学ぶ．						森 坂上
5～8回	研究課題の明確化，研究の主要概念，概念分析に関する文献検討	研究課題を明確化し，その研究で用いる主要概念について文献検討により，概念分析や概念規定する．						
9～12回	研究方法論の選択のための文献検討	明確にした研究目的を達成するために，文献検討によって妥当性のある研究方法論を選択する．						
13～15回	研究計画の立案と発表							
成績評価 基 準	授業時に提出された資料，授業への取り組み，発表資料，発表内容を総合して評価する．							
教科書 参考書 等								
備 考								

授 業 目 的	母子看護学特別演習（小児看護学） Advanced Clinical Seminar : Parent and Child Nursing	専任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
		中村 伸枝	時間数	30	受講セメスター	通期		
目 的	小児看護学研究に関連する演習を通して、博士論文研究に必要な基礎的要素を理解・演習する.							
到 達 目 標	・ 自らの研究課題と関連する小児看護学のDissertationを読み、critiqueが行える ・ 関心領域における看護実践と、研究を通して自らの研究的視点を深めることができる							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
	・ 自らの研究課題に関連する Dissertationのcritique ・ 臨床における看護実践 ・ 副論文の作成	・ 自らの研究課題に関連するDissertationを読み概説し、討 議する ・ 関心領域の臨床において、研究的視点をもって患児および 家族と継続的にかかわる。臨床スタッフとの関係性を築 きながら、より専門的な看護を実践する ・ 研究的視点を深めるための基礎となる研究について論文を 作成する						中村 佐藤
成績評価 基 準	・ 演習実施状況 ・ プレゼンテーション、および討議への参加度 ・ 論文の作成状況							
教科書 参考書 等	・ Burns, N. and Grove, S.K.: The Practice of Nursing Research, Conduct, Critique, and Utilization, 5th, W.B. Saunders, 2004 ・ Sidani, S. and Braden, C.J.:Evaluating Nursing Interventions:A Theory-Driven Approach, SAGE Publications, 1997 ・ Burnard, P. and Morrison, P.: Nursing Research in Action, 3rd, Palgrave Macmillan, 2011 ・ Herr, K. and Anderson, GL.: The Action Research Dissertation:A Guide for Students and Faculty, SAGE Publications, 2005							
備 考								

授 業 目 的	成人・老人看護学特論Ⅰ Adult / Gerontological NursingⅠ	専任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
		眞嶋 朋子	時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	急性期，クリティカル期，終末期にある成人・老人患者及び家族に対する看護介入モデルの開発および評価方法の基盤となる理論を探究し，明確にする.							
到 達 目 標	1 研究課題に関連した国内外の研究成果と，それらの看護学における理論的基盤を説明することができる. 2 研究課題に関連した研究方法選択のための根拠を明確に説明することができる							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1回～8回	1. 研究課題に関連した国内外の研究成果の検討	1. 研究デザインの検討 2. ストレス，危機，セルフケア，自己効力等の理論を用いた概念枠組みの作成方法 3. 質的研究方法の選択の方法について，下記の文献ならびに関連文献を元に考察する John W. Creswell: Qualitative Inquiry and Research Design-choosing among five traditions, Sage, 1997						眞嶋
9回～15回	2. 研究方法論の理論的基盤の検討	方法 学習課題 1, 2ともに講義ならびに文献学習，ディスカッションにより 自己の学習課題を明確にする.						増島
成績評価基準	作成資料並びゼミ参加状況							
教科書 参考書 等	上記文献の他にその都度提示する.							
備 考								

授 業 目 科 目	成人・老人看護学特論Ⅱ Adult / Gerontological NursingⅡ	専任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
		正木 治恵	時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	老人看護または慢性疾患看護領域における研究基盤を強化する.							
到 達 目 標	1. 関係する文献を広範囲に渉猟し, 自らの研究領域における既存の知識を体系的に理解する. 2. 老人看護または慢性疾患看護領域における臨床・研究動向と将来の発展の方向を考察する.							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1～15回	老人看護または慢性疾患看護領域における知識の体系的理解と課題の明確化	既存知識の体系的理解ならびに関連する理論・概念との比較検討より, 自らの研究課題の学術的位置づけと社会的意義の明確化を図る.						正木 谷本
成績評価 基 準	授業への参画状況, 準備状況, 発表・討議内容, ならびにレポートの成果を総合して評価する. 特に主体的な学習活動を重視する.							
教科書 参考書 等	随時提示する.							
備 考								

授 業 目 的	成人・老人看護学特論Ⅲ Topics in Adult/Gerontological Nursing Ⅲ	専任教員 岩崎 弥生	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	看護学における哲学的基盤，伝統的な知識体系の構築方法，現時点での知識創出状況の検討をとおして看護理論の適用・評価・開発の能力を養う。							
到 達 目 標	看護学の哲学的，歴史的，文化的基盤を検討し，看護学の発展において理論が果たした役割を批判的に分析し，学術的発見と理論開発の方法を学ぶ。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1 回	自身の学習課題の設定	授業の目的にそって，自身の学習目標・学習計画を立てる。						岩崎
2～4 回	看護学の哲学的な基盤 科学的な説明・探求の特徴 ポストモダンの哲学の看護への影響	看護哲学の発展を時代や文化との関連から辿り，自らの世界観・人間観・死生観・看護観を点検する。						
5～8 回	理論構築における概念分析	理論構築における概念分析の目的を理解し，モデルケースやコントラリーケースなどの検討をとおして概念の属性および先行要件を明らかにして，用語を定義する。						
9～15回	看護理論 看護理論家 看護理論のクリティーク 理論構築の方法	看護理論家の認識論的な立場の違いを検討し，理論構築の方法を統合化する。また，自身の看護実践・研究を意味づける概念と哲学的な主張を選び，論述する。						
成績評価 基 準	レポート及び発表1：自身の博論における「哲学的な立場」 30% レポート及び発表2：「概念分析」 35% レポート及び発表3：「看護理論のクリティーク」 35%							
教科書 参考書 等	Chinn, PL & Kramer, MK (2003) Integrated Knowledge Development in Nursing. Prentice Hall. Meleis, AI (2006) Theoretical Nursing: Development and Progress. Lippincott. Rodgers, BL, & Knafl, KA (2000) Concept Development in Nursing: Foundations, Techniques, and Applications. Saunders. Walker, LO & Avant, KC (2004) Strategies for Theory Construction in Nursing. Prentice Hall. ジャン・リード，イアン・グラウンド（2001）考える看護—ナースのための哲学入門. 医学書院.							
備 考								

授 業 科 目	老年学研究方法論 Research Method in Gerontology	専任教員	単位数	2	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	否
		吉本 照子	時間数	30	受講セメスター	後期		
目 的	老年に関する多分野の研究手法，学術的知見及び看護学との関連性について論述する。							
到 達 目 標	1．老年学の理論的発展過程について，社会的要請とともに理解する。 2．老年に関する多分野の研究目的と方法，学術的知見及びその意義について理解する。 3．2について，看護学研究，教育及び実践との関連性を理解する。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1－6	老年学の理論的発展過程の理解	参考書等をもとに，国内外の老年学の理論的発展過程について概説し，社会的要請との関連性を含めて討議する。						吉本 緒方
7－13	老年に関する多分野の研究目的と方法，学術的知見及びその意義の理解	参考書等をもとに，老年に関する多分野の研究の現状を概観する。						吉本 緒方
14－15	まとめ：看護学研究・教育及び実践との関連性の理解	老年に関する多分野の研究手法，学術的知見について，看護学研究，教育及び実践との関連性の観点から討議する。						吉本 緒方
成績評価 基 準	文献検討及び討議への参画をもとに評価する。							
教科書 参考書 等	随時，紹介する							
備 考								

授 業 目	呼吸循環生理研究方法論	専任教員	単位数	2	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	否
		巽 浩一郎	時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	特別研究を行うために必要な看護実践能力ならびに研究能力を強化する。							
到 達 目 標	1. 健康障害を捉えるための呼吸循環生理学的機序を理解する。 2. 治療の途上にある成人・老人患者の援助技術開発に対して生理学的視点から考察する。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1～15回	根拠ある看護実践のための、呼吸循環生理学的機序の理解と活用	健康障害を持つ成人・老人及び治療の途上にある患者の援助技術開発に対して生理学的視点からの研究方法を教授する。						巽
成績評価 基 準	授業への参画状況，準備状況，発表・討議内容，ならびにレポートの成果を総合して評価する．特に主体的な学習活動を重視する。							
教科書 参考書 等	随時提示する。							
備 考	隔年開講とし，集中講義で行う。							

授 業 目 的	成人・老人看護特別演習（成人看護学） Seminar in Nursing （Adult / Gerontological）	専任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
		眞嶋 朋子	時間数	60	受講セメスター	通期		
目 的	急性期，クリティカル期，終末期にある成人・老人患者及び家族に対する看護介入モデルの開発および評価方法を検討し，研究方法の精錬をはかる．							
到 達 目 標	研究課題に関連した介護介入モデルまたは評価方法を作成し，自らの研究課題に関連したフィールドワークを行い，実践的視点から，研究方法の有用性，妥当性を検討する．							
回 数 （1回90分）	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
	研究課題に基づいた文献検討，フィールド調査，分析方法の検討を行う．	1．成人・老人を対象したがん，クリティカルケア領域における研究課題を検討する． 2．フィールドワークの結果から，研究課題，および方法を再検討する．						眞嶋 増島
成績評価 基 準	参加状況およびレポート							
教科書 参考書 等								
備 考								

授 業 目 的	成人・老人看護特別演習（老人看護学） (Special Seminar in Adult / Gerontological Nursing)	専任教員 正木 治恵	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	60	受講セメスター	通期		
目 的	特別研究を行うために必要な看護実践能力ならびに研究能力を強化する。							
到 達 目 標	1. 特別研究を行うための看護実践能力の研鑽を行い，研究課題の理論的検討を行う。 2. 特別研究を自立して行うための研究推進能力を強化する。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1～15回	老人看護または慢性疾患看護領域における看護実践能力と研究能力の育成	成人期・老年期にある人の健康生活上の問題を取り上げ，看護実践を試み，理論的検討を行う。それをもとに，研究課題および研究方法を洗練する。						正木 谷本
成績評価 基 準	授業への参画状況，準備状況，発表・討議内容，ならびにレポートの成果を統合して評価する。特に主体的な学習活動を重視する。							
教科書 参考書 等	随時提示する。							
備 考								

授 業 目 的	成人・老人看護特別演習（精神看護学） Special Seminar in Adult/Gerontological Nursing	専任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
		岩崎 弥生	時間数	60	受講セメスター	通期		
目 的	看護実践・看護理論・看護研究の関連の総合的な理解に基づき、実践現場において看護研究を推進する能力を養う。							
到 達 目 標	博士論文に関連させて看護理論および先行研究を批判的に検討し、それをもとに看護指針と看護援助を導き出す。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1～5回	看護理論の実践・研究への適用	看護実践を看護理論及び看護研究との関連から検討し、自身の研究課題を設定する。						岩崎
6～15回	先行研究のクリティークと統合	国内外の先行研究を批判的に精読し、研究データ・研究方法・研究の理論的背景の特徴の比較・検討をとおして、研究成果の理論的な統合を試みる。						
16～30回	看護援助の開発	研究課題にそって、理論および先行研究から看護援助の指針と援助方法を導き出し、倫理的配慮を検討する。フィールドワークをとおして、研究課題および研究方法を洗練する。						
成績評価 基 準	レポート及び発表1：「先行研究のレビュー」 35% レポート及び発表2：「看護援助の開発」 35% 論文の投稿 30%							
教科書 参考書 等	Minkler, M & Wallerstein, N (2008) Community-Based Participatory Research for Health: From Process to Outcomes. Jossey-Bass. Paterson, BL, et al. (2001) Meta-Study of Qualitative Health Research. Sage. Schober, M & Affara, FA (2006) Advanced Nursing Practice. Blackwell.							
備 考								

授 業 目 的	地域看護学特論 I Special Seminar in Community Health Nursing I	専任教員 宮崎美砂子	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	社会の場と条件に応じた健康生活の援助方法及び公的サービスの枠組の中で機能する看護の方法，看護の機能の社会的適用方法について論述する。							
到 達 目 標	地域看護学の立場から迫及すべき研究課題の特質について，課題の背景及び研究方法の観点から論述することができる							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1 回	オリエンテーション	進め方について						宮崎
2～6 回	1. 地域看護学の立場から迫及すべき研究課題について課題の背景に基づいて理解する。	地域看護学の研究課題を様々な観点から取り上げて，その課題を追究する必要性や意義について，社会背景，理論背景，実践的背景のそれぞれの観点から先行研究や関連資料に基づき報告を行う。さらに内容を深めるための討議を行う。						
7～10回	2. 地域看護学の研究課題を追究するうえで必要な概念規定ならびに概念枠組みを理解する。	地域看護学の研究課題を様々な観点から取り上げて，目的を追求するうえで必要な概念規定ならびに概念枠組みを先行研究や関連資料に基づき報告を行う。さらに内容を深めるための討議を行う。						
11～15回	3. 地域看護学の研究課題を追究するうえで，妥当性のある研究方法について理解する。	地域看護学の研究課題を様々な観点から取り上げて，目的を追求するうえで妥当性のある研究方法について，先行研究や関連資料に基づき報告を行う。さらに内容を深めるための討議を行う。						
成績評価基準	授業への出席状況，報告資料，報告内容，討論への参加を総合して評価する。							
教科書 参考書 等	随時提示する							
備 考								

授 業 目 的	地域看護学特論Ⅱ	専任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
		諏訪さゆり	時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	訪問看護に関わる研究の動向，訪問看護ステーションなど看護サービス提供機関の管理・運営に関わる課題，在宅医療の実施に伴う看護技術の開発，介護保健事業体制下でのケアプランと看護の役割などを論述する。							
到 達 目 標	上記目標に挙げられた内容のうち，博士論文に関わる領域を選択し，現在までの研究の概要と，近年の実践活動の動向が詳細に説明できる。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1 回 2～15回	オリエンテーション 個別の文献学習	1) この授業科目の目的・進め方 2) 各自の領域設定						諏訪 石橋
成績評価 基 準	選択した領域に関する文献レビューを題材とするレポート							
教科書 参考書 等	随時提示する							
備 考	個別の学習を重視する。文献レビューの進捗状況に応じて各自指導教官と面接・指導を受けつつ進める。							

授 業 目 的	保健学研究方法特論 Method of Health Science	専任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	可
		北池 正	時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	保健活動を評価するために、理論と分析方法について理解する。							
到 達 目 標	1. 保健活動の理論と評価方法を理解する。 2. 研究デザインおよびデータ収集について理解する。 3. 分析方法について理解する。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1 回	オリエンテーション	参考図書の紹介と授業の進め方						北池
2～5 回	保健活動の理論と評価方法 の理解	ヘルスプロモーションの考え方 行動変容の理論 プロセス評価の考え方						
6～9 回	研究デザイン、データ収集方 法の理解	研究デザイン 測定の信頼性、妥当性 データ収集方法						
10～13回	分析方法の理解	統計分析の考え方 多変量解析 統計演習						
14・15回	討論・まとめ							
成績評価 基 準	レポート内容、討議への参加状況など							
教科書 参考書 等	Karen Glanz, et al : Health Behavior and Health Education (2008)							
備 考								

授 業 目 的	Methodology of continuing education in nursing	専任教員	単位数	2	必修・ <u>選択</u>		科目等履修生	否
		酒井 郁子	時間数	30	受講セメスター	後期		
目 的	保健医療福祉の現場における文化の多様性について理解し，看護職の専門職教育について考究する							
到達目標	保健医療福祉におけるさまざまな文化に関する英文原初講読をおこない，その概要を説明できる． 教育研究者として保健医療福祉における組織やクライアントの多様な文化をふまえた看護専門職育成に関する意見を述べることができる．							
回数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担当教員
1	授業の目的・目標と学習方法及び評価の理解	本授業科目の目的・目標，構成と進め方及び評価方法を説明する						酒井
2 -15	保健医療福祉における文化の多様性の理解に関連する英文原書の講読	履修生等で分担して講読 内容に関する資料を作成しプレゼンテーション 分担内容に関連するテーマについてディスカッション						
成績評価基準	担当文献のプレゼンテーションと作成資料の内容（50％），討議の参加状況（50％）によって評価する．							
教科書参考書等	● Michael T. Brannick, Eduardo Salas, Carolyn Prince：Team performance assessment and measurement. Theory, Method, Applications. Psychology Press. 2009 ● Robert K. Yin：Case study research Design and methods. 4 th edition. SAGE. 2009. ● Morton Deutsch Peter T. Coleman, Eric C. Marcus：The handbook of conflict resolution. Theory and practice. Second edition. Jossey Bass, 2006. 以上の文献をはじめとする単行書リスト（受講希望者に配布）から1 - 2冊を選択する							
備 考								

授 業 目 的	地域看護学特別演習（地域看護学） Advanced Clinical Seminar （Community Health Nursing）	専任教員 宮崎美砂子	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	60	受講セメスター	通期		
目 的	地域看護において研究事象とすべき課題とその課題を追究する方法を明確にし、博士研究の基盤づくりを行う。							
到 達 目 標	1. 国内外の先行研究及び関連資料などを系統的に調べ、取り上げようとする研究課題の背景、今までの研究成果、用いられた研究方法を整理し、今後追究すべき課題と方法について考察する。 2. 上記により整理した内容を深めるための討論の場を企画、運営し、成果の集約を行う。 3. 地域看護学の立場から迫及すべき研究課題について、研究計画書を作成する。							
回 数 （1回90分）	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1 回	オリエンテーション	進め方						宮崎
2～30回	1. 地域看護学の研究課題と研究方法の特質について、先行研究及び関係資料に基づき明確にする。 2. 地域看護学の研究課題と研究方法の特質について、討議の過程を経ることにより明確にする。 3. 地域看護学の研究課題を追究するうえで、適切な研究計画書のあり方について明確にする。	博士論文で扱う研究課題について、国内外の先行研究及び関連資料などを系統的に調べ、課題の背景、今までの研究成果、用いられた研究方法について整理し、今後追究すべき研究課題と方法について考察する。中間報告の場を随時設け、進める。 上記により整理した内容を深めるための討議の場を複数回にわたり企画、運営し、その成果を集約する。成果はレポートにまとめ提出する。 取り上げた研究課題について研究計画書を作成し報告する。中間報告の場を随時設け、進める。						
成績評価 基 準	主体的取り組みを重視する。中間報告資料、中間報告内容、討議の準備と運営内容、レポートを総合して評価する。							
教科書 参考書 等	随時提示する							
備 考								

授 業 目 的	地域看護学特別演習（訪問看護学）	専任教員 諏訪さゆり	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	通期		
目 的		訪問看護学における研究に関する演習を行う。						
到 達 目 標		訪問看護学の領域における研究に用いられる代表的な方法について、その背景と方法論上の技術を習得し、実際の研究に用いることができる。						
回 数 (1回90分)		学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 員
1 回 								

授 業 科 目	看護管理学Ⅱ Nursing Management Ⅱ	責任教員 酒井 郁子 吉本 照子	単位数	2	必修・ 選択		科目等 履修生	可
			時間数	30	開講セメスター	前期集中		
目 的	看護管理学研究の発展過程を概観し、今後の研究課題を理解する。 組織変革やプロジェクトマネジメント推進評価など看護管理実践に必要な研究手法を理解する。							
到 達 目 標	1. 看護管理学研究の発展過程を理解し、優先的研究課題に対して研究計画を検討できる 2. 看護管理実践に必要な研究手法の基礎を理解できる							
回 数 (1回90分)		学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法				担 当 員
1		授業の目的・目標と学習方法・評価		1回：授業の目的・目標・学習方法・評価方法について説明する				酒井 吉本
2		看護管理学研究の発展過程①		2-3回：看護管理学の発展過程を解説し、優先的研究課題について情報提供を行う				
3		看護管理学研究の発展過程②						
4		組織の合意形成に必要な手法① デルファイ法		4-5回：改革実践の前提となる合意形成に関する方法を解説し、実際に展開する際の工夫点などについて討議を行う				
5		組織の合意形成に必要な手法② KJ法		6-8回：組織変革に必要な手法を解説し、実際に展開する際の工夫点などについて討議を行う				
6		組織変革に必要な手法① データマネジメント		9-10回：エビデンスに基づいた標準化ツールの開発・普及・評価について解説し、実際に展開する際の工夫点などについて討議を行う				
7		組織変革に必要な手法② プロセスマネジメント						
8		組織変革に必要な手法③ アウトカムマネジメント		11-12回：成果研究方法論について解説し、実際の成果研究をクリティークし成果研究実施の課題について討議を行う				
9		標準化ツールの開発と評価①		13-14回：看護管理研究と看護管理プロジェクトの報告書の展開について解説し、研究論文と実践報告について、相違点と共通点を討議する				
10		標準化ツールの開発と評価②		15回：				
11		成果研究の成り立ちと実際①		進め方				
12		成果研究の成り立ちと実際②		基本的な情報提供と授業回ごとの学習課題に即した論文の提示を行い、これらをもとに討議を行う、積極的な討議への参加が必須である、履修人数が多い場合は討議をグループワークで行う。				
13		研究とプロジェクト ①アクションリサーチ						
14		研究とプロジェクト ②ガイドライン作成						
15		まとめ		前期集中科目であるので、1-5回、6-10回、11-15回と3回に分けて授業を展開する。日程は追って掲示する				
成績評価 基 準	事前課題（20%）、参加状況（40%）、最終レポート（40%）、により総合的に評価する							
教科書 参考書 等	文献リストは別途提示する。 ・アン・ワジナー著：アウトカム・マネジメント 日本看護協会出版会、2003。 ・ナンシー・バーンズ、スーザン・K・グローブ著：看護研究入門 実施・評価・活用、エルゼビア・ジャパン、2007。							
備 考	出席者は、①事前課題として、看護管理に関連した論文を選択しクリティークを行いレポートとして提出する（一本以上、できれば英文）。②討論に積極的に参加しリフレクションシートを記入し提出する、③最終レポートを提出する、ことが求められる 最終レポート課題 看護管理学からみた優先的研究課題について研究計画を立案する。4000字程度でA4用紙に簡潔にまとめること。レポートには以下の内容が含まれていること。①研究目的、②研究の背景と意義、③研究方法、④倫理的配慮、⑤期待される結果、⑥文献							

授 業 科 目	病院看護システム管理学特論 I Nursing Care Systems Management in Hospital Settings I	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
		手島 恵	時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	病院における看護システム管理を患者満足の視点から概観し，提供するサービスの質の向上を図るうえでの創造的管理方略ならびに評価方法について論述する．							
到 達 目 標	1．看護の歴史的変遷の視点から看護管理方略の変化を述べることができる． 2．身近な看護管理上の問題の解決策に対し適切な理論を用いて論理的に説明できる． 3．組織運営における倫理規範の役割について述べることができる． 4．病院における看護サービスの質保証の方略について説明できる． 5．看護管理の研究を実践に活用し，質の改善をはかった例を述べることができる． 6．身近な看護管理上の課題を明らかにし，説明することができる．							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1～3回	1．管理のパラダイムシフト	なぜサービス論なのか 医療変革を歴史的に概観し，管理のパラダイムがどのようにシフトしているのかを論述する． 複雑な状況をシステムとしてとらえ管理する方略について述べる．						手島 永野
4～6回	2．管理にかかわる諸理論	看護管理にかかわる諸理論を概説し活用方法について述べる． システム論 変化理論 など						
7～8回	3．看護管理と倫理	組織文化，価値が及ぼす影響について述べるとともに，看護職が持つ価値について論じる． 組織文化 組織の倫理 ICN看護倫理綱領 CSR						
9～10回	4．看護サービスの質の保証	看護サービスの質の保証について概説し，質の保証を行う方略について論じる．						
11～12回	5．看護管理の研究と活用	効率的・効果的に看護管理を行う上で有用な看護管理の研究を紹介し，実践への活用について論じる．						
13～14回	6．病院看護システム管理の基礎知識の活用と，所属する組織の現状分析	自分の所属する組織における病院看護管理の現状を明確にし，アクションプランを含むレポートを作成する．						
15回	7．まとめ	各自のレポートにもとづいて発表し，アクションプランについて参加者全員で討議する．						
成績評価 基 準	討議参加30％，発表10％，レポート60％							
教科書 参考書 等	適宜呈示する．							
備 考								

授 業 科 目	病院看護システム管理学特論Ⅱ Nursing Care Systems Management in Hospital Settings II	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
		手島 恵	時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	看護における人材開発の基本理論について論述する。また、病院・施設の組織的特徴のなかで適切な意思決定を行い方略的に実行に移し、成果責任を示すための方策について論述する。							
到 達 目 標	1. 看護専門職の特徴を説明できる。 2. リーダーシップとマネジメントについて説明できる。 3. 適切な意思決定について、例をあげて説明できる。 4. 看護サービスにおける人材管理方略の概要について説明できる。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1～2回	1. 専門職とは何か	専門職としての条件について概説し、看護専門職について論じる。						手島 永野
3～4回	2. リーダーシップとマネジメント	リーダーシップにかかわる下記の項目について学ぶ ・リーダーシップとは何か ・リーダーシップ理論 ・交渉と説得						
5～6回	3. 新しいリーダーシップの概念	変革期におけるリーダーシップのありかたについて概説し討議する。						
7～9回	4. 意思決定の過程と技	意思決定にかかわる下記の項目について概説し、活用方法について論じる。 ・意思決定の過程 ・意思決定にかかわる理論 ・クリティカルシンキング ・創造的な意思決定 ・コンサルテーション ・意思決定の倫理的側面						
10～12回	5. 人材管理の方略	人材管理にかかわる下記の項目について概説し、活用方法について論じる。 人材雇用（募集・面接） オリエンテーション 目標管理 評価－評価の種類 雇用上の問題への対応						
13～15回	6. 病院看護システム管理の基礎知識を活用し、所属する組織の現状分析	1～5で習得した知識ならびに技を用いて、相対する価値や考えを含む論題を題材とした討議をおこなう						
	7. まとめ	各自のレポートにもとづいて発表し、アクションプランについて参加者全員で討議する。						
成績評価基準	クラス討議参加70％，ケースレポート30％							
教科書 参考書 等	適宜提示する。							
備 考								

授 業 目 的	病院看護システム管理学演習 Seminar:Hospital Nursing Care Systems Management	責任教員 手島 恵	単位数	6	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	180	受講セメスター	通期		
目 的	病院看護サービスの視点から、高度先端医療を提供する医療施設における看護管理上の事例を系統的に分析し、病院看護システム管理について演習する。							
到 達 標	1. 事例における問題を構造的に分析し問題ならびに問題を構成する要因を明らかにして説明できる。 2. 明らかにされた問題を解決するための方策を立て、根拠をもとに目標を設定できる。 3. 問題解決ならびに成果を評価する方法を明らかにして示すことができる。 4. 問題解決のための一連のプロセスを明瞭かつ簡潔に表現し研究計画書としてまとめることができる。 5. 研究計画書の実現性、妥当性について多方面から検討することができる。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1～5回	管理システム問題を分析する手法	演習の目的について説明する。 管理システムとして分析する方法を説明する。						手島 永野
6～20回	自分の所属する組織における病院看護システム管理上の問題	病院看護システム管理上の問題を構造的に分析して問題ならびに問題を構成する要因を明らかにする。						
21～35回	明らかにされた問題を解決するための方策、目標設定	先行研究や文献を検討し、明らかにされた問題を解決するための方策を立て、根拠をもとに目標を設定する。						
36～50回	問題解決ならびに成果の評価方法	先行研究や文献から、問題解決ならびに成果を評価する方法を明らかにする。						
51～75回	問題解決の一連のプロセスの記述ならびに研究計画立案	問題解決のための一連のプロセスを明瞭かつ簡潔に表現し研究計画書としてまとめる。						
76～90回	立案した研究計画の実現性、妥当性についての多方面からの検討	研究計画書の実現性、妥当性について意見をフィールドの協力者などから広く求め、多方面から検討し研究計画書を決定する。						
成績評価 基 準	討議内容40％、レポート60％							
教科書 参考書 等	適宜提示する。							
備 考								

授 業 目 的	ケア施設看護システム管理学特論 I Nursing Care Systems Management in Long term care settings I	責任教員 酒井 郁子	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	長期ケア施設における看護システム管理について、その特徴を概観し、長期ケア施設の経営とケアサービスの質管理の考え方、方略、実施、評価に関する理論と方法を論じる。							
到 達 目 標	1. ケア施設における看護システム管理の特徴を説明できる 2. ケア施設の理念の具現化に向けた看護管理の責任について論述できる 3. ケア施設におけるケアの質保証のための戦略および資源開発・環境調整を説明できる 4. ケア施設の経営管理に貢献できる看護管理のあり方を説明できる							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1	授業の目的・目標と学習方法及び評価の理解	本授業科目の目的・目標、構成と進め方及び評価方法を説明する						酒井 飯田
2-5	長期ケア施設の特徴と概要	長期ケア施設の特徴と概要に関する以下について諸理論をふまえ論述する ① 長期ケア施設への社会的ニードと政策の動向 ② 長期ケア施設の役割 ③ 長期ケア施設の理念 ④ 長期ケア施設における看護システム管理の現状と課題						
6-9	長期ケア施設の経営と看護管理	長期ケア施設の経営と看護管理における以下について概観し論述する ① 経営倫理と価値の創造 ② 経営倫理と法令の順守 ③ 非営利組織としての社会貢献 ④ ステークホルダーマネジメントと広報戦略 ⑤ ケア施設における財務と看護管理						
10-12	ケアサービスの質管理	長期ケア施設のケアサービスの質管理について、地域連携、アウトカムマネジメント、リスクマネジメント、の観点より概観し論述する						
13-15	長期ケア施設看護システム管理の基礎知識の活用と所属組織の現状分析	長期ケア施設の看護管理における重要概念をまとめる。 所属組織の現状分析を行い討議し、長期ケア施設看護システム管理に関する知識の活用方法を学ぶ						
成績評価基準	参加状況（40%）、レポート（30%）、プレゼンテーション（30%）により総合的に評価する							
教科書参考書等	島田恒：非営利組織のマネジメント,東洋経済新報社,2003. 三宅隆之：非営利組織のマーケティング,白桃書,2003. アン・W・ワジナー：アウトカムマネジメント,日本看護協会出版会,2003. 酒井郁子,湯浅美千代他著：認知症のリスクマネジメント,すぴか書房,2007. 吉本照子,酒井郁子,杉田由加里編著：地域高齢者のための看護システムマネジメント, 医歯薬出版社,2009. そのほかの資料は授業中に提示する							
備 考								

授 業 目 的	ケア施設看護システム管理学特論Ⅱ Nursing Care Systems Management in Long term care settings I	責任教員 酒井 郁子	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	長期ケアを受ける人の自立生活を支援する資源開発について理論と方法を論述する。ケアサービス、ケア管理、人材活用、人材育成などについて理論と実践への活用について理解を深める。							
到 達 標	1. ケア施設におけるケアサービスの展開を説明できる 2. ケア施設を取り巻く労働力と人材の活用の概念とトレンドについて説明できる 3. ケア施設における人材育成について説明できる 4. ケア施設における組織改革について説明できる 5. ケア施設における看護管理研究について説明できる							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1	授業の目的・目標と学習方法及び評価の理解	本授業科目の目的・目標、構成と進め方及び評価方法を説明する						酒井 飯田
2-6	長期ケア施設におけるケアサービスの展開	長期ケア施設のケアサービスの展開について、以下の観点より論述する ① 生活リズム調整 ② ケア施設におけるヘルスプロモーションと介護予防 ③ 医療ニーズの保障 ④ リハビリテーションサービス ⑤ ケアサービス開発のプロセスと評価						
7-12	長期ケア施設における人材育成と人材活用	長期ケア施設における人材の育成と活用について論述する。 自組織の人材活用に関してプレゼンテーションをおこなう。 ① ケア労働力の世界的動向と人材の獲得 ② 人材活用における重要概念 ③ キャリア形成支援とWLBの促進 ④ 卒後教育プログラムの開発と評価 ⑤ ナレッジマネジメントの促進 ⑥ 人材活用（採用、昇進、異動）の特徴と課題						
13-14	長期ケア施設における組織改革	長期ケア施設における組織改革について諸理論と先行事例を検討しその特質を明らかにする						
15	長期ケア施設における看護管理研究の課題	長期ケア施設における看護管理研究の課題について、社会ニーズおよび保健医療福祉関連政策の動向、研究対象と場の特徴、有効な研究デザインと研究方法、研究とプロジェクトの共通点と相違点について論述する						
成績評価基準	参加状況（40%）、レポート（30%）、プレゼンテーション（30%）により総合的に評価する							
教科書参考書等	酒井郁子編集：超リハ学，文光堂，2005。 金安岩男著：プロジェクト発想法 物事人の作り方，中公新書，2002。 大串正樹：ナレッジマネジメント，医学書院，2007。 そのほかの資料は授業中に提示する							
備 考								

授 業 目 的	ケア施設看護システム管理学演習 Seminar: Nursing Care Systems Management in Long term care settings	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
		酒井 郁子	時間数	30	受講セメスター	後期		
目 的	自立支援とQOL向上の視点から長期ケア施設における先進的な事例を系統的に検討し，施設理念の具現化と方法論，評価方法を習得し，ケア施設看護管理について演習する。							
到 達 標	1. 事例を構造的に分析し，問題構造を明らかにしたうえで現状を説明できる 2. 問題構造から導かれた課題を解決するための方法を習得する。 3. 成果を評価する方法を習得する 4. ケア施設看護管理の一連のプロセスを表現し課題解決計画としてまとめることができる 5. 課題解決計画の妥当性，実現可能性について多方面から評価できる							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1－8回	ケア施設看護システム管理の分析に必要な理論と手法	演習の目的について説明する ケア施設看護システム管理の改善に必要な理論と手法について概観する。						酒井 飯田
9－15回	先進事例の分析	先進的長期ケア施設の看護システム管理を構造的に分析し，課題解決のための方策とその効果についてクリティークする						
16－40回	自組織の問題構造と現状の分析	自組織のデータから問題構造を把握し，討議を通して深める						
41－60回	課題と目標の設定および方策，効果指標の検討	現状の分析から，自組織の看護システム管理上の課題を設定し，実現可能で妥当な目標の設定，方策の検討を行う						
61－75回	ケア施設看護管理の一連のプロセスを表現する。	ケア施設看護管理の一連のプロセスを表現し，討議で深め，課題解決計画としてまとめる						
76－90回	研究計画書の検討とわかりやすい説明	研究計画書を実現可能性，妥当性，一貫性，理念との整合性などの視点から多角的に検討し，計画書として決定し，わかりやすく説明する						
成績評価基準	討議内容（30%），レポート（40%），プレゼンテーション（30%）により総合的に評価する							
教科書参考書等	1）波平恵美子，道信良子：質的研究 STEP by STEP－すぐれた論文作成をめざして－ 2）キャサリン・ポーブ，ニコラス・メイズ編，大滝純司監訳：質的研究実践ガイド 保健・医療サービス向上のために							
備 考								

授 業 目 的	地域看護システム管理学特論Ⅰ Community Nursing Care Systems ManagementⅠ	責任教員 吉本 照子	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	地域における多様なケアニーズを効果的・効率的に充足するための看護のシステム化に関し、基盤となる概念と理論をもとに実態を記述し、看護管理者の立場で推進する際の考え方と方法について論述する。							
到達 目 標	1. 地域看護システム管理の概念、特質を理解し、実態を正確に記述する 2. 地域看護システム管理における看護管理者の役割と行動について、考え方と方法を論述する。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1	授業の目的・目標と学習方法の理解	授業の目的・目標、構成と進め方、課題および評価方法を説明する。						吉本緒方
2－3	地域看護システム管理の特質の理解	地域看護システム管理の概念と特質について、事例をもとに説明し、討議する						吉本緒方
4－6	地域看護システム管理の分析に関する考え方の理解	自律したケア提供者・機関のパートナーシップ、合意形成、組織化によるケアの質の評価に関する概念やモデルを説明し、各自の管理する組織の状況を分析する。						吉本緒方
7－12	地域看護システム管理における看護管理者の役割と行動	地域看護システムを維持・発展させる推進者としての看護管理者の役割と行動に関する先行研究をもとに、自己の管理者としての行動を振り返り、討議する						吉本緒方
13-15	地域看護システム管理の観点からみた自己の管理者としての活動と評価	自分が管理者として推進する地域看護システムについて、現状と効果を分析し、管理者としての課題を記述する。						吉本緒方
成績評価 基 準	授業における情報発信60％ レポート40％							
教科書 参考書 等	① Mintzberg H . (1973) :マネージャーの仕事 (奥村哲史, 須貝栄,訳)、白桃書房1993. ② Rossi PH, Freeman, E. Lipsey MW (2004) : プログラム評価の理論と方法－システムティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド (大島 巖, 森俊夫, 平岡公一, 元永拓郎, 訳). 日本評論社, 2005 等							
備 考								

授 業 目 的	地域看護システム管理学特論Ⅱ Care Resources Development in Community Nursing Care Systems Management Ⅱ	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
		吉本 照子	時間数	30	受講セメスター	前期		
目 的	地域における人々の多様なケアニーズを効果的・効率的に充足するためのケア資源という観点から、ケア人材、ケア技術およびケアサービスに関する開発の考え方と方法、ケア提供の価値について論述する。							
到 達 目 標	1. 地域看護システム管理のための資源開発に関する考え方と方法、評価について理解し、自組織の実態および課題を記述する 2. 施設環境設計の考え方と方法、評価について理解する							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1	授業の目的・目標と学習方法の理解	授業の目的・目標、構成と進め方、課題及び評価方法を説明する。						吉本 緒方
2－3	地域ケアシステムおよびケア資源の観点から自組織および地域の実態を記述する	自組織および連携する組織のケア提供について、効果的な地域ケアシステムとケア資源の観点から記述し、自分の管理する組織および地域の状況を分析する						
4－5	施設環境設計の考え方と方法、技術の理解	効果的なケアサービス提供のための施設環境設計における工学的アプローチについて概説し、討議する						中山 (非常勤講師)
6－11	地域におけるケア提供組織の継続的な環境適応の考え方と方法	サービス開発と評価に関する基本文献を読み、ケア資源開発の方法について理解する。学習した概念やモデルをもとに、自分が所属する施設・機関を取り巻く地域のケアの現状について分析し、看護管理者としての資源開発の課題を記述する。						
12－15	ケアサービス提供に関するルール・ツールの開発および評価の考え方と方法	ケアサービスの質を継続的に改善するための多様なルール・ツールについて、活用、開発および評価の考え方と方法を説明し、自分が管理する組織の状況を分析する						
成績評価基準	授業における情報発信 60％ レポート 40％							
教科書参考書等	各テーマに関し、随時紹介する							
備 考								

授 業 科 目	地域看護システム管理学演習 Seminar: Community Nursing Care Systems Management	専任教員 吉本 照子	単位数	6	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	90	受講セメスター	2年次 通期		
目 的	地域における看護のシステム化を推進する看護管理者の立場から、自分が管理責任を担う組織の課題を解決するための計画立案を行い、第三者が内容を理解できるように説明する。							
到 達 目 標	1. 自分が管理する組織の看護について、組織内外の要因を分析し、課題とその意義を明らかにする。 2. ケア理論、組織の理念及び組織内外の要因を考えあわせて、目標、方策及び評価方法を決定する。 3. 課題解決のためのプロジェクトを行う組織をつくる。 4. プロジェクトを実施するための計画書を作成する。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1－2	到達目標の理解	演習の目的、目標、進め方および評価について説明する。						吉本 緒方
3－10	自分が管理する組織のケア提供の状況分析と改善の方向性の明確化	自分が管理責任を担う組織のケア提供の状況分析を行い、保健医療福祉の動向、関連研究および先行報告を検討し、改善の方向性を明確にする。						
11－20	自分が管理する組織のケア提供の問題および課題の明確化	ケアの質、人材開発、地域のケアの状況についてデータ収集・分析し、課題を設定する。						
21－50	課題解決に関する目標設定、方策と評価方法、協働者との合意形成	課題解決のための要因とその関連性を分析し、協働者と合意形成しながら、課題解決の目標、方策および評価方法を決定する。						
51－90	研究計画書の作成	プロジェクトの内容と必要性、組織および社会的意義を含めた計画書を作成し、第三者が理解できるような説明方法を検討する。						
成績評価 基 準	研究計画書をもとに評価する。							
教科書 参考書 等	・ Donabedian, A. (1980)：医療の質の定義と評価方法（東尚弘，訳）NPO法人健康医療評価機構，2007. ・ Wojner, A. W. (2001)：アウトカム・マネジメントー科学的ヘルスケア改善システムの臨床実践への応用（早野真佐子，井部俊子，訳），日本看護協会出版会，2003.							
備 考								

授 業 目 的	情報活用論 Infomatics in Nursing Care Systems Management	責任教員 吉本 照子	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	後期		
目 的	急速に変動する看護管理の状況において、適切な意思決定、合意形成および問題解決ができるように、自身が管理する組織の現状、課題とその根拠、方策を説明するための方法を習得する。							
到 達 目 標	1. 看護管理のための情報収集と分析、問題解決のための根拠を示せる。 2. 協働者とともに目標を設定し、問題解決を行うための方法を示せる。 3. 看護管理者の立場から、発生している問題あるいは起こりうる問題について、要因、課題および解決の方策を決定するための合理的思考過程の展開ができる。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1	授業の目的・目標と学習方法の理解	授業の目的・目標、構成と進め方、課題及び評価方法を説明し、計画的な問題解決過程について概説する。						吉本
2－4	質的データ活用の考え方と方法	質的データを分析し、問題解決のための課題を共有するための考え方と方法について講義・演習する。						山浦 (非常勤講師) 吉本
5－9	量的データ活用の考え方と方法	量的データを分析し、問題解決のための課題を共有するための方法と手順について講義・演習する。						緒方
10－13	看護管理の問題解決における合理的思考過程	多分野の情報活用のためのデータベースの活用方法とデータ管理方法、評価の目的に即した方法、データの意味づけと可視化について、講義・演習する。						吉本
14－15	看護管理における課題解決の方策の明示	看護管理者の立場から、発生している問題あるいは起こりうる問題について、要因、課題および解決の方策を明示し、討議する。						吉本 緒方
成績評価 基 準	授業における情報発信30％ レポート70％							
教科書 参考書 等	・山浦晴男：住民・行政・NPO協働で進める 最新 地域再生マニュアル。朝日新聞出版社、2010。 ・古谷野亘，長田久雄：実証研究の手引き―調査と実験の進め方・まとめ方―，ワールドプランニング，1997							
備 考								

授 業 目 的	マネジメント実践論 I Competency for Advanced Nursing Management I	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
		手島 恵	時間数	30	開講セメスター	前期		
目 的	看護管理を効果的・効率的に行うために必要な周辺概念および理論を学び、高度なマネジメントを実践するために必要な知識および考え方を論述できる。							
目 標	1. 包括的なケアシステムに関する概念と考え方を理解する 2. 保健医療福祉政策における看護の役割機能を理解する 3. 組織経営および経営に貢献する看護管理のあり方を理解する 4. 組織管理における社会的責任について理解する							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1	授業の目的・目標と学習方法 および評価	授業の目的・目標・学習方法・評価方法について説明する (担当教員全員)						手島 吉本 酒井 永野 緒方
2－4	包括的なケアシステムに関する 概念と考え方	包括的ケアシステムの概念を理解し、諸外国との比較から我が国の特殊性および発展の方向性を理解する。						
5－6	組織経営の基礎	組織論を概観し、組織経営の理論的枠組みを理解する。 (中原)						
7－8	経営分析の基礎	保健・医療・介護福祉施設の「経営」の概念をケアマネジメントの視点から把握し、財務分析を中心に経営分析手法の原理及び実践方法を理解する						
9－10	看護管理の経済分析	看護ケアにおける経済分析の理論と方法論、および研究の現状と今後の課題について先行研究などをもとに理解する						
11－13	組織倫理と看護管理	看護管理を実践する際に必要となる組織倫理の視点と課題について概観し理解する。						
14	経営に貢献する看護管理	組織経営に貢献する看護管理の実践について先進事例の検討を通して学ぶ						
15	まとめ	到達目標の達成状況についての自己評価を行い、質疑応答を行う。						
成績評価 基 準	参加状況（40%）、レポート（30%）、プレゼンテーション（30%）により総合的に評価する							
教科書 参考書 等	随時指定・紹介する							
備 考								

授 業 目 的	マネジメント実践論Ⅱ Competency for Advanced Nursing Management Ⅱ	責任教員 酒井 郁子	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
			時間数	30	開講セメスター	後期		
目 的	看護管理を効果的・効率的に行うための実践的な知識と技術を修得できる。							
目 標	1. ヘルスケアコミュニケーションに関する理論と実践を理解する 2. 専門職連携・協働に関する理論と実践を理解する 3. それぞれの実践の場における地域連携に必要な知識・技術を習得する 4. 組織の理念の具現化に向けた看護管理のあり方を理解する							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1	授業の目的・目標と学習方法及び評価	授業の目的・目標と学習方法及び評価について説明する						酒井 手島 吉本 永野 緒方 飯田 黒田
2-3	ヘルスケアコミュニケーションに関する理論と実践① コンサルテーションとスーパービジョン	ヘルスケアコミュニケーションに関する諸理論を理解しヘルスケアチームの実践能力を向上するための様々な技術を理解する						
4-5	ヘルスケアコミュニケーションに関する理論と実践② 交渉と調整							
6-7	怒りのコントロールに関する理論と実践	ヘルスケアの現場におけるさまざまな怒りとそのマネジメントについて理論と実践を理解する						
8-10	専門職連携・協働に関する理論と実践	患者・利用者中心の医療福祉サービス提供のための専門職連携・協働に関する理論およびチームビルディングと運営に関する理論と実践を理解する						
11-12	地域連携に必要な知識・技術の習得	医療、介護、福祉など領域をこえて行われる利用者志向の地域連携に必要な実践的知識・技術を習得する						
13-14	看護管理に関する事例検討	看護マネジメント実践に関する事例検討を行い、マネジメント実践に必要な基本技術を習得する						
15	組織の理念の具現化と看護管理（まとめ）	これまでの授業のまとめと討議によって自組織の理念の具現化に向けた看護管理のあり方を理解する						
成績評価基準	参加状況（40%）、レポート（30%）、プレゼンテーション（30%）により総合的に評価する							
教科書 参考書 等	随時提示する							
備 考								

授 業 目 的	リスクマネジメント論 Risk Management in Health Care Settings	責任教員 手島 恵	単位数	2	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	後期		
目 的	提供するサービスの質と、安全の管理に関する基本理念ならびに理論について論述する。また、医療事故の系統的な分析方法を論述するとともに、発生した場合の管理のあり方、及び発生を未然に防ぐための系統的方略について論述する。							
到 達 目 標	1. 看護サービスにおける安全管理の考え方の変遷と概要を述べることができる。 2. 安全管理の評価について、例を示して説明できる。 3. 事例分析をとおり、医療事故安全防止対策について述べることができる。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1～5回	サービスの質の保証と安全管理	医療の質の保証にかかわる理念ならびに組織管理のありかたについて論述し、問題解決につながる方略を概説する。						河野
6～7回	医療事故の予防	医療事故の発生の実態ならびに安全管理の概説する。 リスクマネージャーの機能ならびに役割について論述する。						手島
8～15回	事例分析	医療事故の系統的な分析方法を論述する。 医療事故が発生した場合の管理のありかた、および発生を未然に防ぐための系統的方策について事例分析をとおして論述する。						手島
成績評価 基 準	授業討議参加40％、事例分析レポート60％							
教科書 参考書 等	適宜提示する。							
備 考								

授 業 科 目	看護継続教育論 Continuing Education in Nursing	責任教員	単位数	2	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	可
		和住 淑子	時間数	30	受講セメスター	後期		
目 的	保健・医療・福祉の動向を踏まえ、看護職者が政策決定プロセスに関わることの意義と方法について論述する。							
到 達 目 標	1. 政策決定プロセスと、看護職者が政策決定プロセスに関わる意義について理解する。 2. 保健・医療・福祉の動向を踏まえ、看護政策上の課題を明確化できる。 3. 自身が関心を抱いた看護政策上の課題について、現状を調査して、具体的な提言ができる。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1 回	看護継続教育の理解	学習目的・目標と学習課題および学習方法を提示。 看護継続教育を理解するために教育、(生涯学習)、(成人学習)について概説し、看護継続教育とは何か、その必要性について論述する。						和住
2～4 回	継続教育にかかわる諸理論 キャリア開発と現任教育 看護継続教育の現状分析と課題	キャリア開発のための諸理論について論述する。 実践現場における組織内外の看護継続教育の現状と課題について講義、討議をもとに考究する。						
5～6 回	看護実践能力の向上と継続教育	看護基礎教育の現状を概説し、看護実践能力育成の充実を図るための方策について論述する。実践の場における看護実践能力の向上を目指した継続教育について概説し、そのあり方について考究する。						
7～10回	看護実践能力開発のための学習方法	社会の変化に呼応した高度な看護が実践できるための看護継続教育の学習方法を論述する。						
11～12回	看護継続教育と評価方法	継続教育に関わる評価方法について論述し、看護継続教育における効果的な評価方法について考究する。						
13～14回	看護実践能力開発の研究と活用	看護実践の質を向上させるための看護研究を紹介し、実践への活用について論述し、考究する。						
15回	まとめ	これまでの講義、討議内容をもとに各自の所属する組織における看護継続教育の現状を明確にし、課題について討議する。						
成績評価基準	授業への参加状況、課題レポート成果から総合的に評価する。							
教科書 参考書 等	随時提示する。							
備 考								

授 業 科 目	看護政策論 Policy Making in Nursing	責任教員	単位数	1	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	可
		和住 淑子	時間数	15	受講セメスター	後期		
目 的	保健・医療・福祉の動向を踏まえ、看護職者が政策決定プロセスに関わることの意義と方法について論述する。							
到 達 目 標	1. 政策決定プロセスと、看護職者が政策決定プロセスに関わる意義について理解する。 2. 保健・医療・福祉の動向を踏まえ、看護政策上の課題を明確化できる。 3. 自身が関心を抱いた看護政策上の課題について、現状を調査して、具体的な提言ができる。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1～2回	看護政策の基礎と政策決定プロセス	学習目的・目標と学習課題および学習方法を提示する。 我が国の保健・医療・福祉政策の動向を通して、政策の仕組みと政策決定プロセスについて概説し、看護職者が政策決定プロセスに関わることの意義について論述する。						和住
3～4回	看護政策活動とその評価	我が国のこれまでの看護政策活動の歴史を概括し、その評価について論述する。変動する社会における新たな看護政策上の課題について論じる。						和住
5～6回	保健・医療・福祉システムの最新の動向と実際の政策活動	我が国の保健・医療・福祉システムの最新の動向と実際の政策活動について論述する。						和住
7～8回	看護政策上の課題の明確化と提言（まとめ）	これまでの講義をもとに、各自が関心を抱いた看護政策上の課題について、現状と提言をまとめ、発表・討議を行う。						和住
成績評価基準	授業への参加状況、課題レポートの成果から総合的に評価する。 〔課題レポートについて〕 1. テーマ「自身の関心領域における看護政策上の課題と課題解決に向けた提言について」 2. レポートの様式：A4用紙、横長、文字の大きさ10.5ポイント、文字数1200字～2000字 3. 提出期限：最終回の授業後1週間目の17:00（時間厳守） 4. 提出先：和住研究室（看護・医薬系総合教育研究南棟1階173号室） e-mail添付による提出も可（wazumi@faculty.chiba-u.jp）							
教科書 参考書 等	随時提示する。							
備 考								

目	看護生涯学習論 Lifelong Learning in Nursng	責任教員 和住 淑子	単位数 時間数	1 15	必修・ 選択 受講セメスター 前期		科目等 履修生	可
目 的	生涯学習の基本理念・意義を理解し、看護の質向上の観点から、その組織的支援のあり方について、論述する。							
到達 目 標	1. 生涯学習の基本理念・意義について理解する。 2. 看護の質向上の観点から、生涯学習の具体的な実践方法・活用方法・組織的支援のあり方について学習する。 3. 我が国の高等教育政策の動向を踏まえ、生涯学習情報提供システムとその評価について理解する。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 教 員	
1～2回	生涯学習の基本理念・意義 我が国の生涯学習と制度 看護生涯学習の組織的支援	学習目的・目標と学習課題および学習方法を提示する。生涯学習について、世界の潮流を踏まえて歴史的に概観し、生涯学習の基本理念、意義について論述する。 我が国の生涯学習の動向とこれまでの制度的な整備状況を概説する。 看護職者の生涯学習について、成人学習の特質を踏まえて概説し、看護の質向上の観点から、その組織的支援のあり方について、論述する。					和住	
3～4回	看護生涯学習の方法と活用	看護職者の生涯学習について、具体的な実践方法と活用方法について論述する。					黒田 今村	
5～6回	生涯学習情報提供システム	我が国の高等教育政策の動向を踏まえて、生涯学習制度について概括し、生涯学習情報提供システムとその評価について論述する。					館	
7～8回	看護生涯学習と人材育成（まとめ）	これまでの講義をもとに、各自の所属する組織における看護生涯学習の現状・課題・支援策について発表し、討議する。					和住 黒田 今村	
成績評価 基 準	授業への参加状況、課題レポートの成果から総合的に評価する。							
教科書 参考書 等	随時提示する。							
備 考								

授 業 科 目	家族支援方法論 Methodology for family support	責任教員	単位数	1	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	否
		野地 有子	時間数	15	開講セメスター	前期		
目 的	家族をユニットとして捉え、家族成員に対する組織的支援活動の実践能力を向上させる。							
到 達 目 標	家族看護学の視点から家族に対する多様な支援方法を概観・考究し、文化、社会、家族の実情等に即した支援方法の計画立案、実践、評価する方法を身につける。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1 回	看護学における家族支援の課題	1) 学習の目的・学習課題及び学習の方法の提示。 2) 看護の専門活動領域における家族支援の状況及び課題の概説						野地
2～4 回	家族支援の基礎 家族支援の実践方法	1) 家族支援にかかわる基礎理論を論述する。また、実際の家族の生活状況を基に、理論と実際の関係を記述、理解し、理論の活用を学ぶ。 2) 家族支援にかかわる実践方法について論述する。また、家族の支援場面の記述分析を行い、状況に応じた実践方法の適用を学ぶ。						
5～6 回	家族支援の実践活動の現状	1) 在宅終末期患者の家族への支援（家族危機、喪失体験、意思決定等を体験する家族への支援活動の実際） 2) 地域高齢者の家族への支援（介護、地域資源利用、認知症患者とともに生きる等を体験する家族への支援活動の実際） 3) 乳がん患者とその家族への支援 4) 問題を抱えている家族への支援（虐待への対応、子育て支援、家族療法等を体験する家族への支援活動の実際） ・上記の内容について、現在の保健行政、福祉、医療、心理、教育等各専門領域の実践における家族の問題に対する取り組みの実際を論述する。						
7～8 回	活動拠点における家族支援の課題の明確化と今後の取り組み	1) 家族支援の基礎及び実践方法を基に活動拠点での家族支援の問題を分析し、効果的で実現可能な支援活動への取り組みを計画し、プレゼンテーションする。						
成績評価基準	授業への参加状況 討論素材の準備 討論への参加 レポート を総合的に評価する。							
教科書参考書等	随時提示する。							
備 考								

授 業 目 的	慢性病生活指導論 Patient Education for Chronic Illness	責任教員 酒井 郁子	単位数	1	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	否
			時間数	15	開講セメスター	後期		
目 的	高齢化が進行し慢性病が増加している社会における看護管理者として、慢性病患者が自分らしく生活するようになりハビリテーション指導・援助ならびに生活指導・援助に関する技術を、看護職者が獲得し継続するような教育支援について学ぶ。さらに質の高い慢性病生活指導を実践できるようにするための看護システム管理について検討する。							
到 達 標	1 慢性病生活指導の現状と課題を理解する。 2 看護システム管理における慢性病生活指導に関する諸問題と方策を理解する。 3 継続した生活指導を可能にする看護職者への教育支援と看護システムを理解する。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1	慢性病生活指導論の学習目標と学習課題	看護システム管理学における慢性病生活指導論の位置づけを論述し、学習目的、目標を概観する						酒井
2	慢性病をもつ人	慢性病の特徴と患者のニーズに関して、看護理論などを用いて様々な側面から論述する						
3	慢性病と患者教育	慢性病の患者教育に関する基本的な知識と協働的パートナーシップによるケアについて論述する						
4	さまざまな慢性病の生活指導の現状と課題① 脳血管障害	脳血管障害に関する患者教育・生活指導の現状と課題に関して論述する						
5	さまざまな慢性病の生活指導の現状と課題② がん	がんに関する患者教育・生活指導の現状と課題に関して論述する						
6	さまざまな慢性病の生活指導の現状と課題③ 糖尿病	糖尿病に関する患者教育・生活指導の現状と課題に関して論述する						
7	さまざまな慢性病の生活指導の現状と課題④ 統合失調症	統合失調症に関する患者教育・生活指導の現状と課題に関して論述する						
8	継続した生活指導を可能にする看護職者への教育支援と看護システム	慢性病生活指導に関する自己の関心に応じて学習課題に示した内容について、文献、実践での経験などを踏まえてレポートにまとめ、プレゼンテーションを行い、質疑応答を行う						
成績評価基準	参加状況（50%）、レポート（20%）、プレゼンテーション（30%）により総合的に評価する							
教科書参考書等	ピエール・ウグ編：慢性疾患の病みの軌跡。医学書院、1995。 ナンシー・I・ホイットマンほか：ナースのための患者教育と健康教育。医学書院、1996。 ローリィ・N・ゴッドリーブほか：協働的パートナーシップによるケア 援助関係におけるバランス。エルゼビアジャパン、2007。そのほかの資料は授業中に提示する							
備 考								

授 業 目 的	基礎情報活用論 I Fundamental Informatics in Nursing Care System Management I	責任教員 緒方 泰子	単位数	1	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	否
			時間数	15	開講セメスター	前期		
目 的	看護管理者として問題解決を行なうために、情報を要領よく整理し、正確に捉えることができる。							
到 達 目 標	1. 必要な情報を、客観的に吟味して活用できる。 2. 基礎的な技術を使って量的な情報を分析できる。 3. 基礎的な技術を使って質的な情報を分析できる。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 員
1	オリエンテーション	授業の目標、構成、進め方について説明する。 文献を通じた看護管理における情報活用の方法論について概説する。						永野 緒方 予定教員
2～3	先行研究の読解	先行研究を読み、看護管理上必要な情報を客観的に把握する方法を演習する。						
4～5	量的データの整理	看護管理に関わる課題を量的データとして収集し整理する基本的方法を概説し演習する。						
6～7	質的データの整理	看護管理に関わる課題を質的データとして収集し整理する基本的方法を概説し演習する。						
成績評価 基 準	授業への参加 30%，課題レポート 70%							
教科書 参考書 等	随時提示する。							
備 考								

授 業 目 的	基礎情報活用論Ⅱ Fundamental Informatics in Nursing Care System ManagementⅡ	責任教員 永野みどり	単位数	1	必修・ 選択		科目等 履修生	否
			時間数	15	開講セメスター	前期		
目 的	看護管理者として、問題解決に活用できるよう、多様な情報を分りやすく伝える論述力を養う。							
到 達 目 標	1. 複雑な情報を概観し、特徴や目的に応じて論理的に整理できる。 2. 臨床現場における様々な事象を、的確にわかりやすく論述できる。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
1～2回目	理解し易い文章 論理的な報告書の構成 パラグラフ 文章の目的と構成 情報の取捨選択 情報のつながり	人間の記憶や情報処理の特徴から、理解と理解し易い文章について概説し、演習する。						永野 緒方 予定教員
3～4回目	論文の体裁 簡潔な文章 用語や略語 文献の引用をした文 文献リスト	目的に応じた文章の構成や正確な表現方法について概説し、演習する。						
5～6回目	図式化による概念化 論旨の決定 文章構成	看護管理にかかわる複雑な情報を論理的に整理して、報告書を作成する。						
7回目	論旨の一貫性の自己点検	論文を点検し批判することを、演習する。						
成績評価 基 準	授業への参加 30%，課題レポート 70%							
教科書 参考書 等	随時提示する。							
備 考								

授 業 目 的	CNSのための最新病態学 Clinical Pathobiology for Certified Nurse Specialist	責任教員 岡田 忍	単位数	1	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	可
			時間数	15	専門看護師強化コース	前期		
目 的	看護の対象者の病態を細胞、組織、さらには遺伝子レベルで生じている現象と結びつけることにより、より深く理解する。							
到達目標	代表的な疾患の病態について細胞や組織のレベルで述べるができる。							
回数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担当 教員
1～3回	病変をカテゴリーに分け基礎的な知識を習得する	人の体を構成する細胞・組織に対して何らかの障害が加わった時に生じる病変やそれに対する生体の反応は、いくつかのカテゴリーに分けて考えることができ、このカテゴリーと病変の起きている組織・器官の特徴を統合して考えることによって、対象者の病態の理解は容易になる。						岡田忍

授 業 目 的	CNSのための最新薬理学 Basic & Clinical Pharmacology for CNS	責任教員	単位数	1	必修・選択		科目等 履修生	可 前 期 修 生	
		山田 重行	時間数	15	専門看護師強化コース	前期 集中			
目 的	薬理学の基本的事項について、「何故そうなるのか」、「何故そうするのか」と問い直し、その答えを物理学、化学、人体構造学、生理学、生化学、分子生物学、病態学、などの諸知識を統合することで導き出す。この統合作業を基に、薬物と生体の相互作用や薬物の作用機序に関する最新知識を習得する。さらに薬物の臨床応用の実際と問題点を学習する。								
到 達 目 標	疾病の治療や予防に用いられる薬物療法に関して、処方の理由と服薬の必要性、副作用の説明を患者さんに分かるように、臨機応変に不安をもたせないように行える能力を身につける。								
回 数 (1回90分)	学 習 課 題		学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 教 員	
1 回	・薬物使用に対する基本的考え方 ・薬物作用の要点		1	・「基本的に薬は飲まない方がよい」という考えをどう捉えるかー催眠薬のむずかしさ、風邪に抗生剤は効かない ・薬物受容体 ・受容体-伝達器-効果器の関係 ・Gたんぱく質を介する生理作用の発現 ・β受容体とサイクリックAMP ・薬物の適用方法と血中薬物濃度					山田重行
2 回	・薬物の臨床応用の実際		2	・胃がん手術後に在宅で抗がん剤TS-1を服用している患者さんの心配事 ・網膜剥離患者が見た看護師の行う与薬管理の実態 ・高血圧症の薬物治療と降圧薬使用の実際					山田重行
3 回			3	・「抗ヒスタミン薬は前立腺肥大の患者には禁忌」、「非定型抗精神病薬が副作用を起こしにくい理由」、「慢性腎不全透析患者における二次性副甲状腺機能亢進症の薬物治療」を題材として学ぶ薬物作用の複雑さ ・副腎皮質ホルモン薬の作用と副作用 ・プロスタグランジンと臨床応用 ・発熱の機序と解熱鎮痛薬					山田重行
4 回			4	・新しいタイプの糖尿病治療薬 ・新しいタイプの抗悪性腫瘍薬 ・モルヒネの依存性ー痛み止めとして投与する場合は依存症にならない？ ・時間薬理学					山田重行
5 回	・漢方薬の要点と問題点		5	・漢方治療と証および漢方方剤 ・生薬と精製薬との質的相違 ・漢方薬と腸内細菌 ・薬と食品の相互作用 ・高齢者併用禁忌薬剤					山田重行
6・7 回	・薬物使用の陥穽 ・薬物の安全・適正使用と問題点		6～7	医薬品の安全で適正な使用のための薬の最新情報の提供と解説					非常勤講師 (浜六郎)
成績評価 基 準	出席状況および課題レポートの提出をもって評価する。								
教科書 参考書 等	1) 標準薬理学第6版 鹿取信、今井正、宮本英七 編集 医学書院 (2001/4) 2) NEW薬理学改訂第5版 田中千賀子、加藤隆一 編集 南江堂(2007/5) 3) Principles of Pharmacology: The pathophysiologic Basis of Drug Therapy 2nd Edition David E. Golan, Armen H. Tashjian, Jr, Ehrin J. Armstrong, April W. Armstrong eds Lippincott Williams & Wilkins (2007/4) 4) 日常内科疾患の実践的処方集 日本臨床内科医会編 文光堂 (2006/9) 5) 「患者の訴え・症状からわかる薬の副作用」大津史子、浜六郎共著 じほう(2007/4) 6) 「薬のチェックは命のチェック」各号 (毎月特集テーマあり) 浜六郎編集 7) 「薬害はなぜなくなるらないか」浜六郎 日本評論社								
備 考	責任教員が作成した電子テキスト「薬理学ー専門看護師養成コースー」をCDで無償配布するので、講義室でできるように各自パソコンを携帯することが望ましい。								

授 業 科 目	組織における高度実践看護論 Advanced Nursing Management in Organizations	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等 履修生	否
		手島 恵	時間数	30	専門看護師強化コース	通期 集中		
目 的	組織における専門看護師の高度看護実践、経営や管理への役割について学ぶと共に、自らがもつ組織の課題を解決するための研究手法を学ぶ							
到 達 標	・組織における看護の質向上に向けた専門看護師の役割を理解する ・看護の質向上に向けた組織の看護管理の実際を理解する ・専門看護師が組織の経営にどのように参画できるかを理解する ・組織の課題を解決するための研究方法を学ぶ ・自らがもつ組織の課題を解決するための研究計画が立てられる							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法					担 当 員	
6月●日(金) Ⅲコマ (1回)	オリエンテーション 組織における看護の質向上 に向けた専門看護師の役割	組織における看護ケアの質向上にむけた専門看護師の役割 ／高度看護実践について講義を通して学ぶ					手島恵 手島恵	
7月●日(土) 9:00-12:10 (2・3回)	多職種連携における専門看護 師の役割	多職種連携を実施している専門看護師からの講義を通して、 多職種連携における専門看護師の役割の実際を学ぶ					非常勤講師 (市原真徳)	
13:00-16:10 (4・5回)	専門看護師と組織の経営	組織の経営に積極的に参画している看護管理者から経営の 実際について講義を受け、専門看護師が組織の経営にどのよ うに参画できるか考察する					非常勤講師 (福井トシ子)	
7月●日(土) 13:00-16:10 (6・7回)	看護の質向上に向けた組織 の 看護管理の実際	看護の質向上に向けた組織の看護管理を行っている看護管 理者から、管理の実際と評価・課題について講義を通して学 ぶ					非常勤講師 (陣田素子)	
8月●日(金) Ⅱ・Ⅲコマ (8・9回)	組織の課題を解決するた めの 研究方法について学ぶ	看護実践の効果を研究を通して示している看護管理者／研 究者 から、看護の質改善のためのアウトカムリサーチにつ いて講義を通して学ぶ					非常勤講師 (荒木暁子)	
Ⅳコマ (10回)	自らがもつ組織の課題の明 確化	自らがもつ組織の課題を明確にし、プレゼンテーションや討 議を繰り返しながら研究計画を立案する					永野みどり 石橋みゆき	
10月●日(金) Ⅱコマ (11回)	自らがもつ組織の課題を 解決するための研究計画 立案と発表とデータマ ネージメント	組織の課題解決に向けた取り組みの効果を検証するために 必要なデータマネジメント方法を学び、自らの研究計画に 活用する					永野みどり 緒方素子 山本武志	
10月●日(金) Ⅲコマ (12回)								
12月●日(金) Ⅲコマ (13回)	研究計画案の発表と討議	自らの取組と結果をプレゼンテーションし討議する					永野みどり 石橋みゆき	
2月●日(金) Ⅲ・Ⅳコマ (14・15回)	研究計画の最終発表と討議	自らの取組みの経過と結果をプレゼンテーションし討議す る					永野みどり 石橋みゆき 非常勤講師 (荒木暁子)	
成績評価 基 準	講義出席状況、討議参加状況およびレポート、研究計画書で評価を行う							
教科書 参考書 等	・Mateo,M., Kirchihoff,K.: Research for advanced practice nurses: from evidence to practice, Springer Publishing Company, LLC,2009. ・Braden, Sidani : Evaluating Nursing Interventions, A Theory-Driven Approach, SAGE Publications, 1998 (荒木参考図書)							
備 考	博士後期課程に進学した際には、「看護学特論」の単位(2単位)として読み替えが可能。							

専門看護師強化コース（CNS）

授 業 科 目	コンサルテーション実践強化演習 Advanced Seminar in Consultation	責任教員 黒田久美子	単位数	1	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	可 前 期 修 了 生
			時間数	30	専門看護師強化コース	後期 集中		
目 的	実践の場において、質の高いケアを提供し組織のケアの質を向上させるために必要な対象、看護師、多職種に対するコンサルテーションの方法について学ぶ							
到 達 目 標	・組織の看護ケアの質向上に向けたコンサルテーションのプロセスについて学ぶ ・コンサルテーションの進め方、コンサルタントに必要な能力について学ぶ ・コンサルテーションを行う際に必要な医療情報の収集方法と、対象者への提供の仕方について学ぶ ・講義内容を活用しながら、自身のコンサルテーション事例を分析しプレゼンテーションする能力を養う							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
10月15日(土) Ⅰ コマ (1回)	オリエンテーション	・ 科目の進め方についてのオリエンテーション ・ 組織の看護ケアの質向上に向けたコンサルテーションのプロセスと学習課題について講義を通して学ぶ						黒田久美子
Ⅱ・Ⅲコマ (2・3回)	組織のなかでのコンサルテーション	・ 総合病院においてCNSが行うコンサルテーションの具体例を通して、組織の中でコンサルテーションを行う際に必要な能力について学ぶ（内部コンサルタント・外部コンサルタントとしての活動） ・ CNSが行うコンサルテーションの具体例を通してコンサルテーションの進め方、コンサルタントに必要な能力について学ぶ（領域、職位、実践の場の異なるCNSの多様なコンサルテーションの具体例から学ぶ）						非常勤講師 (添田百合子)
Ⅳコマ (4回) Ⅴコマ (5回)	CNSが行うコンサルテーション① CNSが行うコンサルテーション②							兼任講師 (瀬尾智美) 非常勤講師 (吉岡佐知子)
11月19日(土) Ⅰ コマ (6回)	医療情報の収集と提供	・ コンサルテーションを行う際に必要な医療情報の収集方法と、対象者への提供の仕方について学ぶ ・ 自身のコンサルテーション事例の分析を行い、今後のコンサルテーション実践に向けた課題を明確にし、実践の展開への計画を立てる						非常勤講師 (田中久美)
Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ コマ (7～10回)	コンサルテーション事例の分析と計画	自己学習						黒田久美子 兼任講師 (奥 朋子)
(11回)								
1月21日(土) Ⅰ～Ⅳコマ (12～15回)	コンサルテーションの事例分析のまとめ 発表と討論	・ 自身のコンサルテーション事例の経過と評価を分析し、まとめる。 ・ プレゼンテーションと討議を行う						黒田久美子 兼任講師 (奥 朋子)
成績評価 基 準	講義・演習への参加状況。事例のプレゼンテーションおよび事例分析レポート							
教科書 参考書 等	・ 桑田耕太郎、田尾雅夫著（1998）：組織論,有斐閣アルマ ・ 田尾雅夫（1999）：組織の心理学 [新版]、有斐閣ブックス ・ 井部俊子、勝原裕美子編（2004）：看護管理学学習テキスト② 看護組織論,日本看護協会出版会 ・ エドガー H. シャイン著、二村敏子他訳（1991）：キャリア・ダイナミクス,白桃書房 ・ ステファン.P ロビンス著,高木晴夫監訳（1997）：組織行動のマネジメント,ダイヤモンド社 ・ 佐藤郁哉、山田真茂留著（2004）：制度と文化 組織を動かす見えない力,日本経済新聞出版社 ・ 梶原豊、大矢息生、服部治編（2001）：情報社会の人と労働,学文社 その他、講義時に提示する。							
備 考	事例分析の際は、専門看護師認定審査提出書類の書式でまとめ、必要時、他の資料と共に提出する。 (初回は、同日に1～5回を講義予定であり、初回のみ公開講義として、外部の受講生を受け入れる予定です。)							

授 業 科 目	CNS研修 CNS Clinical Practice	責任教員 眞嶋朋子・森 恵美 中村伸枝・正木治恵	単位数	2	必修・ <u>選択</u>		科目等 履修生	否
			時間数	15	専門看護師強化コース	通期		
目 的	専門看護師養成の先進国である米国の最先端の医療施設において、専門看護師が行なう活動の実際を学び、専門看護師の役割・機能、および必要とされる能力について学ぶ							
到 達 目 標	米国の最先端の医療施設で行なわれるProgram(10日間程度)に参加し、米国における最新の医療・看護の中で活動する専門看護師ほか専門領域の看護専門職の活動の実際を通して、専門看護師の組織における位置づけや役割・機能および必要とされる能力について学ぶ。 上記で理解したことを、日本の現状や自身の臨床体験と比較し、専門看護師の組織における 位置づけや役割・機能および必要とされる能力について考察し、今後の課題や活動の方向性を明らかにする。							
回 数 (1回90分)	学 習 課 題	学 習 内 容 並 び に 方 法						担 当 教 員
10日間	専門領域の専門看護師に同行し、病棟や外来および関連施設などで研修を行い、専門看護師の組織における位置づけや役割・機能および必要とされる能力について学ぶ 1日8時間×10日 レポート作成10時間	研修施設： 1) がん看護、母性看護、小児看護 University of California at Los Angeles Health System 2) 老人看護 University of Michigan Health System 事前準備： 4月中旬には研修内容を焦点化し、英文で研修希望内容と履歴書を作成し、5月中旬に研修施設と調整を行なう。 研修内容： 専門領域の専門看護師と同行し、病棟や外来および関連施設などにおける活動に参加する 専門看護師の組織における位置づけや役割がどのように規定されているか調べる 看護管理者との連携や他の専門職との連携、リーダーシップについて活動を通して学ぶ 専門看護師の役割・機能について活動を通して具体的に学ぶ 専門看護師に必要とされる能力について観察や討議を通して学ぶ 研修記録： ・専門看護師の組織における位置づけ ・専門看護師の組織における役割・機能とリーダーシップ ・専門看護師に必要とされる能力 ・日本の現状や自身の臨床体験と比較して考察した今後の課題や活動の方向性						眞嶋朋子 森恵美 中村伸枝 正木治恵
成績評価 基 準	参加状況およびレポート							
教科書 参考書 等								
備 考	・博士後期課程に進学した際には、「看護学特別演習」の単位（2単位）として読み替えが可能 ・海外渡航のため、別途指示をする通り、各種手続き（英文履歴書等文書の作成、航空券・海外旅行保険の手配、Willへの加入、ESTA（電子渡航認証システム）の申請、費用の準備、結核検査、抗体価検査、健康診断等の実施と英文証明書作成）を行うこと ・英語能力が必要とされるため、研修前に語学研修等を積極的に活用し、英語能力を高めておくこと							

